

2-Bブロック

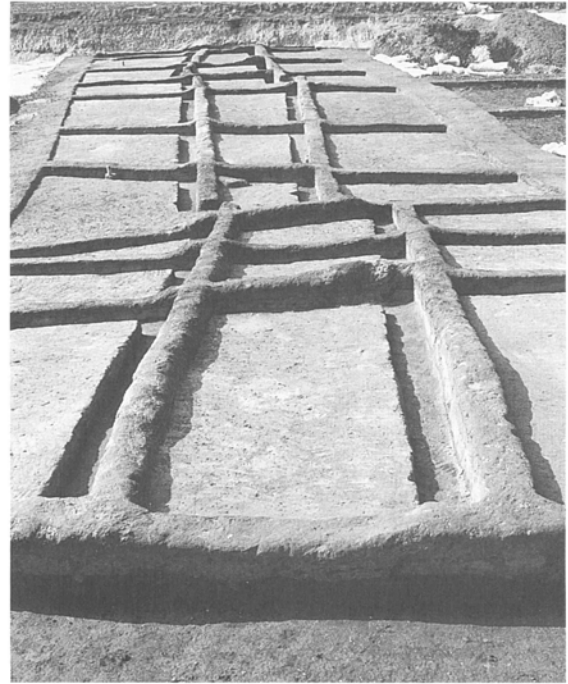
畦状遺構 5号畦：幅3.2m、高さ14cm、走向N-84°-W。谷を横断し、ほぼ直線的に伸びている。畦の中央部が低くなっており、2本の畦が並んでいるようである。この低い部分に特に焼土や炭化物が多い。丸岩1区4号畦と形態が類似しており、両者は約50mの間隔をあけてほぼ平行している。畦上の炭化物は、タケ亜科のものが含まれている。土層観察用のベルトを残して、畦全体を徐々に掘り下げたが、ピットなど人工の掘り込みは確認できなかった。

古い畦状遺構 2号古畦：調査区の北西隅から伸び

る畦で、5号畦との交点付近では、高まりはほとんどわからない。5号畦の断面Dでも痕跡は認められない。しかし周囲に比べて、全体的に炭化物の含有量が多い。跡跡 少ない。その他 畦以外の部分にもところどころに炭化物が散っている。



5号畦中の焼土

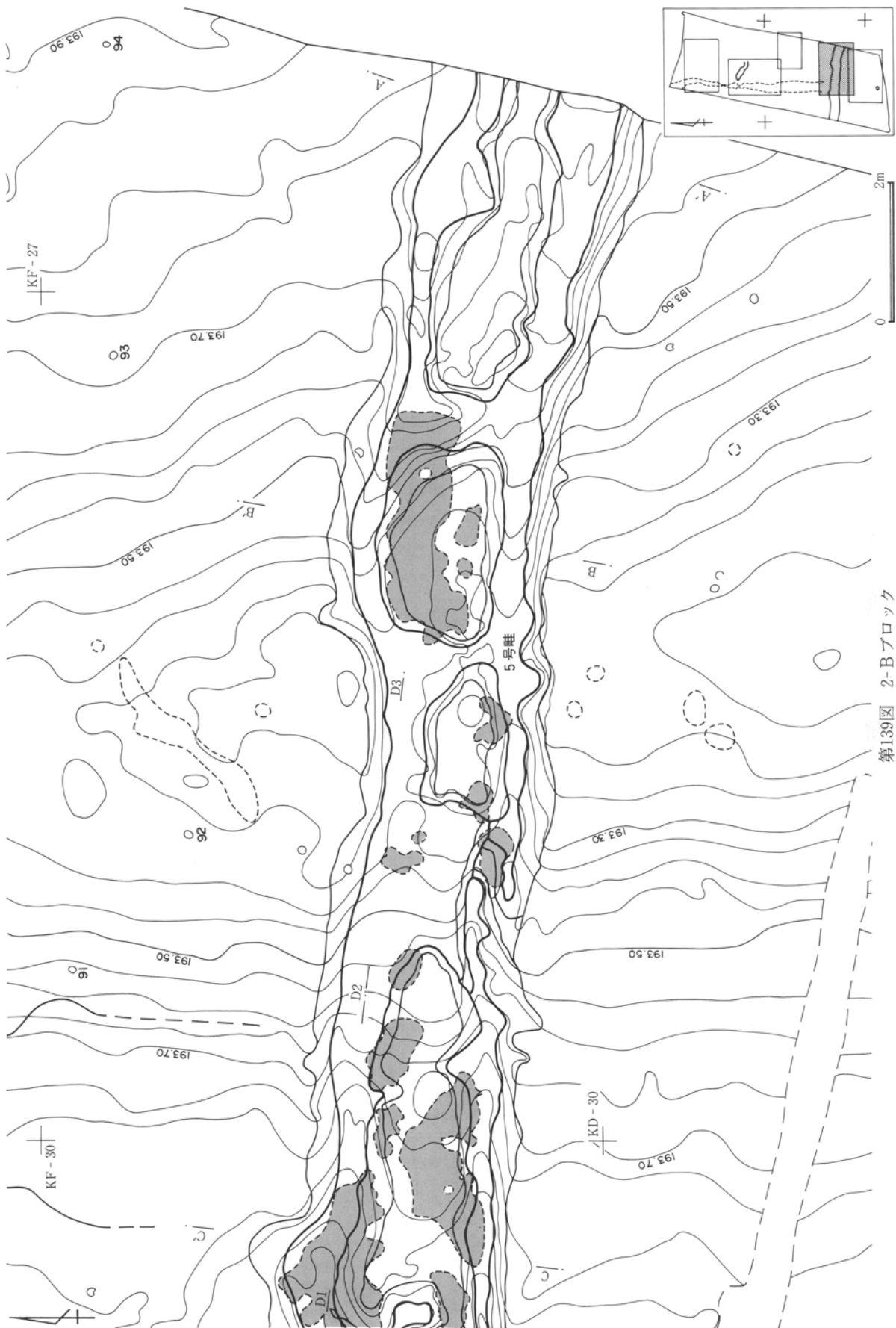


5号畦トレンチ全景（東から）



5号畦全景（西から）

第4節 白井丸岩遺跡



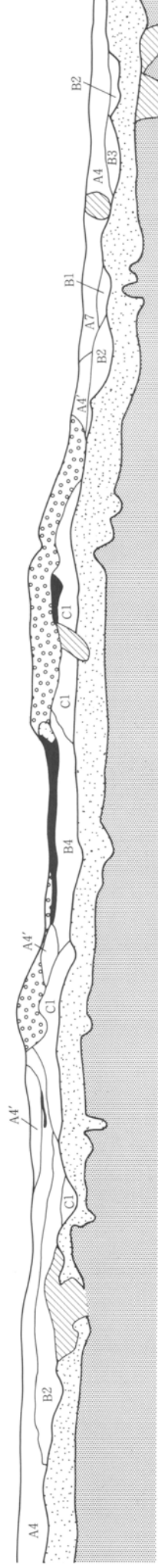
第139図 2-Bプロック

A. L=194.00m

5号畦



A'

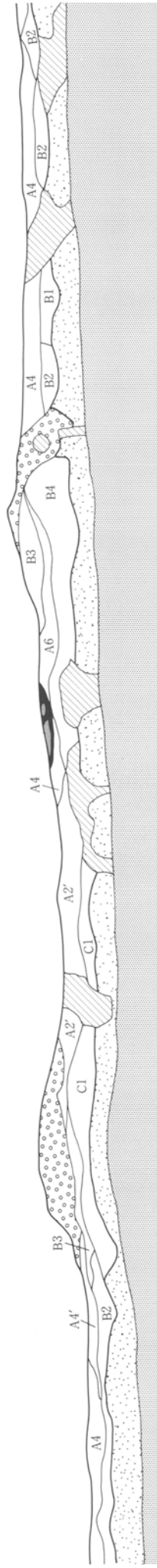


B. L=193.60m

5号畦



B'

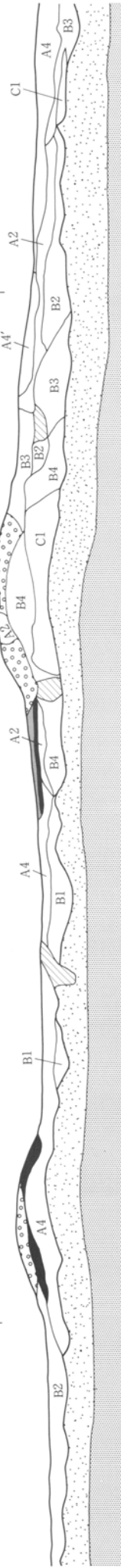


C. L=194.00m

5号畦



C'



第140図 5号畦断面図



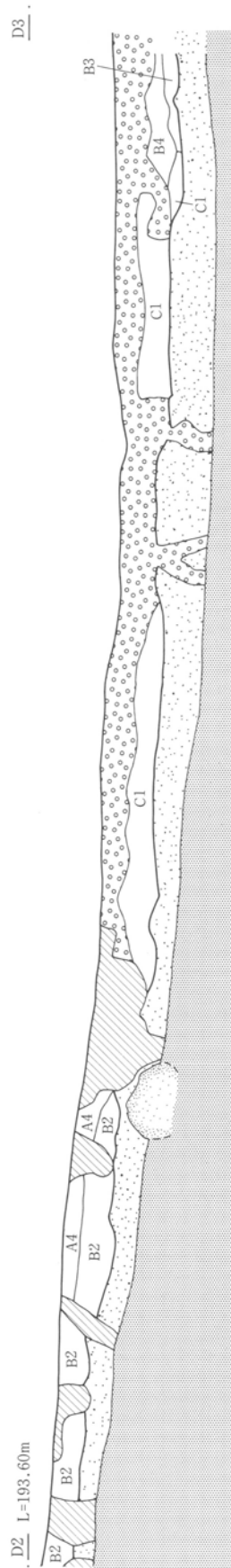
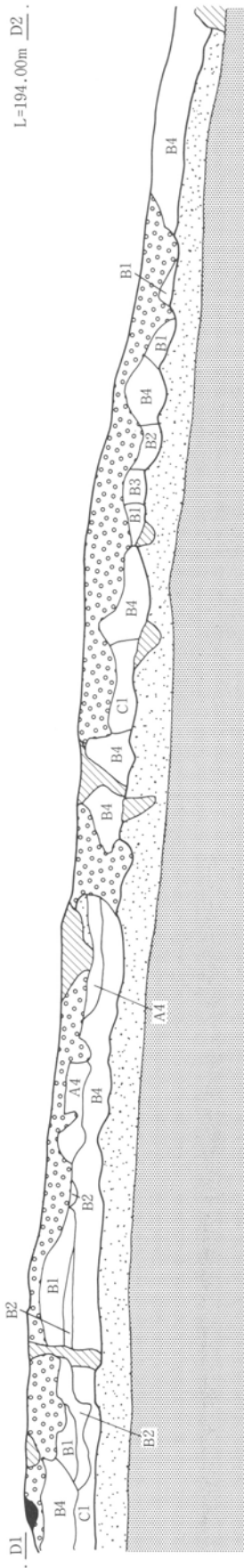
5号畦断面A (西から)



5号畦断面B (焼土・炭化物部分拡大) (東から)



5号畦断面C (炭化物部分拡大) (東から)



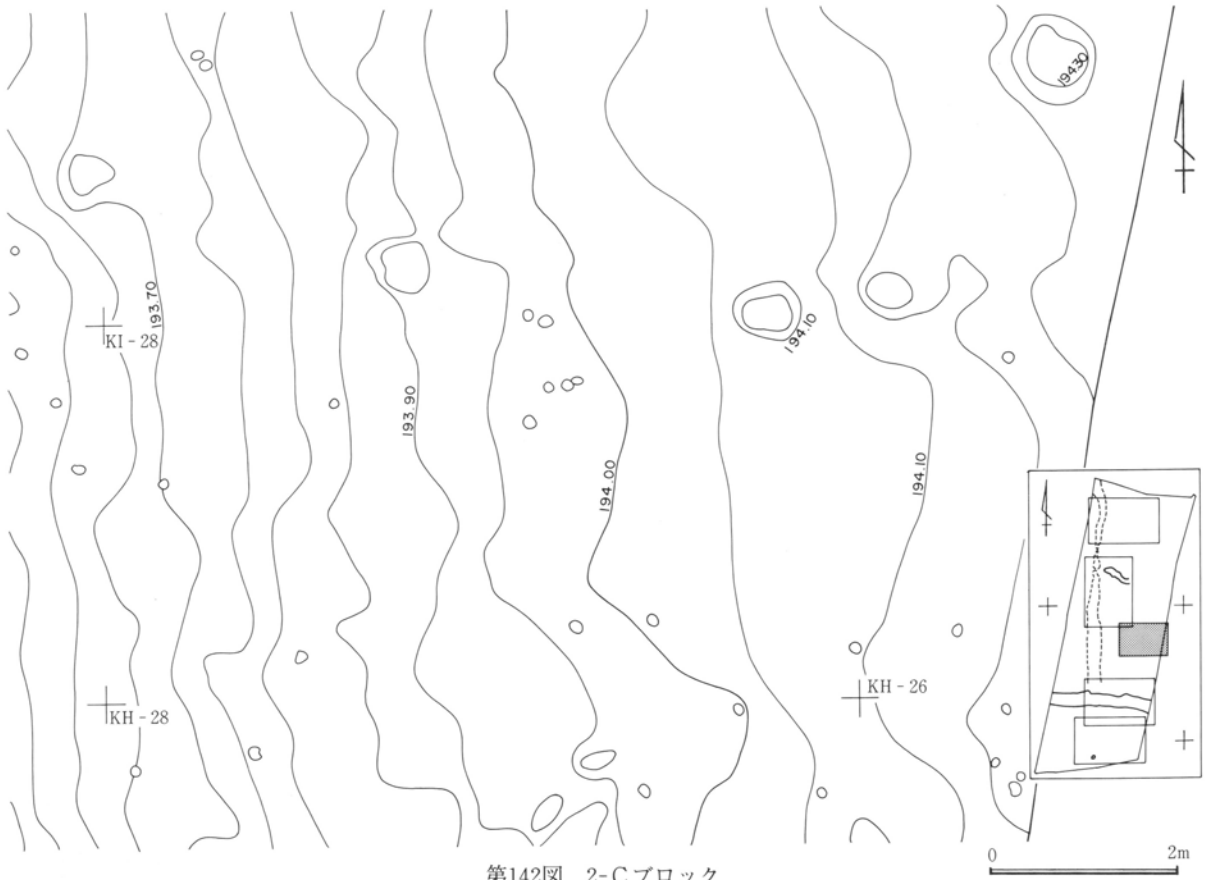
第141図 5号畦断面図



2-Cブロック

跡跡 少ない。特にKI-25グリッド付近では、確認されていない。 その他 この付近では、ススキ属

の根株の痕跡と思われる、円形の高まりがまとめて検出された。ただし、断面観察や植物珪酸体分析などを行っていないため、断定はできない。



第142図 2-Cブロック



2-Cブロック全景（円形の高まりが点在する）（北東から）

2-Dブロック

畦状遺構 6号畦：幅1.4m、高さ9cm、走向N-56°-W。KM-29グリッドに畦の一端があり、東に行くにつれて不明瞭になる。高まりは目立たなくなるが、痕跡は調査区東壁まで続く。畦上には焼土・炭化物があり、焼土の下に炭化物があることが多

い。炭化材の分析で、コナラ節のものが検出されている。古い畦状遺構 2号畦：走向N-3°-E。断続的に続く。高さは平均5cm程であるが、場所によっては、高さが8cmになる。焼土粒・炭化物粒を含む。蹄跡 少ない。2号畦上にも蹄跡がある。



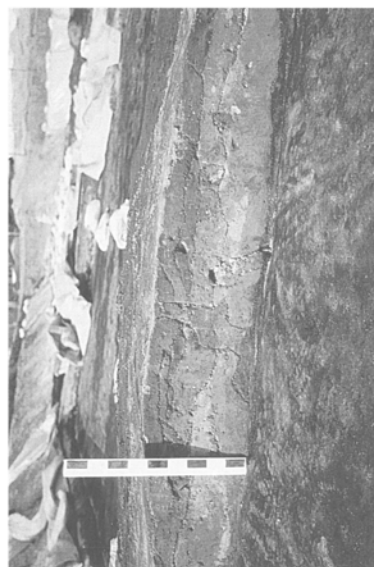
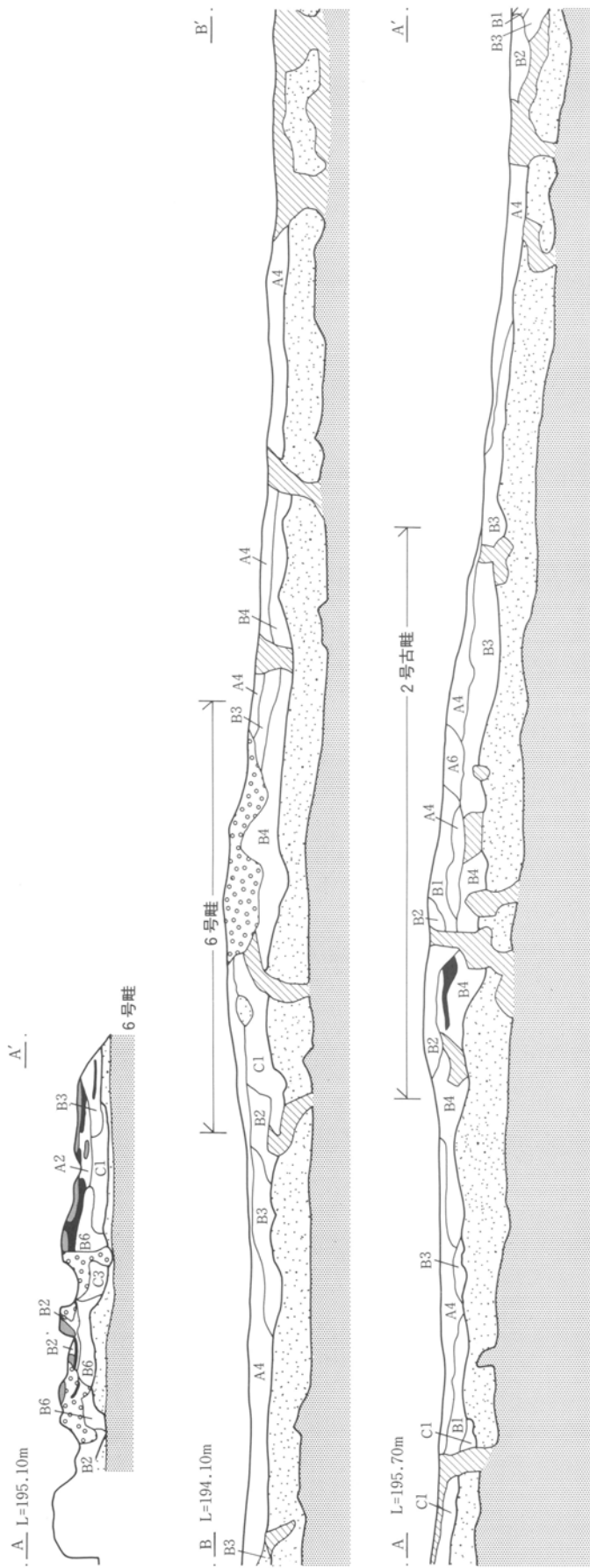
6号畦上の炭化物（北から）



焼土・炭化物集中範囲（西から）



2-Dブロック全景（西から）



2号古畦断面A (南から)

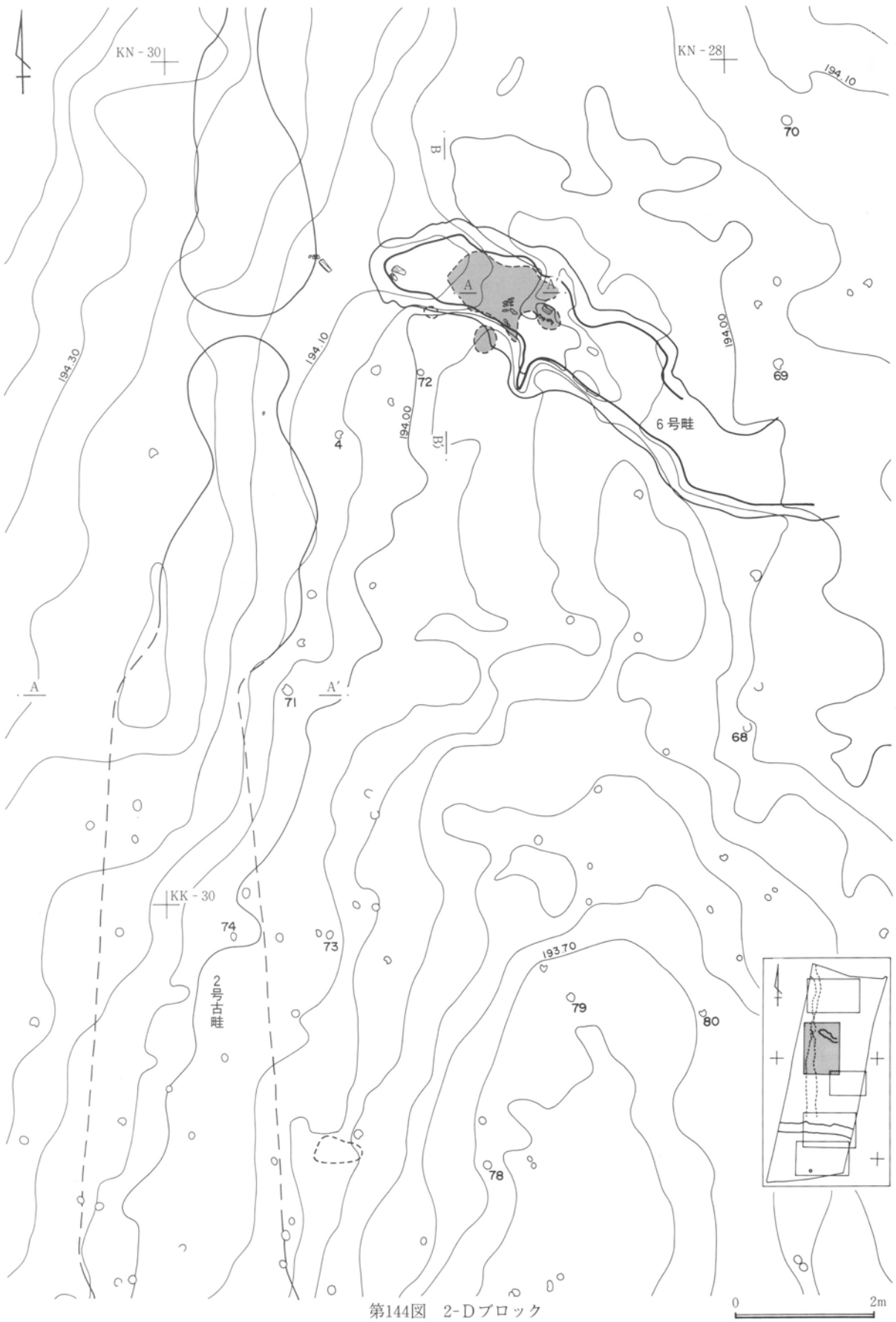


6号畦断面B (西から)

第143図 6号畦、2号古畦断面図



6号畦断面A (南から)



第144図 2-Dブロック

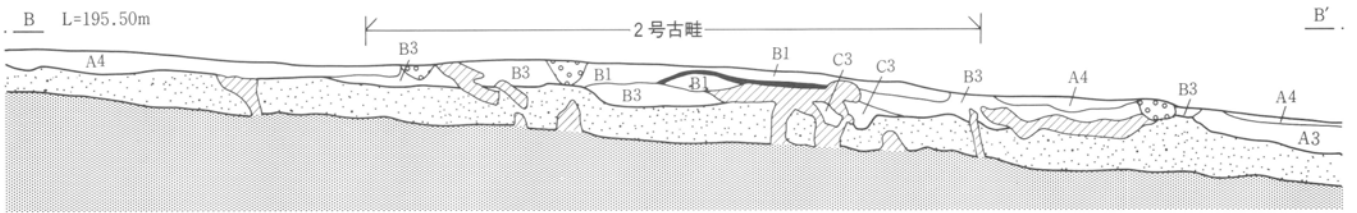
第3章 FP層下面の調査

2-Eブロック

古い畦状遺構 2号畦：幅1.6m、高さ5cm、走向N-2°-E。表面は滑らかで、内部に炭化物層を挟む。FP-FA間の土壌層を少し削ると、点々と炭化物や焼土が検出された。 蹄跡 ほぼ東西方向に、蹄跡が直線的に並んでいる。しかし、一連の歩行跡として認められるものはなかった。KP-30グリッドなどで小さい蹄跡が確認された。



2号古畦の焼土・炭化物分布（西から）



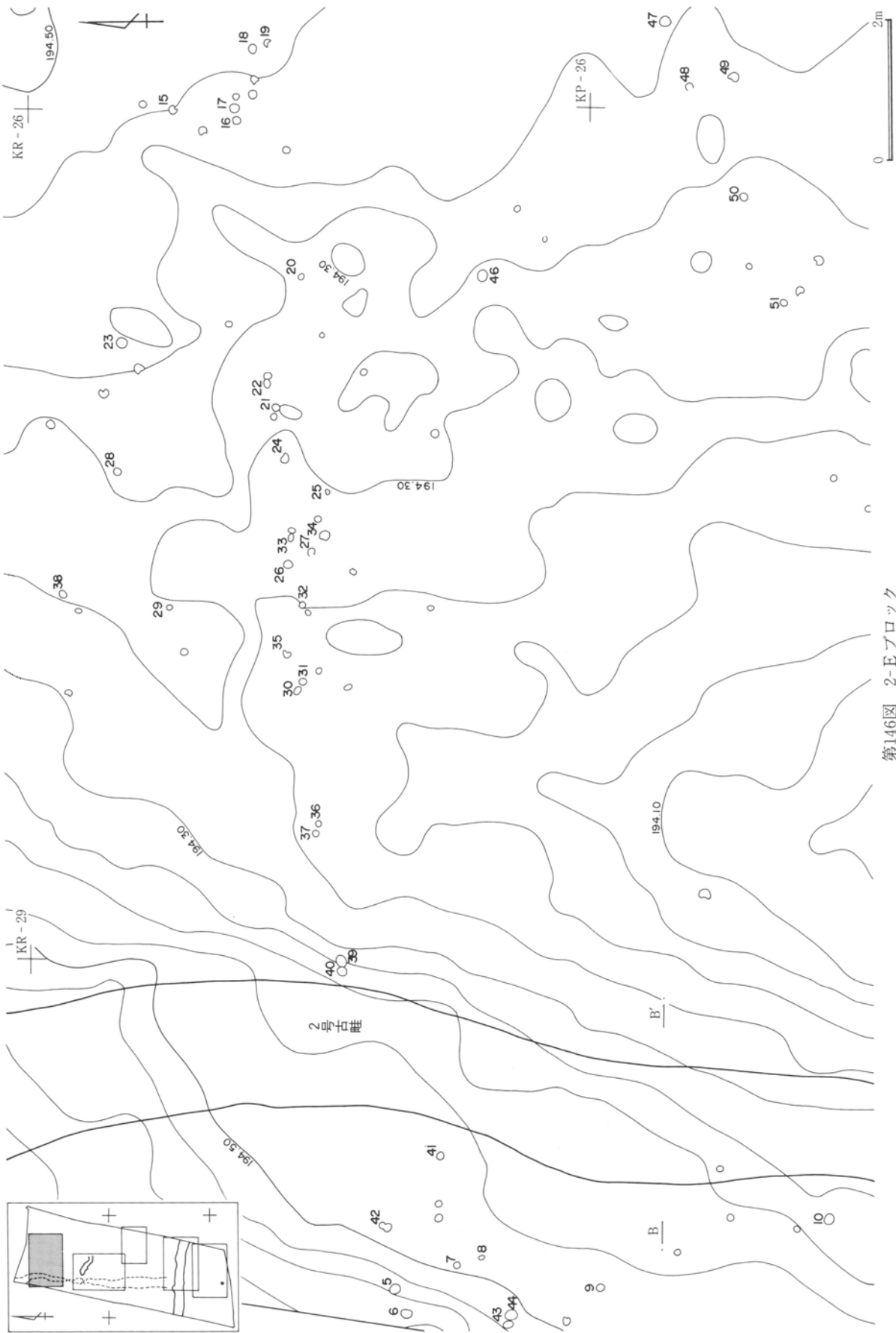
第145図 2号古畦断面図

丸岩2区畦セクション

遺構番号	断面番号	幅m	高さcm	FP混じり土	炭化物	焼土	FAの残存	FA下面の凹凸	その他
5	A	3.2	14	○	○	△	—	凸	
5	B	3.2	13	○	○	○	—	僅かに凸	
5	C	3.6	15	○	○	○	—	凸	
6	B	1.2	9	○	△	—	—	凸	この断面にはないが、焼土・炭化物あり。
2古	A	2.7	8	—	○	△	—	僅かに凸	畦上に蹄跡あり。
2古	B	1.6	5	△	○	—	—	僅かに凸	



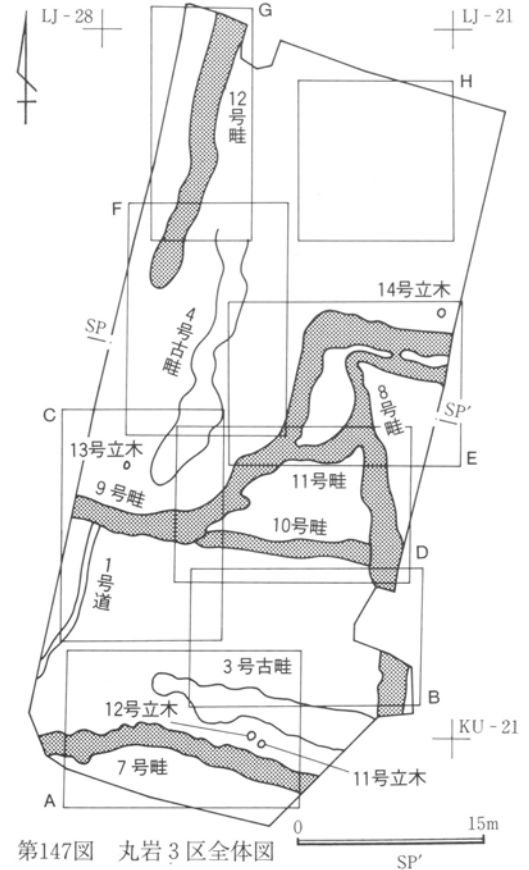
2-Eブロック全景（北から）



第146図 2-Eプロック

3区概要

微地形 概ね平坦であるが、調査区の西寄りが高く、中央部が僅かに低くなっている。
遺構 調査区の南寄り、ほぼ東西方向の走向をもつ畦状遺構が2本並んで検出された。その内の1本は古い畦状遺構である。調査区北西隅に、南へ伸びる畦があり、それと平行するように古い畦状遺構がある。調査区の中央部には、「入」の字を裏返したような形に、4本の畦が集まっている。また、南西部で道が1条検出された。
跡跡分布 全体的に少ないが、10号畦と3号古畦の間は、やや多い。畦状遺構の左右で、跡跡の分布に違いがある場合が多い。
地表面の様子 9号畦と8号畦に挟まれた部分とその南側では、地表面の色調が黒褐色であるが、9号畦の北側や8号畦の東側は、暗褐色で滑らかな地表面である。立木痕は4箇所を確認され、いずれも畦の脇にある。



第147図 丸岩3区全体図

SP L=195.50m



第148図 3区断面図

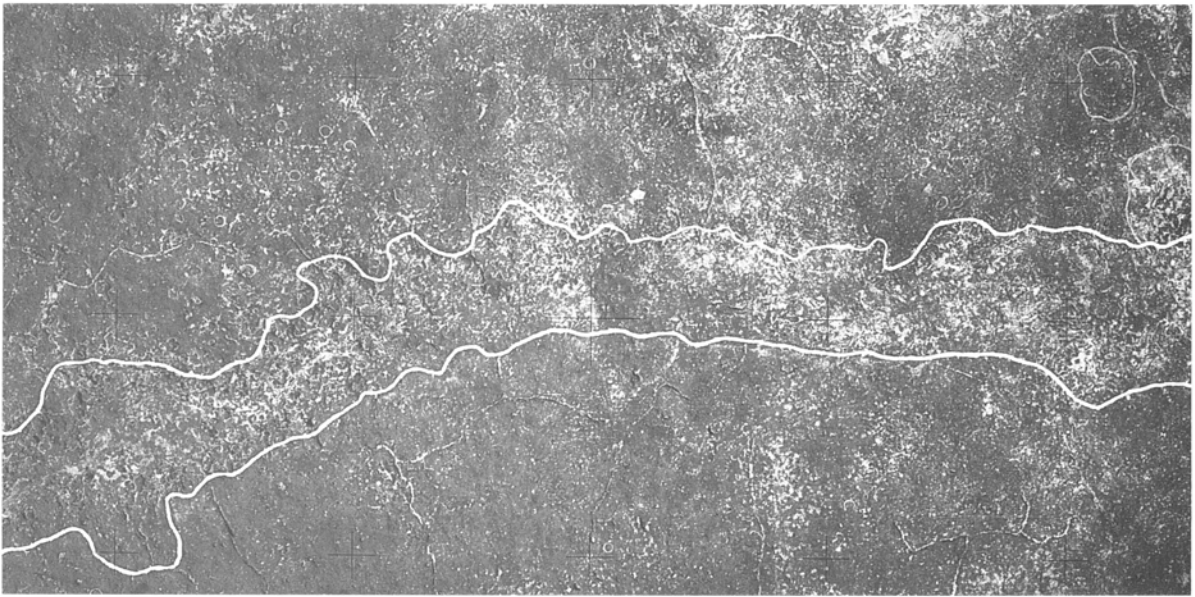


丸岩3区全景 (南から)

3-Aブロック

畦状遺構 7号畦：幅1.6m、高さ10cm、走向N-81°-W。FP混じりの土が畦の最上層を構成するが、その層がない場所があり、KT-26グリッドでは、帯状に畦を横切っている。断面Bでは、畦下のFA上面に落ち込みがあり、炭化物・焼土を含んでいる。
古い畦状遺構 3号古畦：幅1.6m、高さ6cm、走向N-78°-W。7号畦の北側に、ほぼ平行するように伸びる。
蹄跡 7号畦を境にして、南側では蹄跡は

ほとんど検出されなかった。北側でも数はさほど多くないが、明瞭に残っており、3号畦上にも蹄跡がある。
立木 11号立木：7号畦のすぐ脇で、径1.2m程の浅い落ち込みが検出された。根跡部分の土層はFPを含む。立木の部分だけFAの堆積が途切れている。12号立木：11号立木と隣接して、径65cm程の浅い落ち込みが確認された。
その他 7号畦の南側には、円形の僅かな高まりが、多数見られた。これらはススキ属の根株痕跡と類似する。



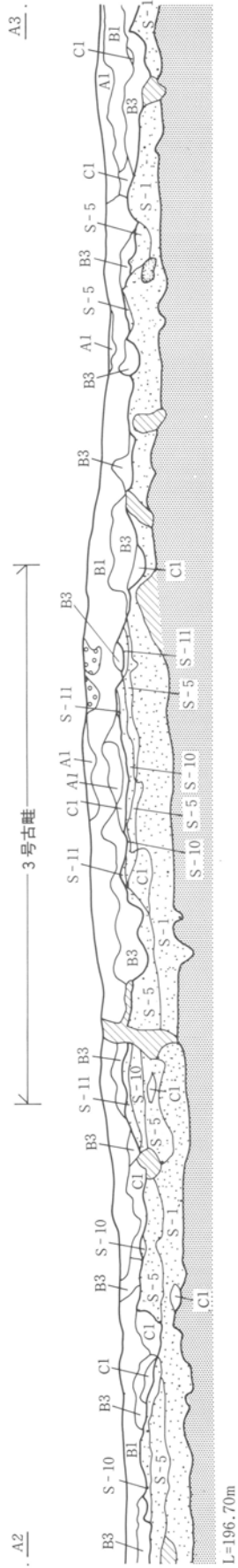
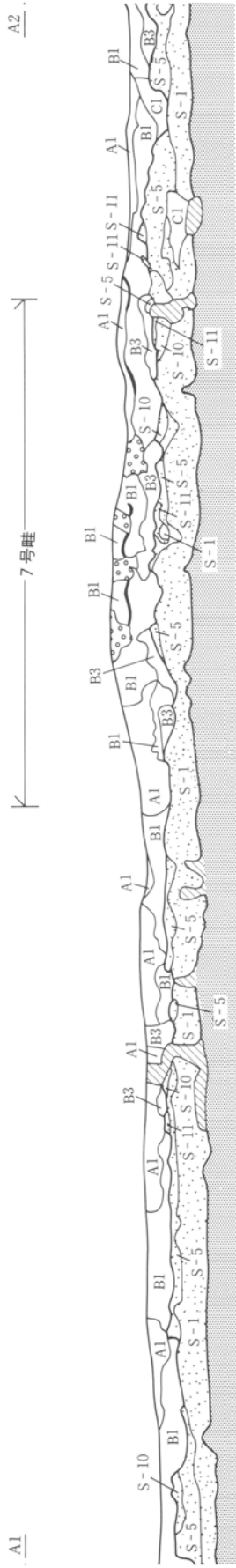
3-Aブロック（上から）



3-Aブロック（実体視用）

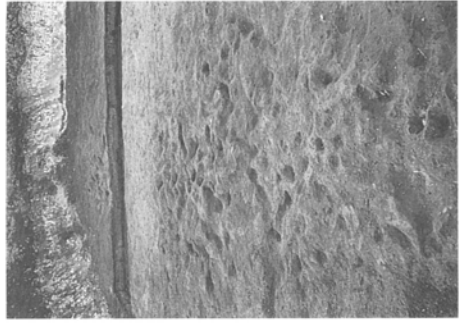
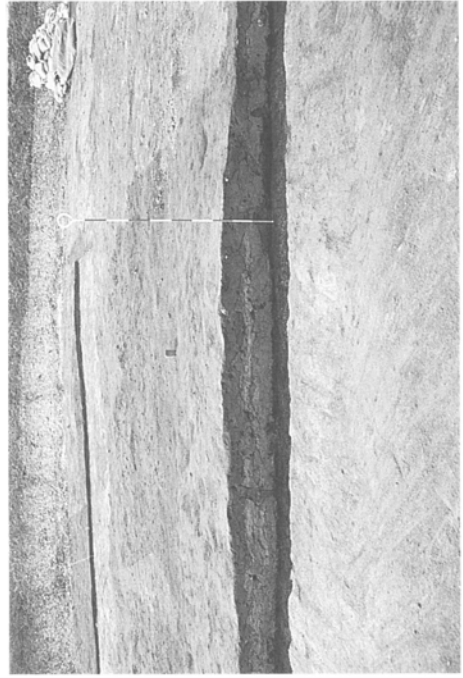
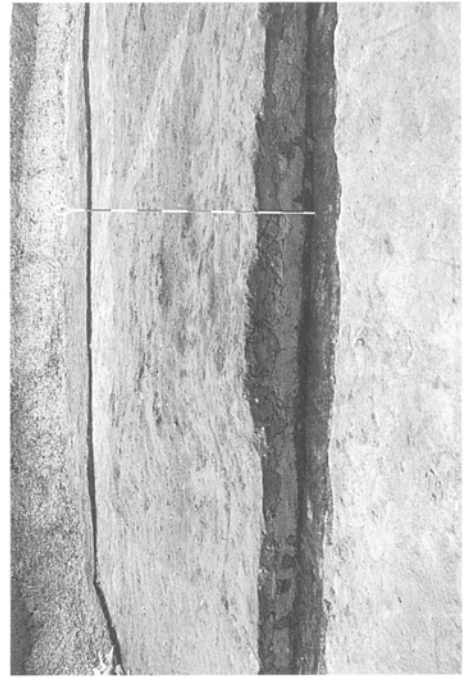


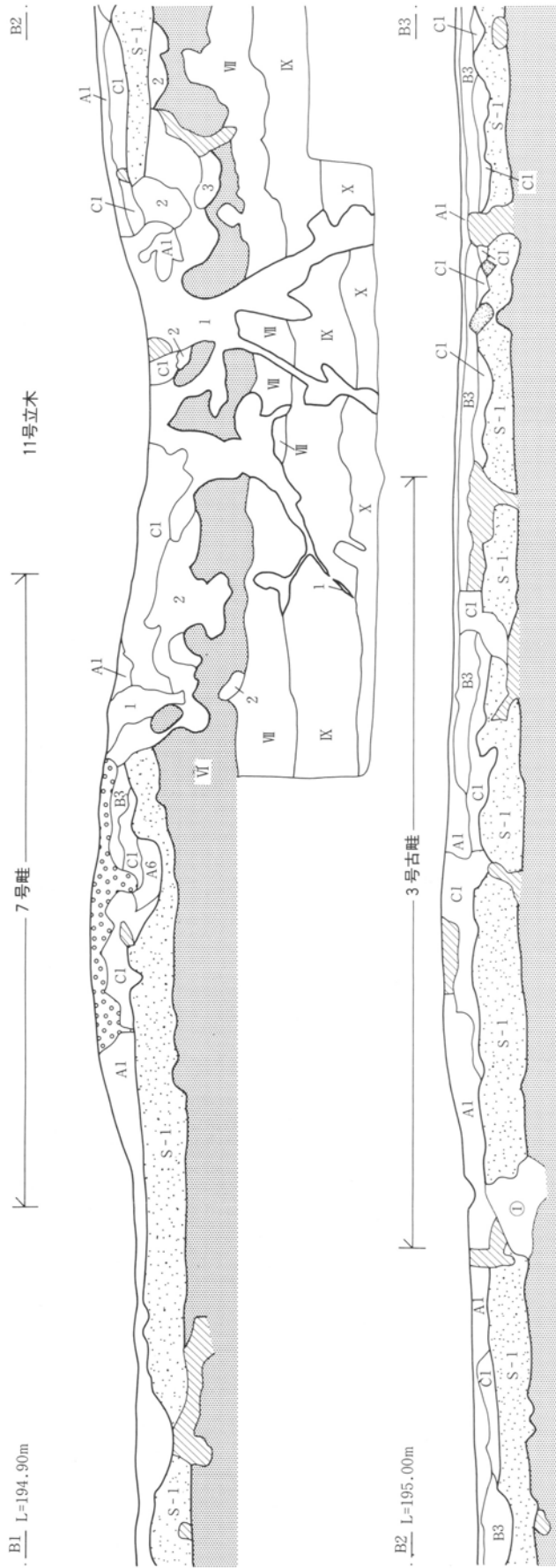
第149図 3-Aプロック 破線は、株痕と思われる高まり部分



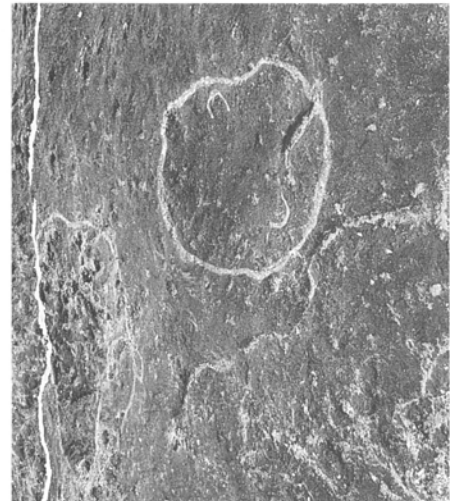
第150图 7号桩、3号古桩断面图

0 50cm





第151図 7号畦、3号古畦、11号立木断面図



11号・12号立木 (北から)



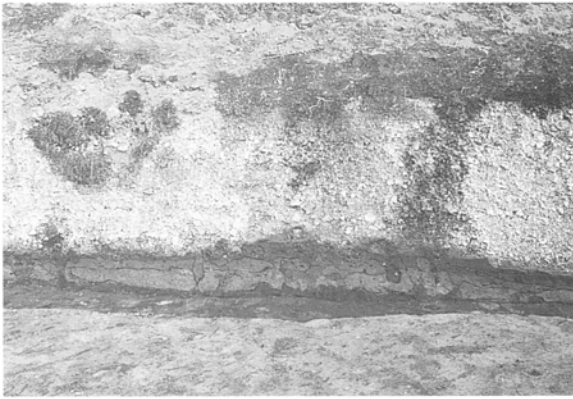
7号畦断面中の焼土・炭化物

- 11号立木
- 1 暗褐色土。FPを含む。締まり弱い。
 - 2 黒褐色土。基本土層VI層主体。暗褐色土を少量含む。
 - 3 暗褐色土。基本土層VII層主体。
 - ① 暗褐色土。基本土層VI層を含む。樹木の幹跡 (p363参照)。

3-Bブロック

畦状遺構 8号畦：幅2.2m、高さ12cm、走向N-2°-W。炭化物の薄層を挟む。 **蹄跡** 残存状況が良く、数量もKW-25グリッド付近でやや多い。KV-25グリッドの一郭を、シリコン樹脂を用いて型どりし、現状保存してある。 **その他** 8号畦の西側に、植物痕の多い、帯状の僅かな高まりがある。8号畦断面Bでは、この高まり部分のFAの残存が良く、古い畦の可能性がある。また、このブロックは地表面の色調が黒みを帯びており、植物痕が良く残っている。円形の僅かな高まりが、点々と存在する。KW-23グリッ

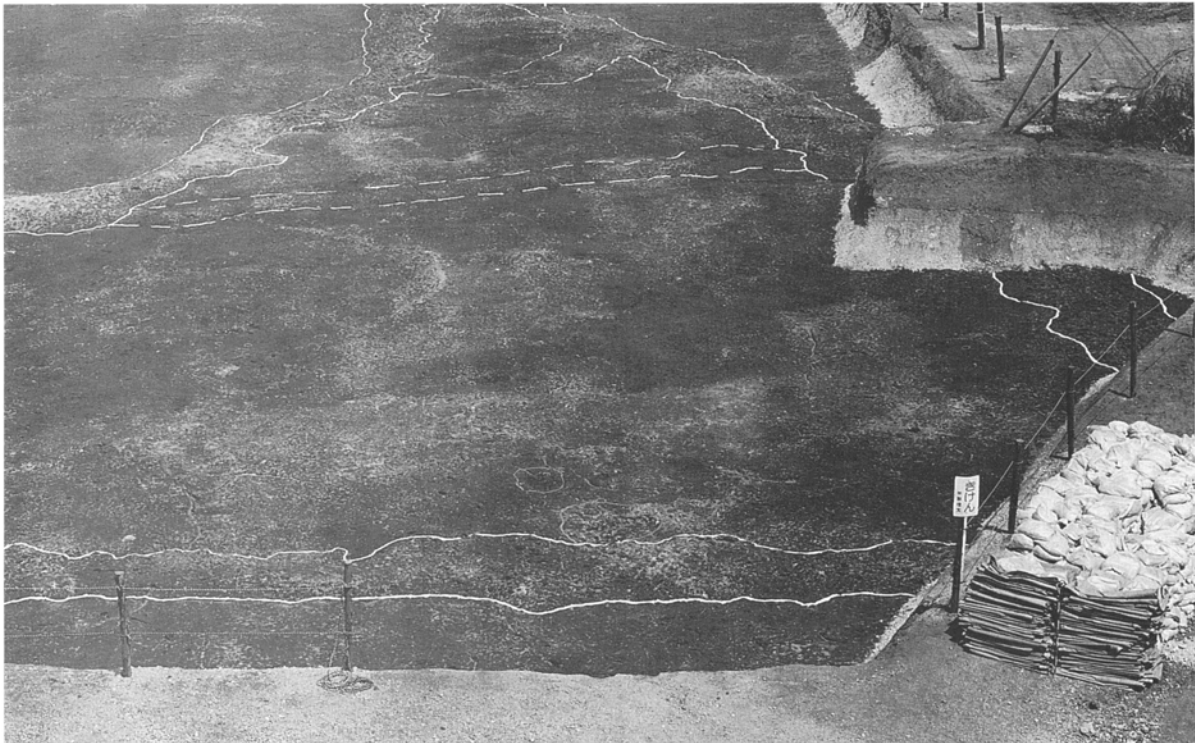
ドでは、地表面の土壤に周囲より多くFPが混じる。



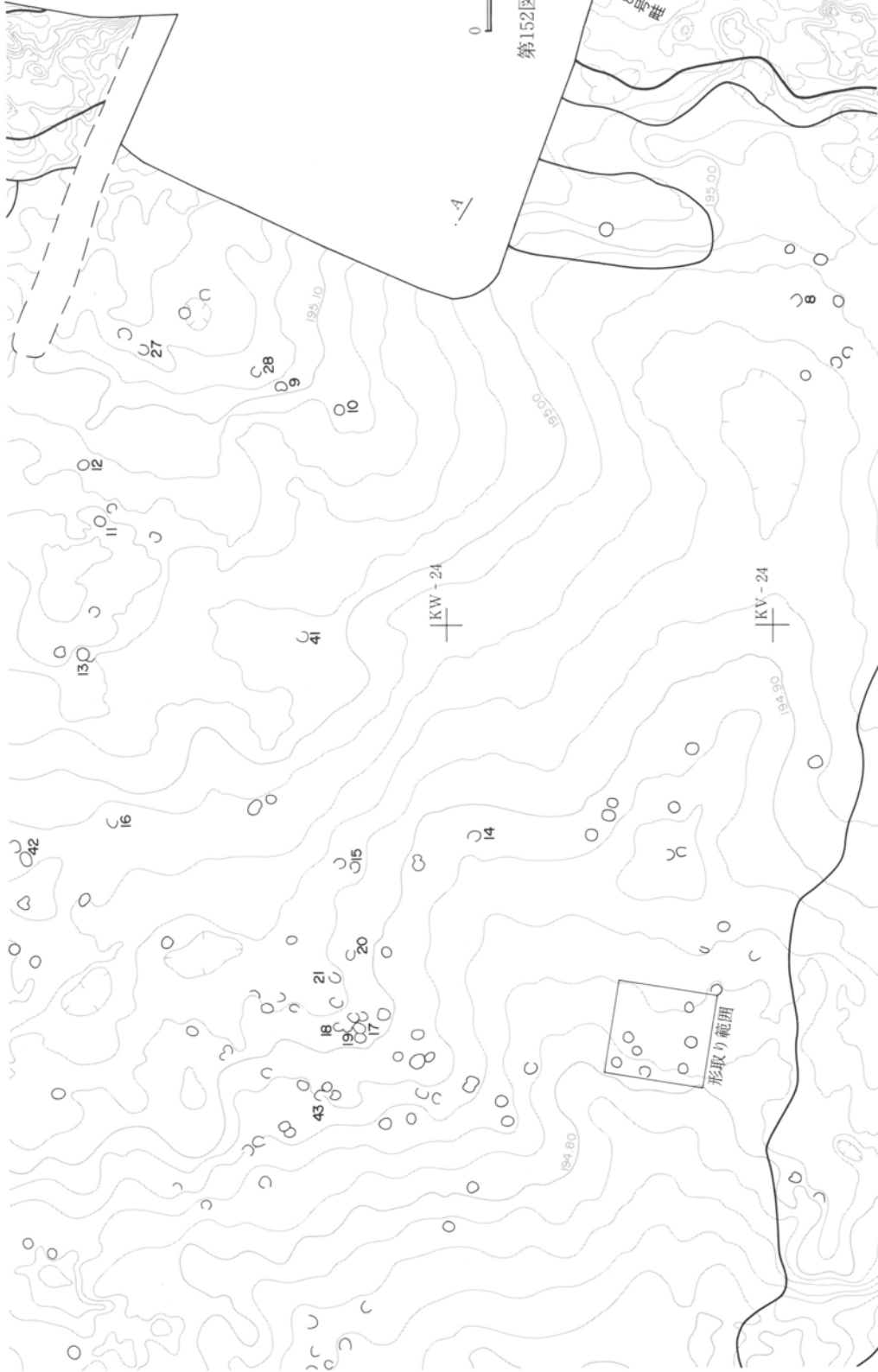
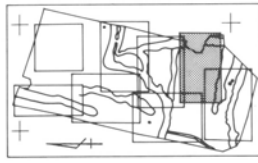
8号畦断面A (南から)



蹄跡 (白線記入後) (南東から)

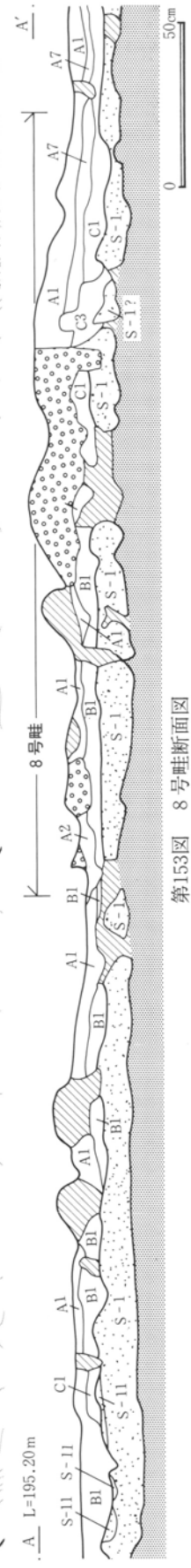


3-Bブロック全景 (南から)



KW-22
0 2 m

第152図 3-Bブロック

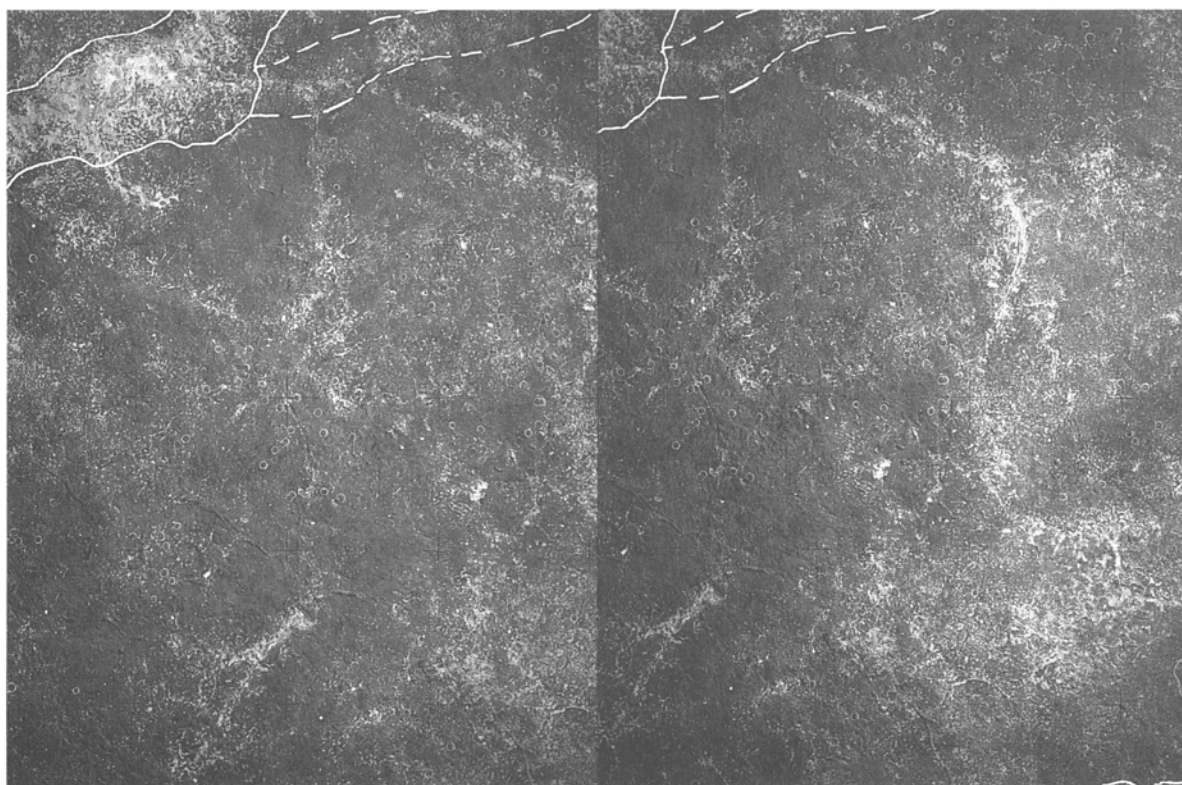


A L=195.20m

第153図 8号畦断面図



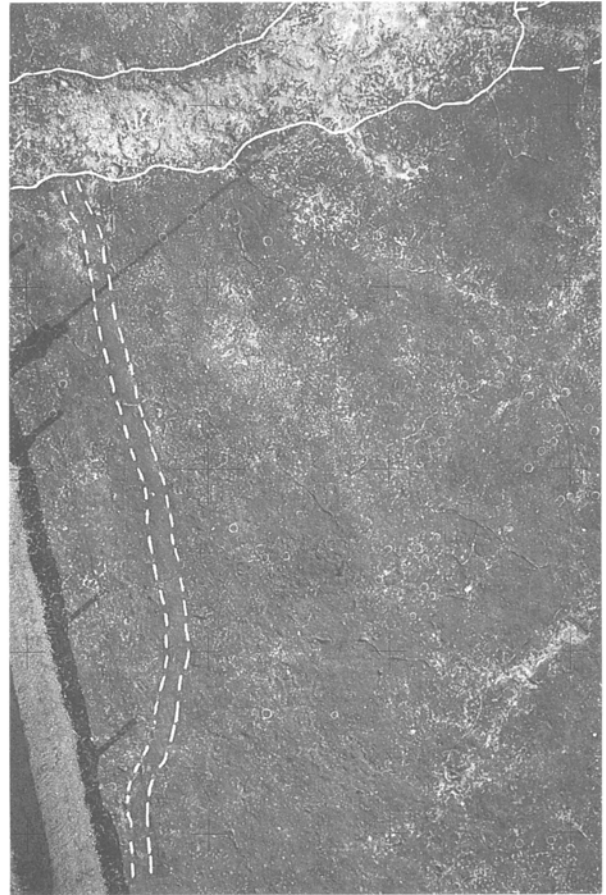
3-Bブロック西部（上から）



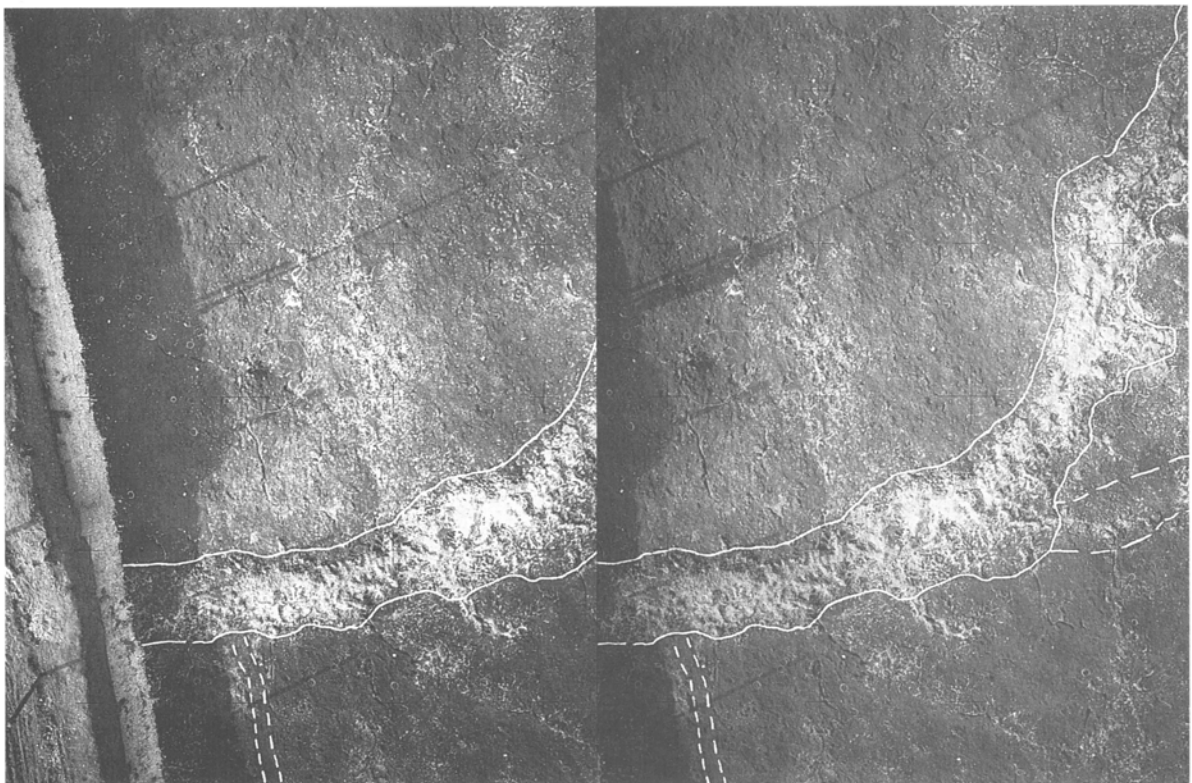
3-Bブロック（実体視用）

3-Cブロック

畦状遺構 9号畦：幅1.8m、高さ19cm、走向N-78°-W、N-47°-E。畦の上面の凹凸が激しい。KY-26グリッドで向きを変え、そこから10号畦が分岐している。この付近の9号畦は、FA-FP間の土壌層中に黑色灰層を挟んでいる。**古い畦状遺構** 4号畦：幅2.4m、走向N-35°-E、9号畦の手前で不明瞭になる。**道** 1号道：幅30cm、走向N-11°-Eで、僅かに凹んでいる。路面は平坦で、硬化しているが、南に行くに連れて、それが不明瞭になる。9号畦と交わるところで、道は途絶えており、北側へ伸びる形跡は確認されなかった。**蹄跡** 9号畦の南側でやや多い部分があるが、他は少ない。**立木** 13号立木：径約1.5m、深さ約20cmのすり鉢状の落ち込みが確認された。断面図はFA下面以下しか記録されてないが、根跡部分の土層はFP・FAを含む。**その他** 9号畦の南側と北側で、地表面の色調が異なり、南側の方が黒みが強い。また、9号畦の両側で、円形の僅かな高まりや、凹み、FP混じりの土の僅かな高まりなどが見られる。



3-Cブロック南部（上から）



3-Cブロック（実体視用、畦の凹凸や立木の窪みがよくわかる。）

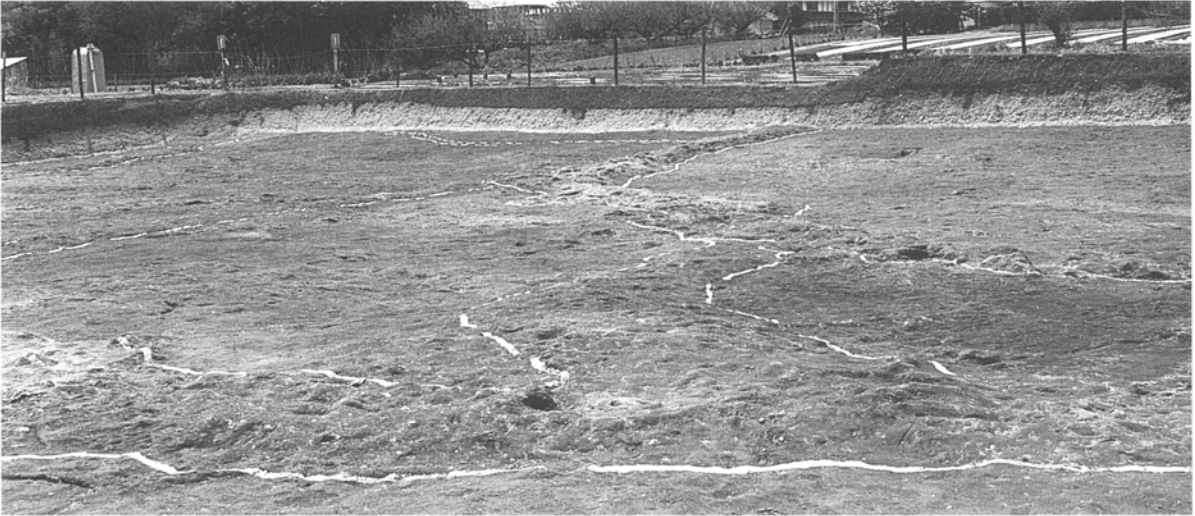


第154図 3-Cブロック

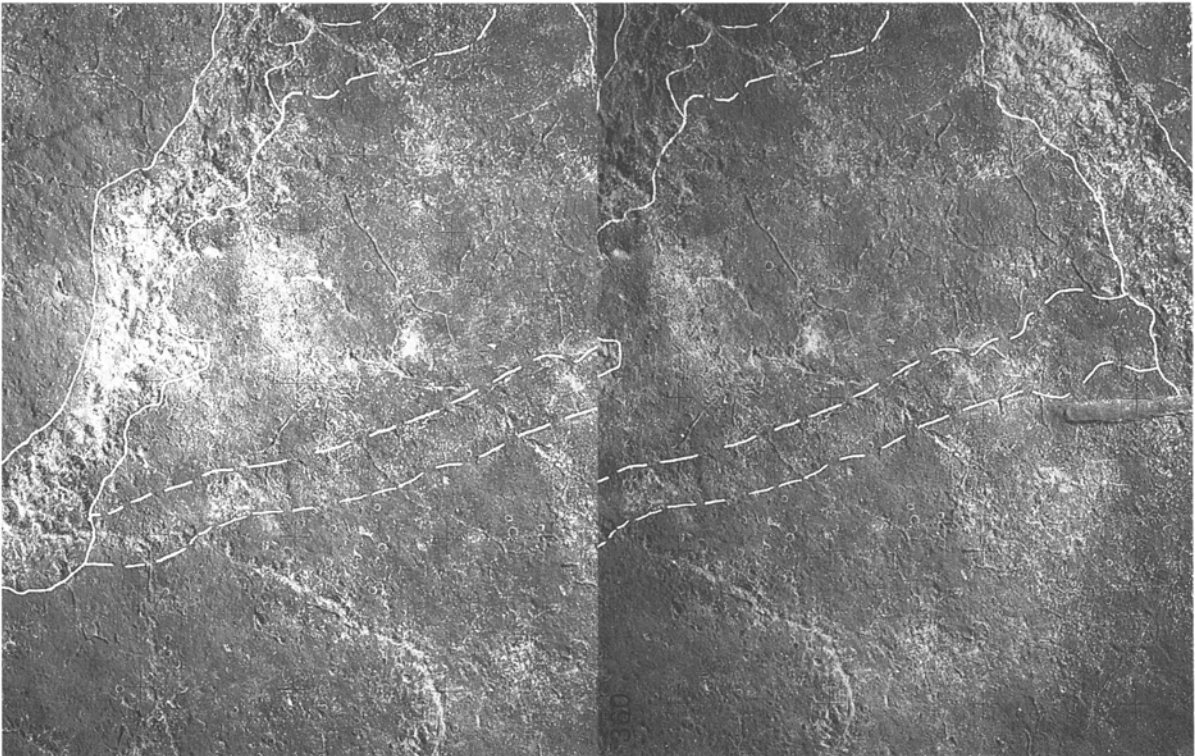
3-Dブロック

畦状遺構 10号畦：幅1.1m、高さ5cm、走向N-85°-W。畦の上面は、FP混じりの土がなく、のっぺりしている。古い畦状遺構の可能性もあるが、上端、下端の線が明瞭であるので区別した。 8号畦：幅2.0m、高さ6cm、走向N-8°-W。畦下のFA下面が、周囲に比べ僅かに高まっている。 11号畦：幅2.0m、高さ9cm、走向N-78°-W。9号畦と8号畦をつなぐように伸び、東寄りが高く、西寄りで

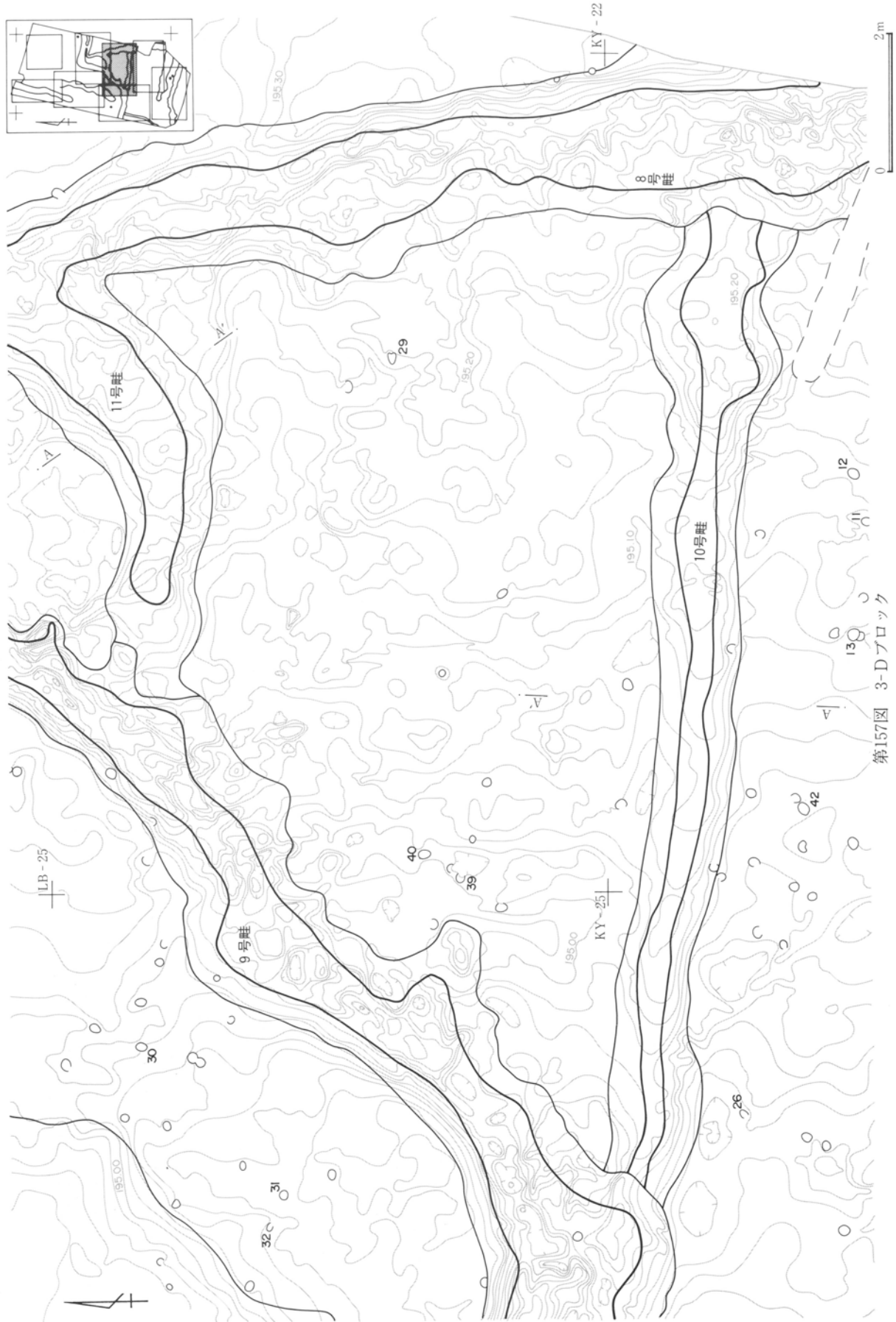
低くなっている。これはFA下面で凹凸の残る倒木跡の盛り上がりの影響と考えられる。畦部分の土層はFA混じりで、周囲よりも色調が明るい。 蹄跡 11号畦と10号畦に挟まれた部分は、蹄跡が少ない。 その他 11号畦と10号畦に挟まれた部分は、地表面の色調が黒褐色で、所々にFAの塊を含んだ色調の明るい部分や、FP混じりの土が盛り上がる部分がある。



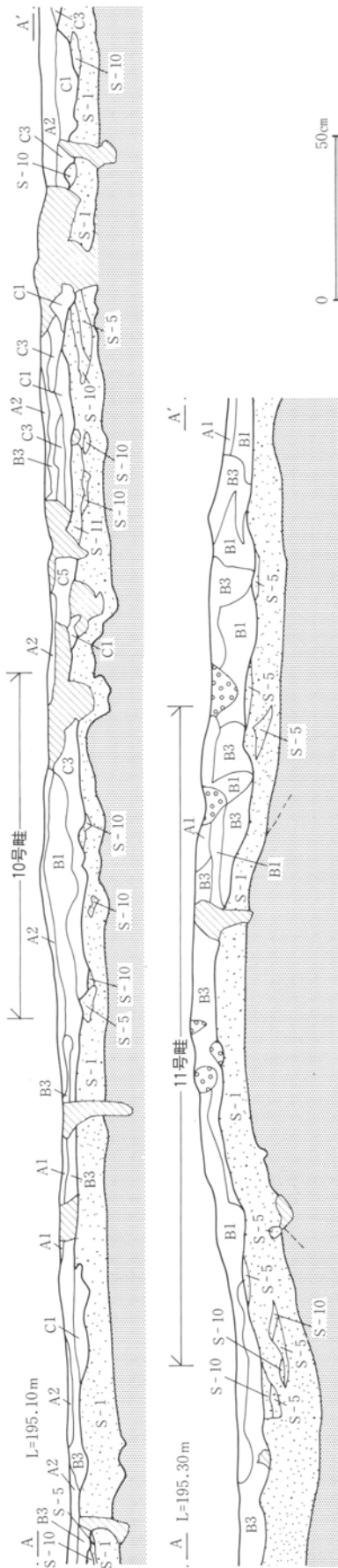
3-Dブロック全景（東から）



3-Dブロック（実体視用）



第157図 3-Dプロック



第158図 10号・11号畦断面図



調査風景（手前側の9号畦と奥の10号畦の表面の様子の違いがわかる。）（北西から）



10号畦断面A（東から）

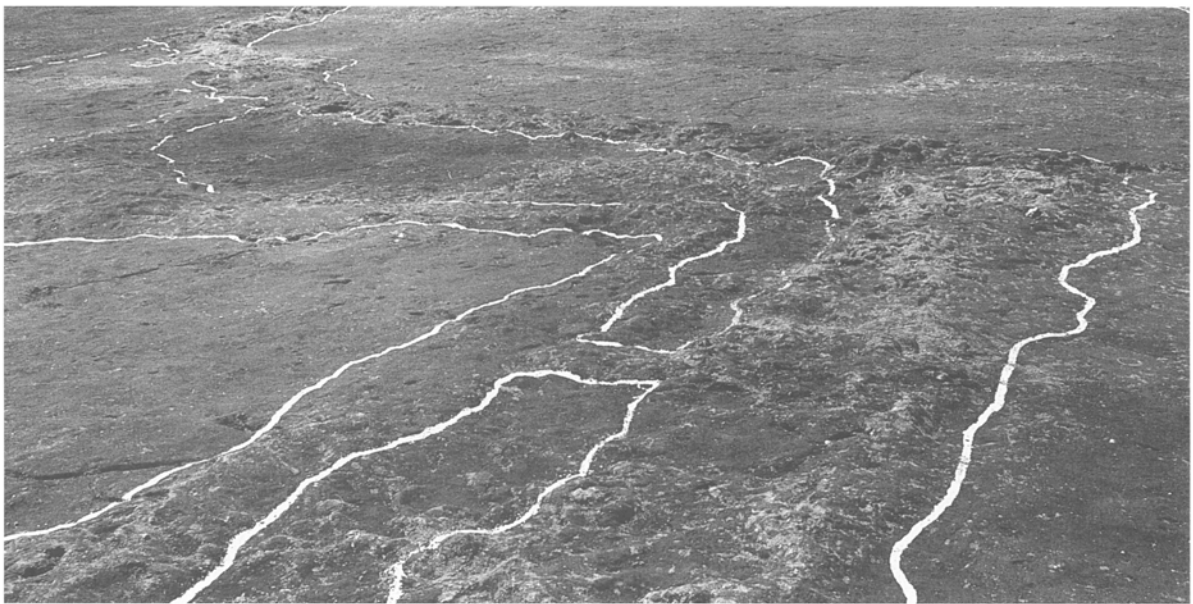


11号畦断面A（南西から）

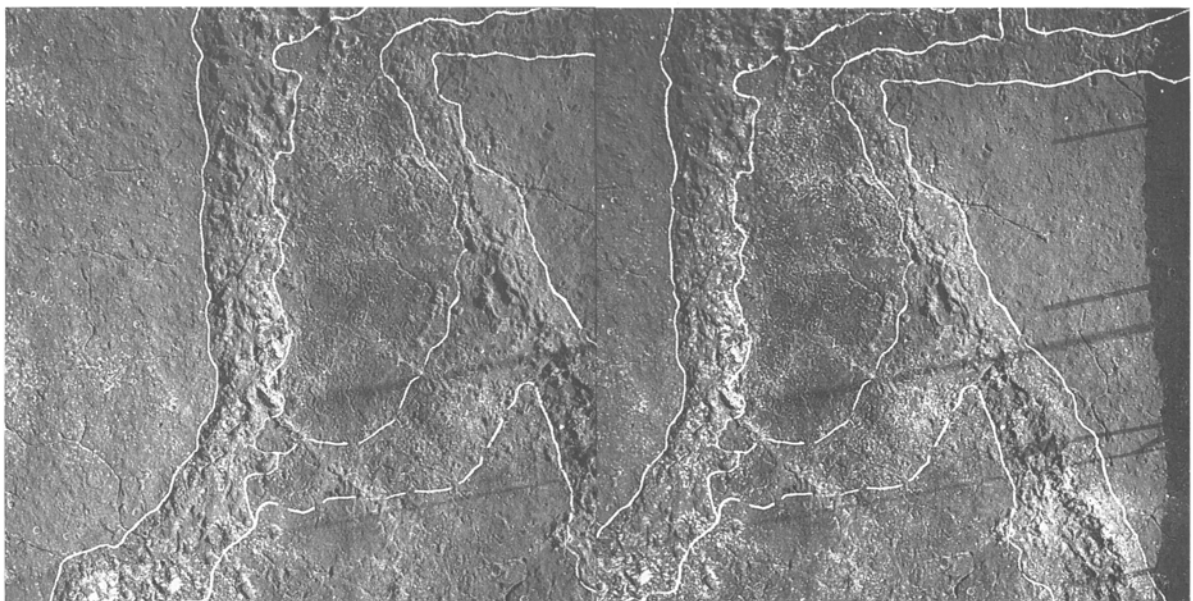
3-Eブロック

畦状遺構 9号畦：幅1.3m～2.0m、高さ14cm、走向N-21°-E、N-81°-W。LD-23グリッドで走向をほぼ90度変える。この畦は走向が何度も変化するが、畦下のFA下面はどの断面でも僅かに高まっている。LD-22、23グリッド付近では、焼土が広く分布し、その下位には炭化物層がある。また、畦上に径約20cmの白色軽石が1点ある。畦上の粒径の大きい軽石については、北中道3区で詳述する。8号畦：幅2.0m、高さ9cm、走向N-13°-W、N-77°-W。9号畦と同様に途中で走向を変える。LC-22グリッドに

は、9号畦と8号畦をつなぐ僅かな高まりがある。断面東Aでは、FA-FP間の土壤層の中程に炭化物層が見られる。**蹄跡** 9号・8号・11号畦に囲まれた部分では、蹄跡は検出されなかった。その他の部分には少ないが蹄跡がある。**立木** 14号立木：径60cm程の浅い落ち込みが検出された。**その他** 9号・8号・11号畦に囲まれた部分は、地表面の色調が黒褐色で、細かな皺が多数ある。一方、9号畦の西側や8号畦の東側は暗褐色で、FP混じりの土があまりなく、凹凸はあるものの滑らかな地表面である。



3-Eブロック全景（北東から）



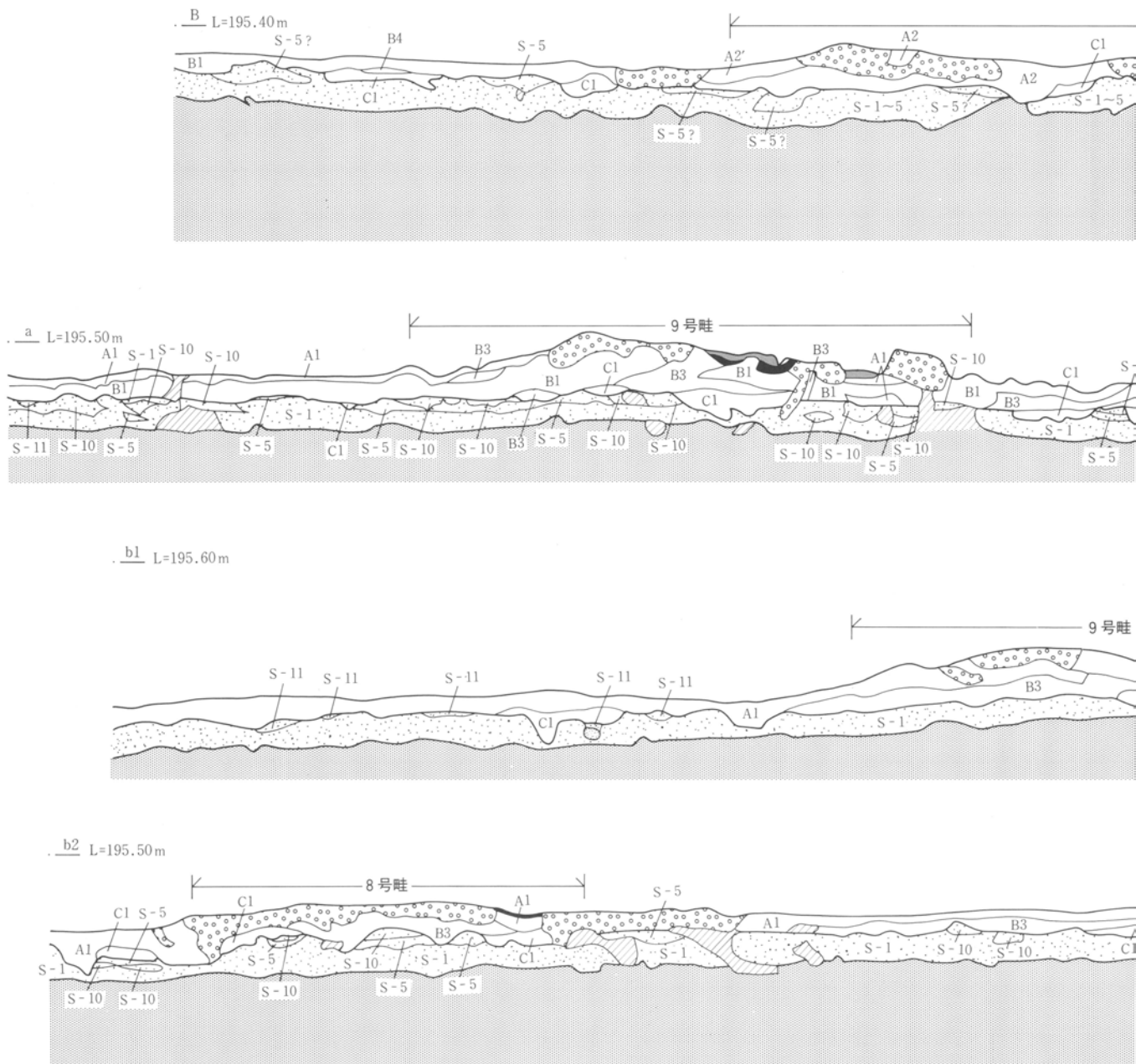
3-Eブロック（実体視用、地表面の様子之差がわかる。）

第4節 白井丸岩遺跡



第159図 3-Eブロック

第3章 FP層下面の調査



第160図 8号・9号畦断面図

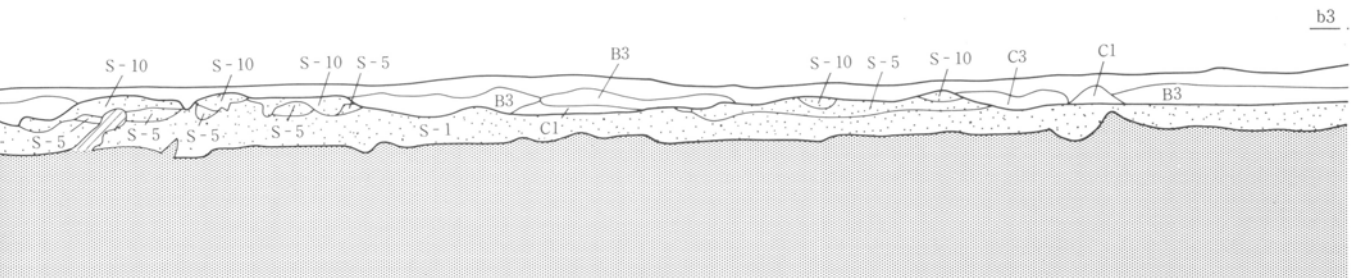
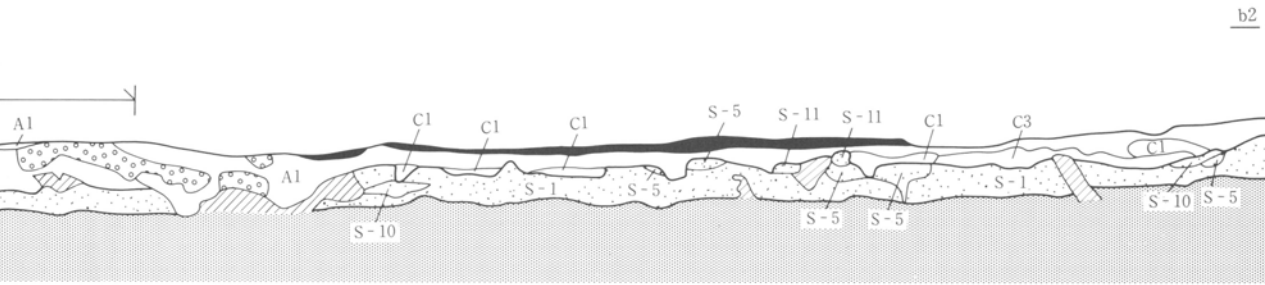
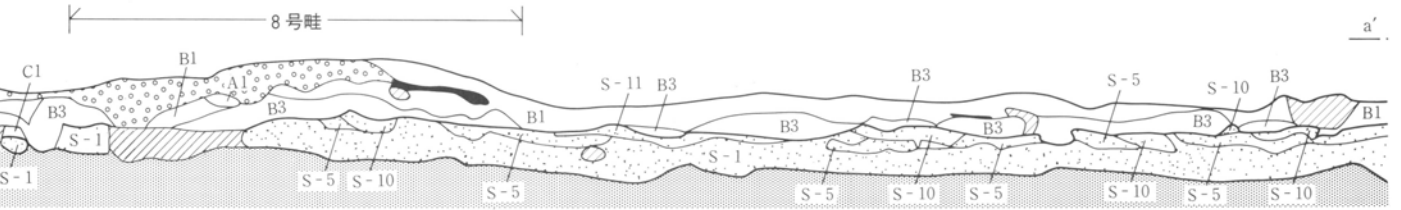
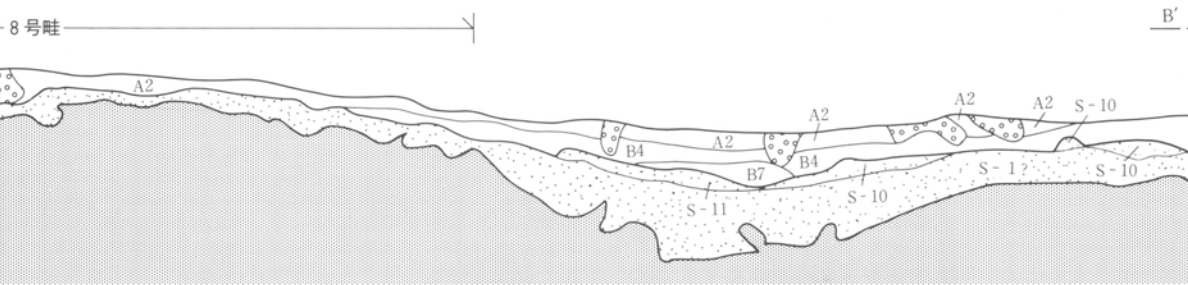


9号畦の焼土 (FP混じり土を除去した状態) (西から)



8号・9号畦断面a (西から)

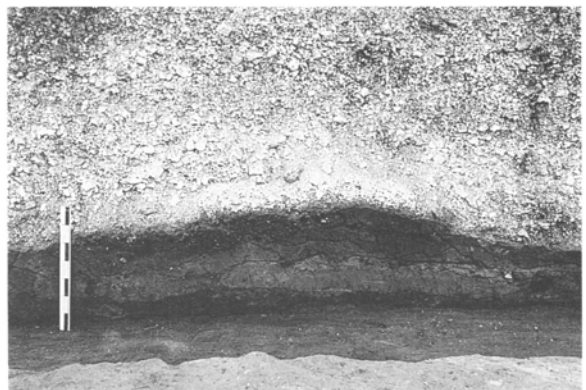
第4節 白井丸岩遺跡



0 50cm



9号畦断面a (西から)



8号畦断面a (西から)

3-Fブロック

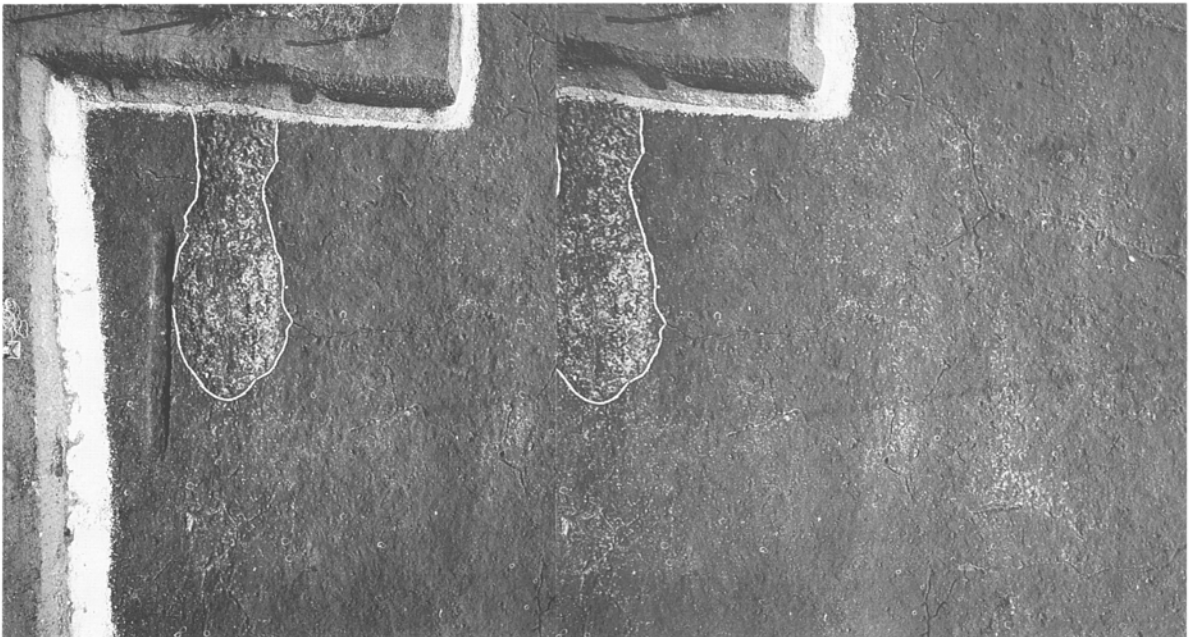
畦状遺構 12号畦：幅1.4m、高さ11cm、走向N-21°-E。LE-26グリッドで収束する。畦上には焼土が広く分布しており、焼土の下には炭化物や黒色灰層がある。焼土は固結するには至っていない。

古い畦状遺構 4号古畦：幅2.6m、高さ4cm、走

向N-13°-E。この調査区は中央部が僅かに低くなっているが、その地形変換点に沿うように、この畦が伸びている。跡跡 少ない。その他 明瞭ではないが、根株痕のような径50~80cmの円形の僅かな高まりが、多く見られる。3-Aブロックのものほど、はっきりしない。



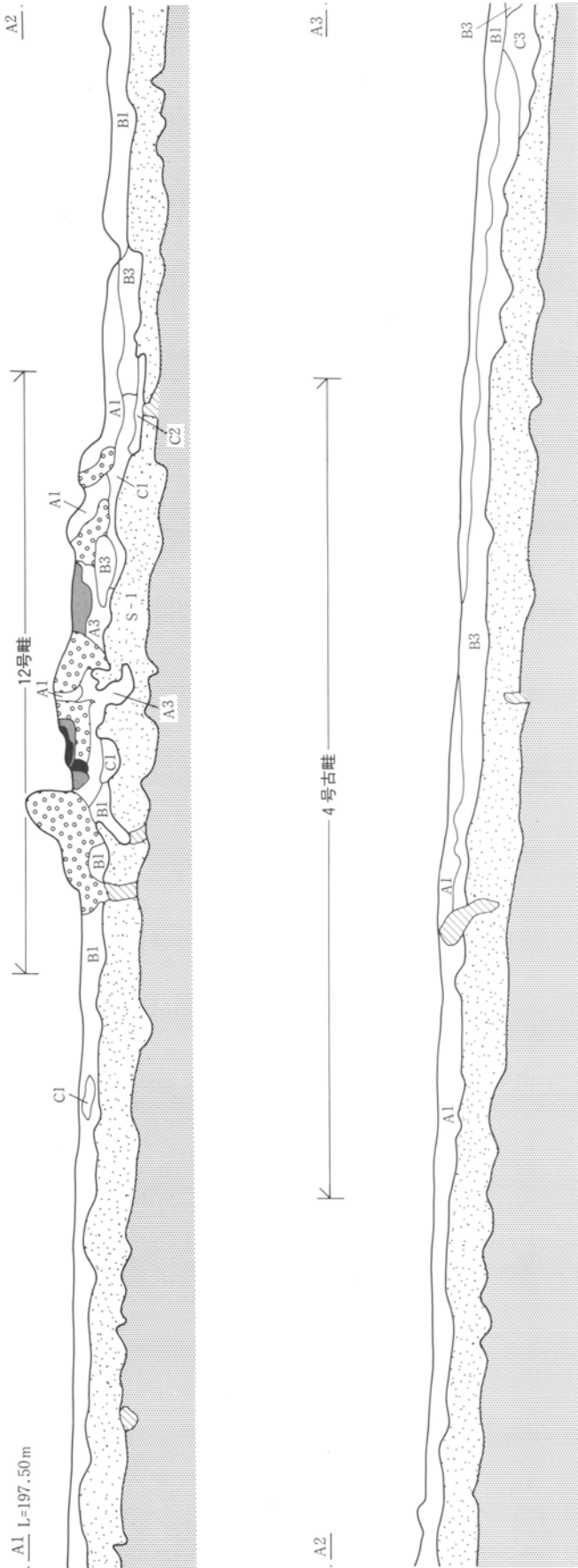
3-F・Gブロック全景 (南から)



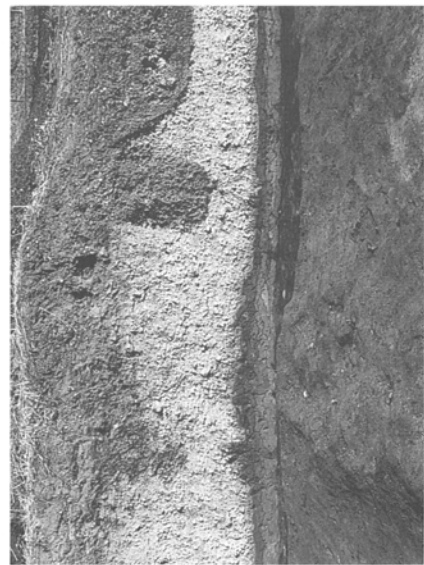
3-Fブロック (実体視用)



第161図 3-Fブロック



第162図 12号畦、4号古畦断面図



12号畦、4号古畦断面A (南から)



12号畦焼土 (FP混じり土除去後の様子) (北から)



12号畦焼土断面 (焼土の下に炭化物層がある。) (南から)

3-Gブロック

畦状遺構 12号畦：幅1.7m、走向N-13°-E。LG-26グリッド付近で蛇行する。畦上には断続的に焼土が分布している。畦を構成するFP混じりの土を取り除いたところ、植物の根跡または小動物の生痕が集合したような凹凸の激しい形状となった。また、LH-26グリッドでは円形の落ち込みが生じた。これは1号倒木（P353参照）に伴うものである。 **蹄跡** 非常に少ない。



12号畦焼土（FP混じり土除去後の様子）（西から）



3-Gブロック全景（北から）



第163図 3-Gブロック

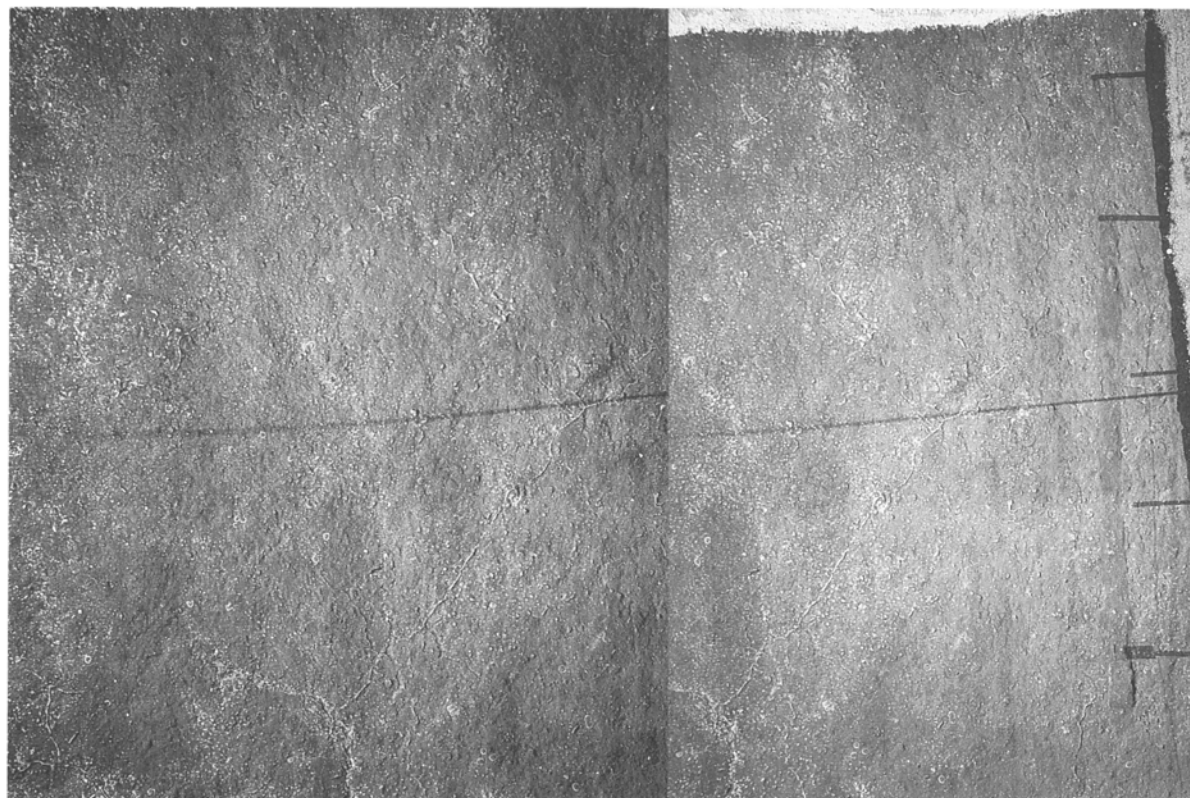
3-Hブロック

蹄跡 少ない。その他 全体的には平坦であるが、

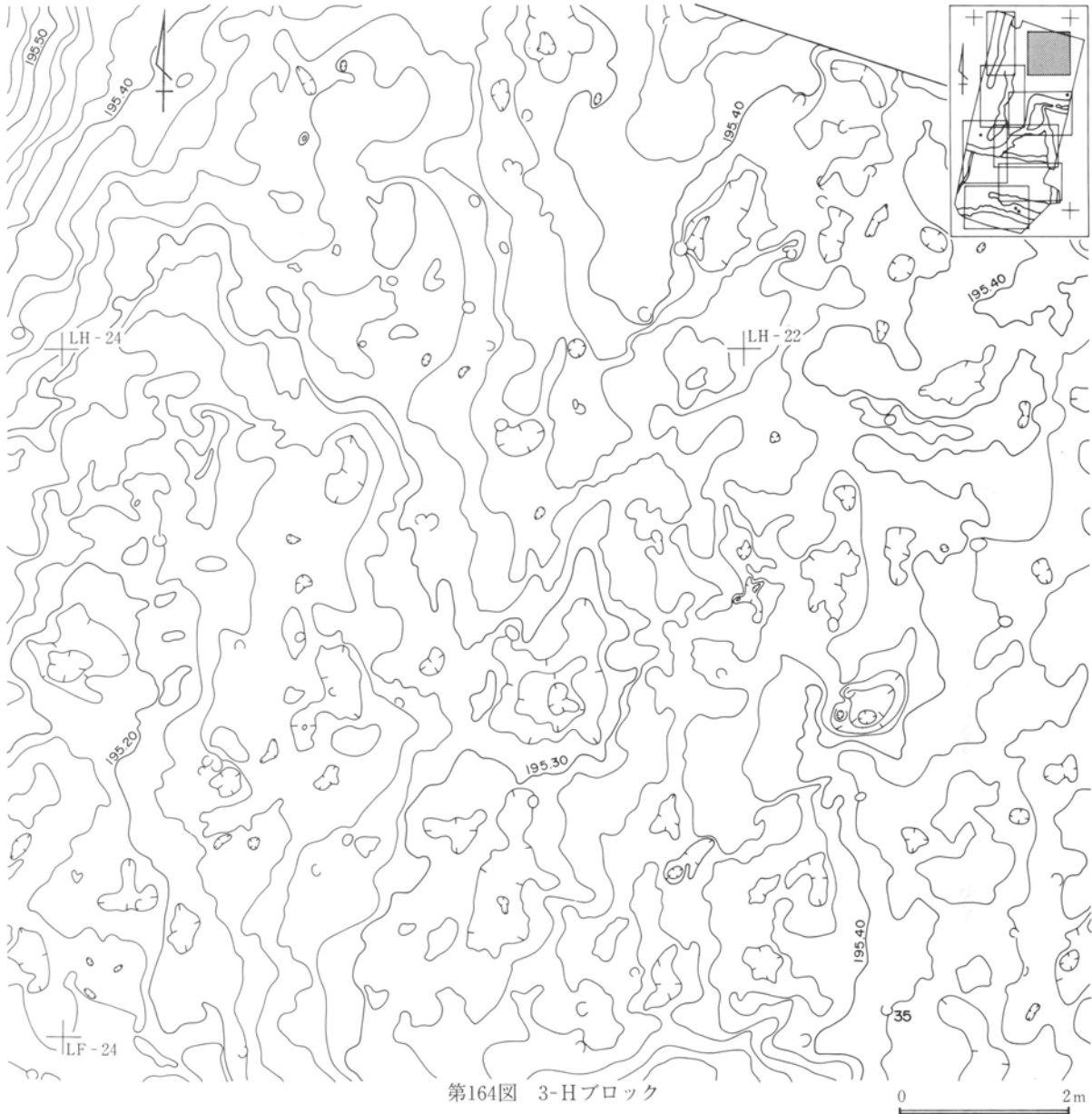
径50~60cm程度の、浅い落ち込みや僅かな高まりが、
数多く見られる。



3-Hブロック全景（上から）



3-Hブロック（実体視用、平坦な面でも細かな凹凸がある。）



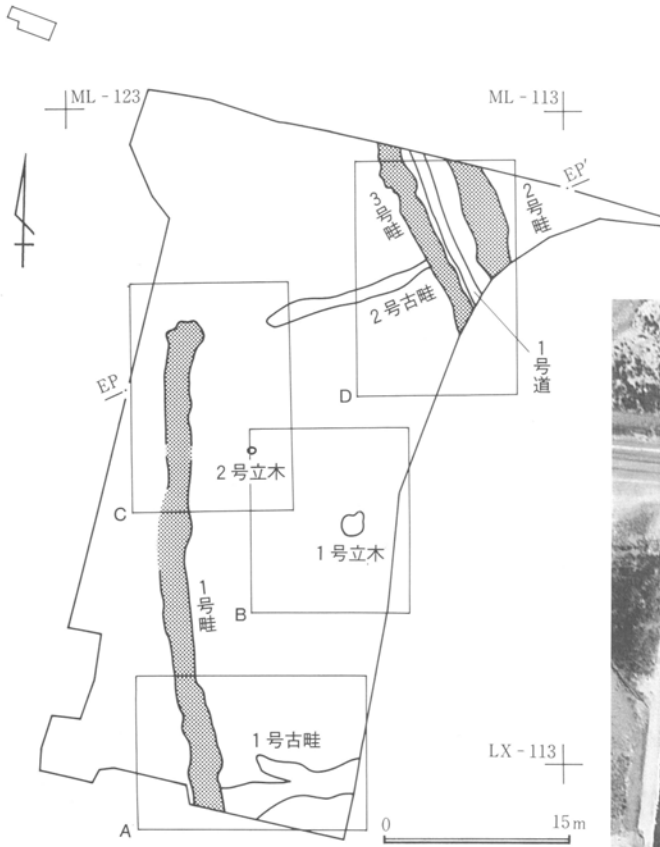
第164図 3-Hブロック

丸岩3区畦セクション

遺構番号	断面番号	幅 m	高さ cm	F P 混じり土	炭化物	焼土	FAの残存	FA下面の凹凸	その他
7	A	8	9	△	○	△	S-11○	僅かに凸	
7	B	14	10	○	△	△	S-1△	僅かに凸	畦下に落ち込みがあり、焼土・炭化物を含む。
8	A	16	12	○	○	—	S-1△	僅かに凸	
8	B	10	6	○	△	—	S-5△	凹凸あり	FA下面は倒木の影響で凹凸がある。
8	a	11	9	○	○	—	S-10×	僅かに凸	
8	b	7	9	○	—	—	S-10○	僅かに凸	
9	A	18	19	○	—	—	S-11△	僅かに凸	部分的にS-11があるが、全体としてFAの残り悪い。
9	B	16	16	○	○	—	S-11○	僅かに凸	
9	a	15	14	○	○	○	S-10△	凸	焼土の下に炭化物層がある。
9	b	13	11	○	—	—	S-1×	凸	
10	A	5	5	—	△	—	S-10△	凹凸あり	
11	A	9	9	△	—	—	S-1×	凸	FA下面は倒木の影響で盛り上がる。
12	A	12	11	○	○	○	—	—	焼土・炭化物が多い。
3古	A	5	9	△	—	—	S-11○	—	畦上に蹄跡あり。
3古	B	7	6	—	—	—	S-1△	—	畦上に蹄跡あり。
4古	A	3	4	—	—	—	—	—	畦上に蹄跡あり。

第5節 白井北中道遺跡

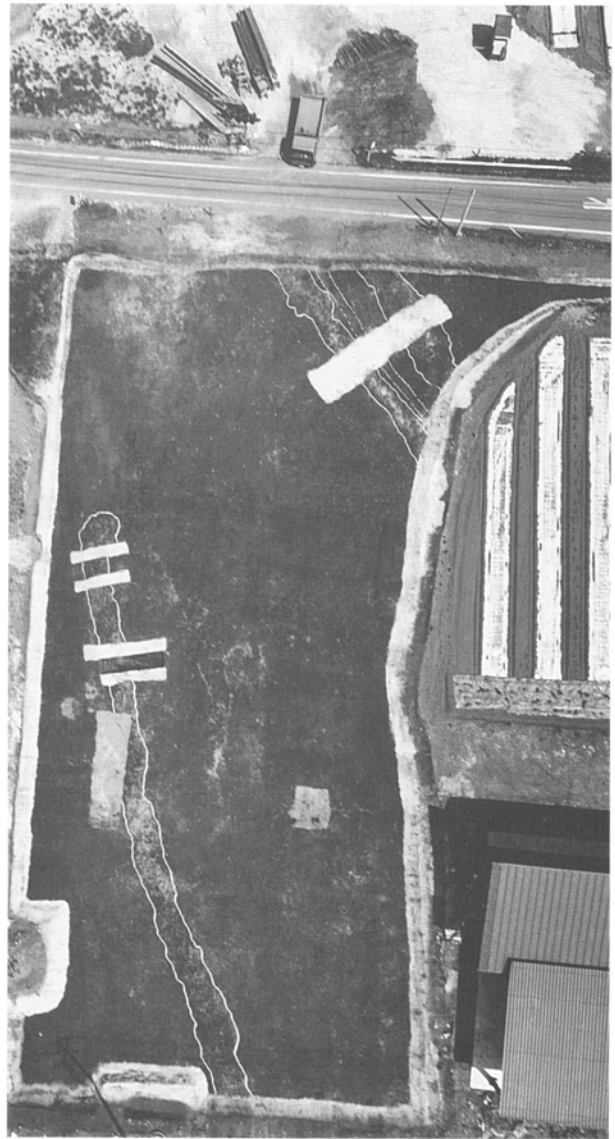
1区概要



第165図 北中道1区全体図

微地形 調査区の西端に谷があり、南へ向かうほど低くなっている。南西隅では約0.6m程の比高差がある。その他の部分は平坦な面をなしている。
遺構 調査区西寄りには、焼土・炭化物を多く含んだ畦状遺構が伸びる。この畦は調査区内で収束する。調査区北東部では、2本の畦状遺構と道があり、それらが平行して伸びている。
蹄跡分布 全体的にはあまり多くないが、調査区北東部の畦状遺構の西側に、蹄跡の集中する箇所があり、子ウマのものと思われる小さな蹄跡もある。
地表面の様子 平坦部では、円形や楕円形の僅かな高まりが見られる。谷部分では、FPを取り除くと黄色シルトが地表面に

張り付いている。この調査区では、植物珪酸体分析の試料を調査区を横断するように採取した。分析の結果、2号畦・3号畦付近で広葉樹の植物珪酸体が検出された。また、僅かながらイネやキビ族の植物珪酸体も検出されたが、この場所での栽培の可能性は低い(P381参照)。



北中道1区全景(上から)

EP, L=197.00m

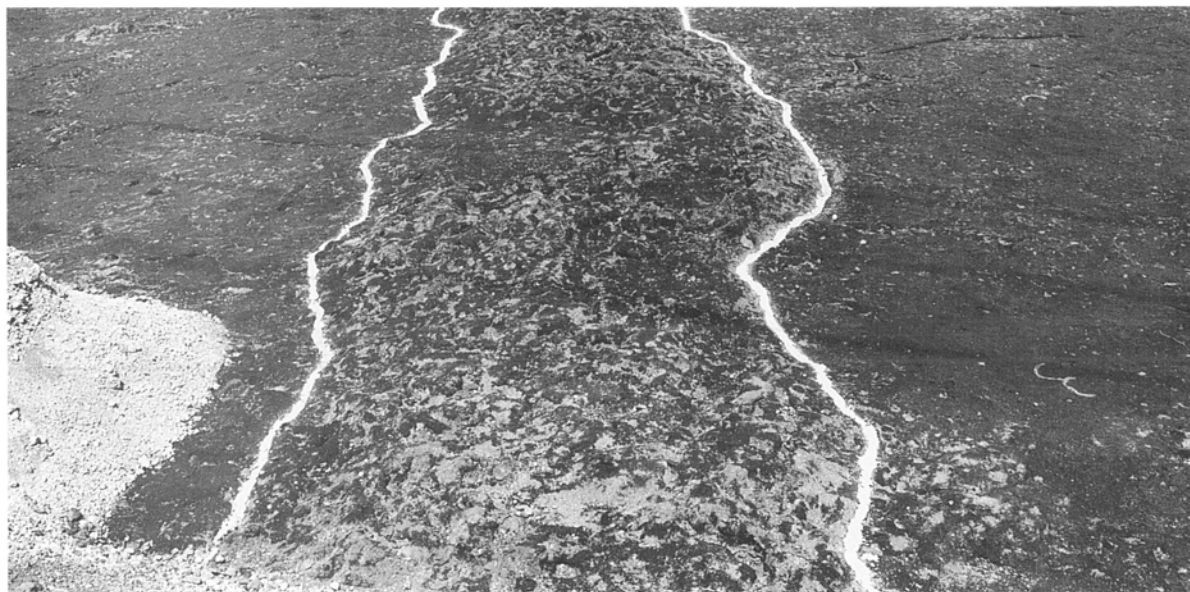


第166図 1区断面図

1-Aブロック

畦状遺構 1号畦：幅2.6m、高さ14cm、走向N-10°-W。谷の落ち際に沿って伸びる。畦上には焼土があり、その下層に炭化物を伴うことが多い。炭化物はササ類の根株が多く、LX-120グリッドではニレ科ムクノキが検出された。この畦は、規模や焼土の分布の類似から、丸岩3区の12号畦と一連のものである可能性があるが、断定はできない。

古い畦状遺構 1号古畦：幅2.8m、高さ6cm、走向N-80°-E。FP-FA間の土壌層を少し削ると、炭化物や焼土粒の混じる土壌が帯状に分布する。断面Aの観察では、FP-FA間の土壌層中に2層の黒色灰層が確認された。**蹄跡** 少ない。**その他** 1号畦中に含まれる炭化種子の分析の結果、シロザ近似種やスゲ属などの、乾燥した場所に生育する雑草が多く検出された。



1号畦 (南から)



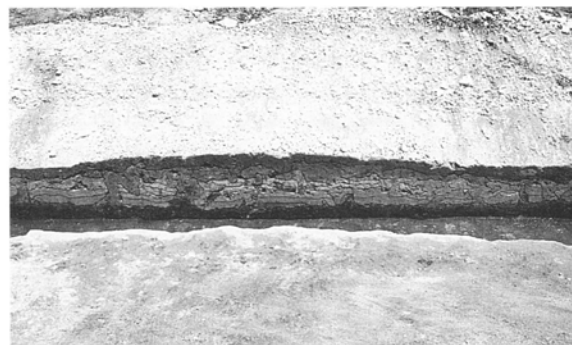
1号畦焼土 (LY-120グリッド) (南東から)



1号畦焼土 (LY-120グリッド)



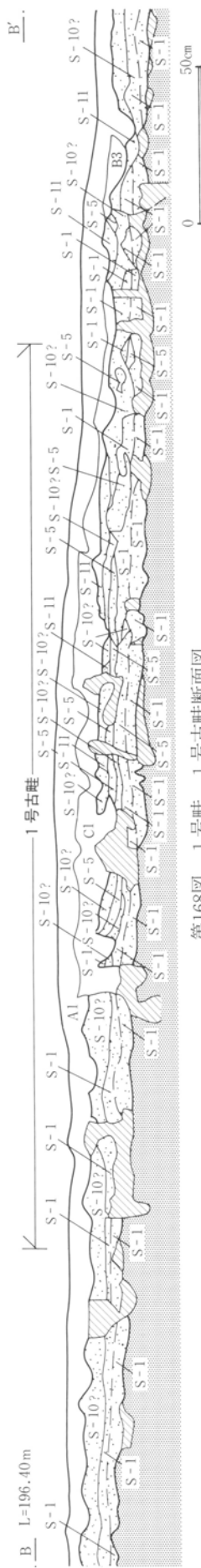
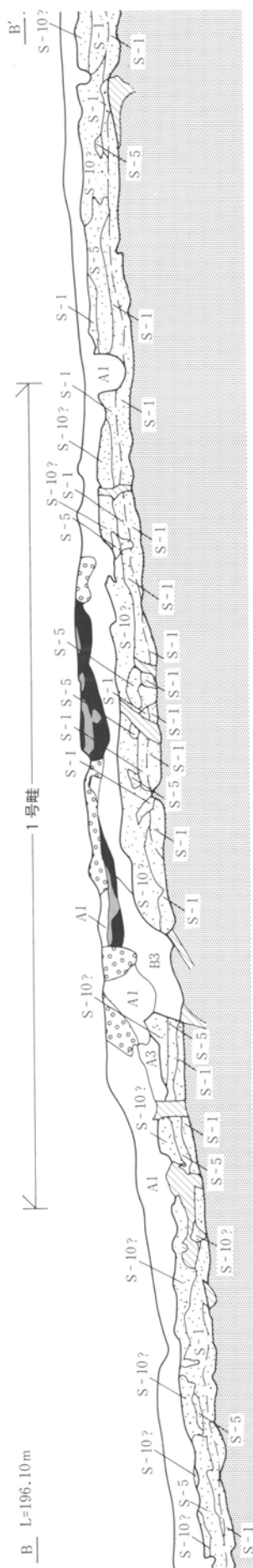
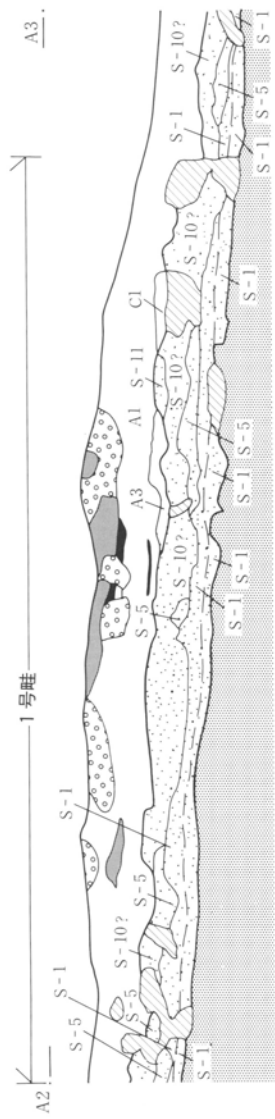
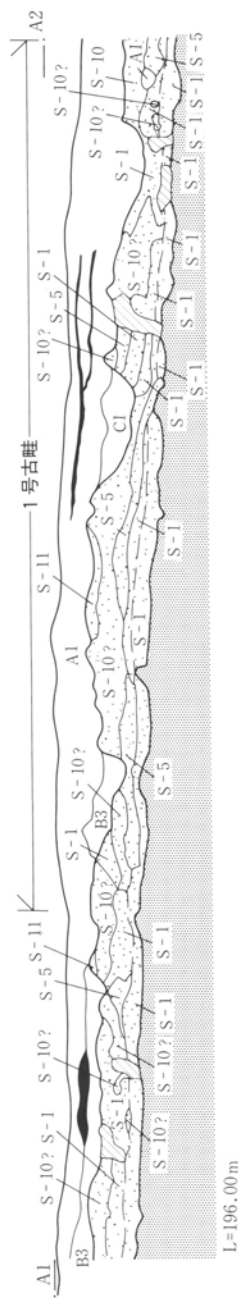
1号畦断面A (北から)



1号古畦断面B (西から)



第167図 1-Aブロック

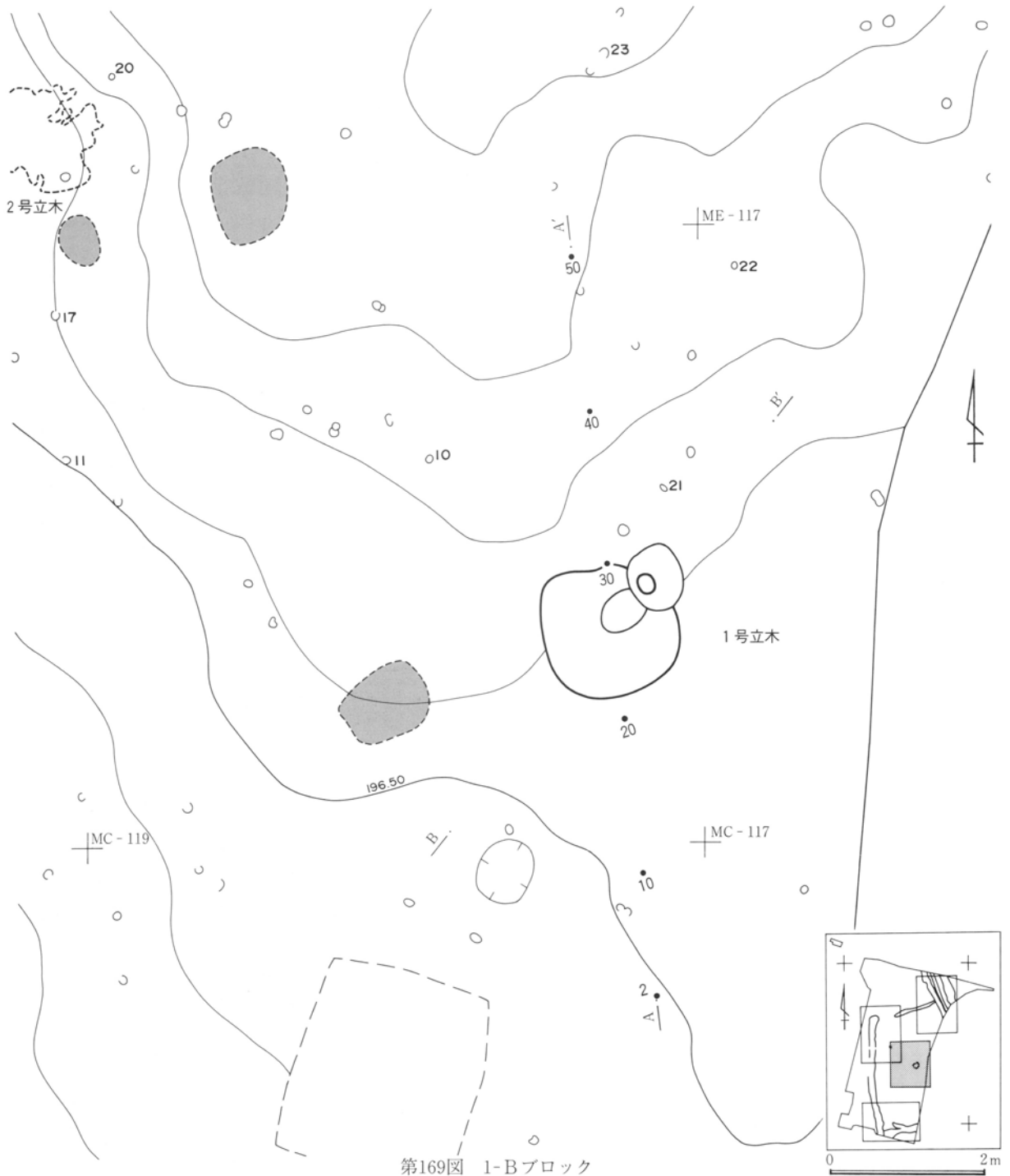


第168图 1号畦、1号古畦断面图

1-Bブロック

跡跡 少ない。立木 1号立木：上幅約1.8m、深さ19cmの円形の落ち込みとして確認された。根跡部分の土層は、上部にFAを含むが、FAより下位の基本土層を主体としている。根跡に囲まれた地山は硬化している。この立木については、植物珪酸体分析を行っているが、樹木の珪酸体のピークは見られ

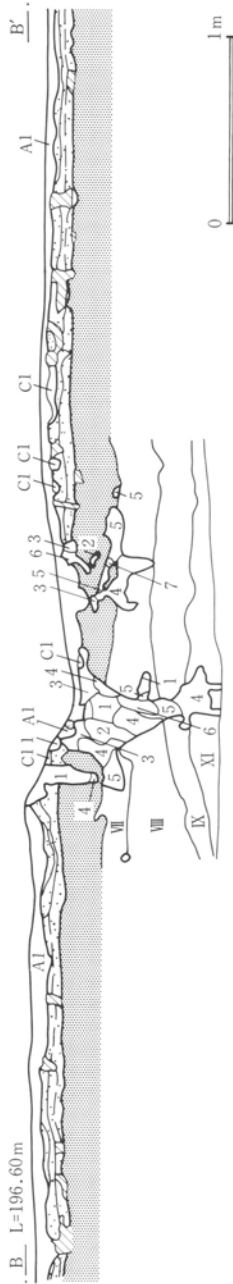
ない。(P381参照) その他 MB-118グリッド付近は植物痕の残存状況が良い。地表面には、円形の僅かな高まりがあるが、植物の根株跡と断定できるものはない。また径1m程の範囲で、焼土のように土壌が赤みがかっている部分があるが、変色が僅かで炭化物層を伴わないため、原因が熱によるものかどうかは判断できない。



第169図 1-Bブロック



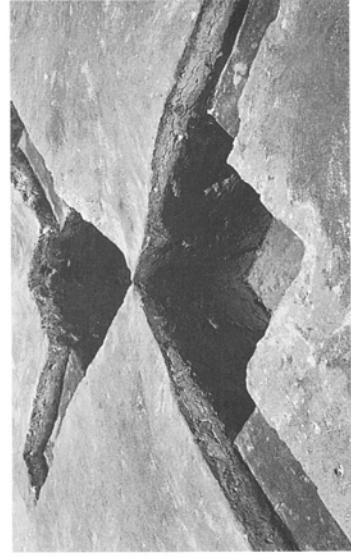
- 1 黒褐色土。FPを多量に含む。
- 2 黒褐色土。基本土層IV層とVI層が混じる。
- 3 暗褐色土。FAを含む。
- 4 暗褐色土。基本土層VI層主体。締まりなし。
- 5 暗褐色土。基本土層VII層主体。締まりなし。
- 6 黒褐色土。基本土層VI層主体。軽石を含む。
- 7 基本土層IX層のブロック。



第170図 1号立木断面図



1号立木断面 (南東から)



1号立木 (南から)



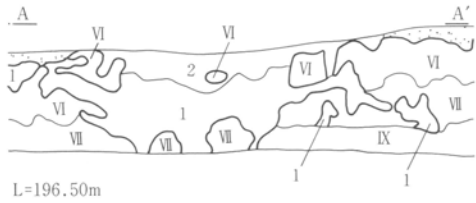
1-Bブロック全景 (東から)

第3章 FP層下面の調査

1-Cブロック

畦状遺構 1号畦：幅2.4m、高さ14cm、走向N-1°-W。MG-120グリッドで収束する。畦上には断続的に焼土が分布し、特に畦が収束する部分が多い。焼土の断面Dでは、炭化物と焼土が2層ずつ互層になっている。畦中の炭化物はササ類の根株が多く、その他にムクノキ、コナラ節が検出された。

古い畦状遺構 2号古畦：幅1.4m、走向N-71°-Eの、僅かな高まりが带状に続く様子が確認された。



第171図 2号立木断面図



2号立木断面 (南から)



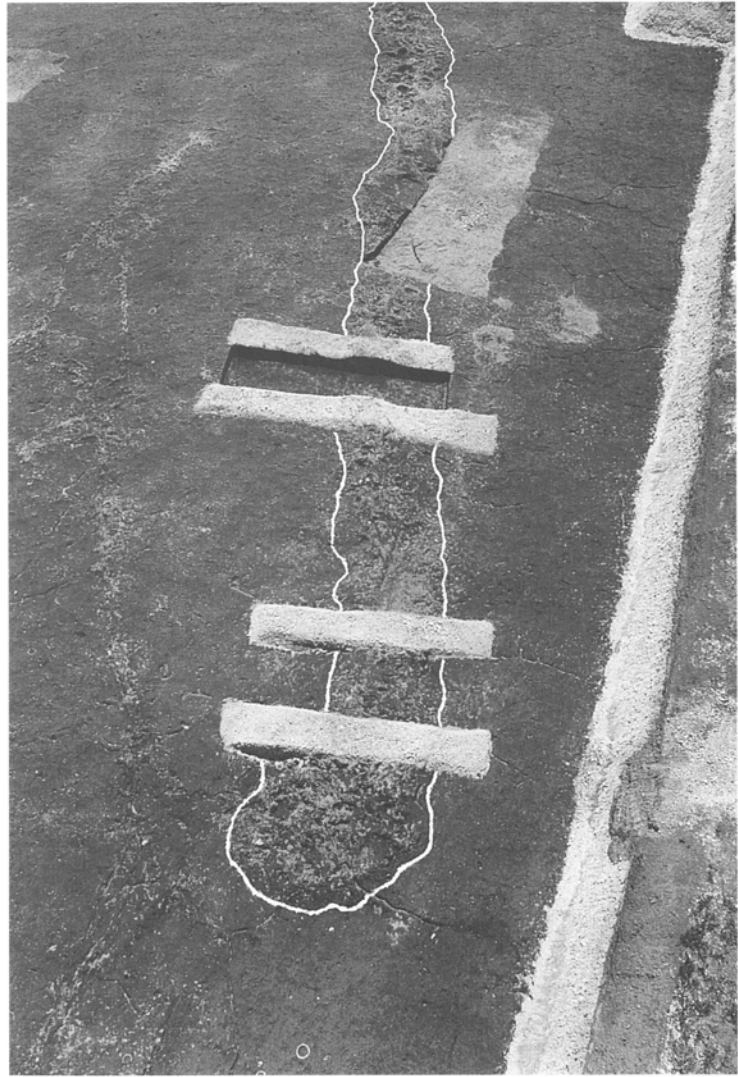
1号畦焼土 (FP混じり土除去後の様子)

蹄跡 少ない。

立木 2号立木：この立木はFA上面調査時に確認された。根跡部分の土層は、FA・FPを含む。根跡に囲まれた地山は硬化している。

その他 1-Bブロックと同様の、赤褐色範囲が5箇所認められる。また、円形の僅かな高まりが数カ所ある。調査区の北東隅から1号畦にかけて、調査区を横断するように行った植物珪酸体分析の結果、1号畦や2号古畦部分に、特別な珪酸体の集中は認められなかった。

- 1 暗褐色土。FP・FAを含む。空隙があり、縮まりなし。
- 2 暗褐色土。FAブロックを1層より多く含む。FPを含む。



1号畦 (北西から)



第172図 1-Cブロック

1-Dブロック

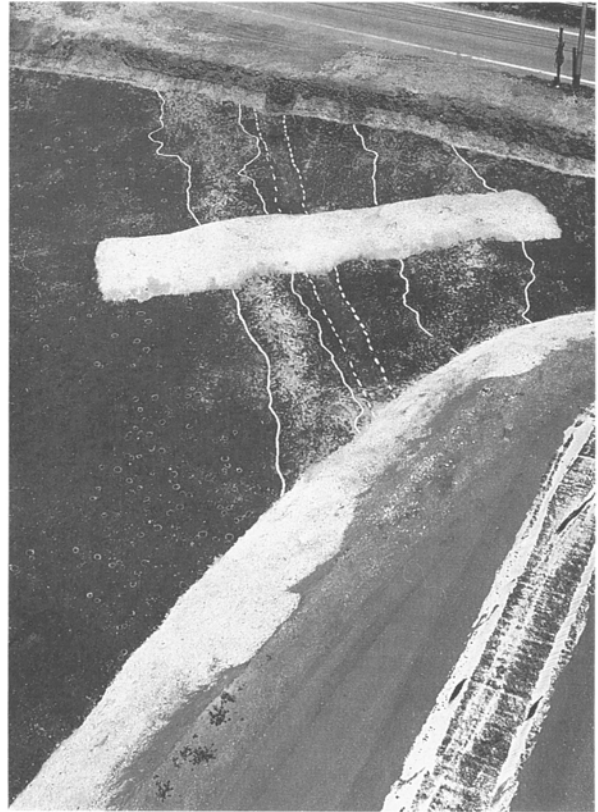
畦状遺構 2号畦：幅3.0m、高さ10cm、走向N-19.5°-W。畦下のFAは最上部の層まで残っている。断面Aより南側では、焼土があり、畦上に蹄跡が認められる。3号畦：幅1.7m、高さ14cm、走向N-25°-W。断面Aでは畦下のFAが薄い。2号・3号畦と1号道は、ほぼ平行に直線的に伸びており、北中道2区で続きが検出されている。

古い畦状遺構 2号古畦：幅1.4m、走向N-71°-E。道1号道：上幅0.9m、下幅0.6m、走向N-25°-W。断面Aでは、路面が周囲より10cm程低くなっており、道の下の土壌は硬く締まっている。この道には、ウマの蹄跡が付いており、ウマが道を通っていたことがわかる。

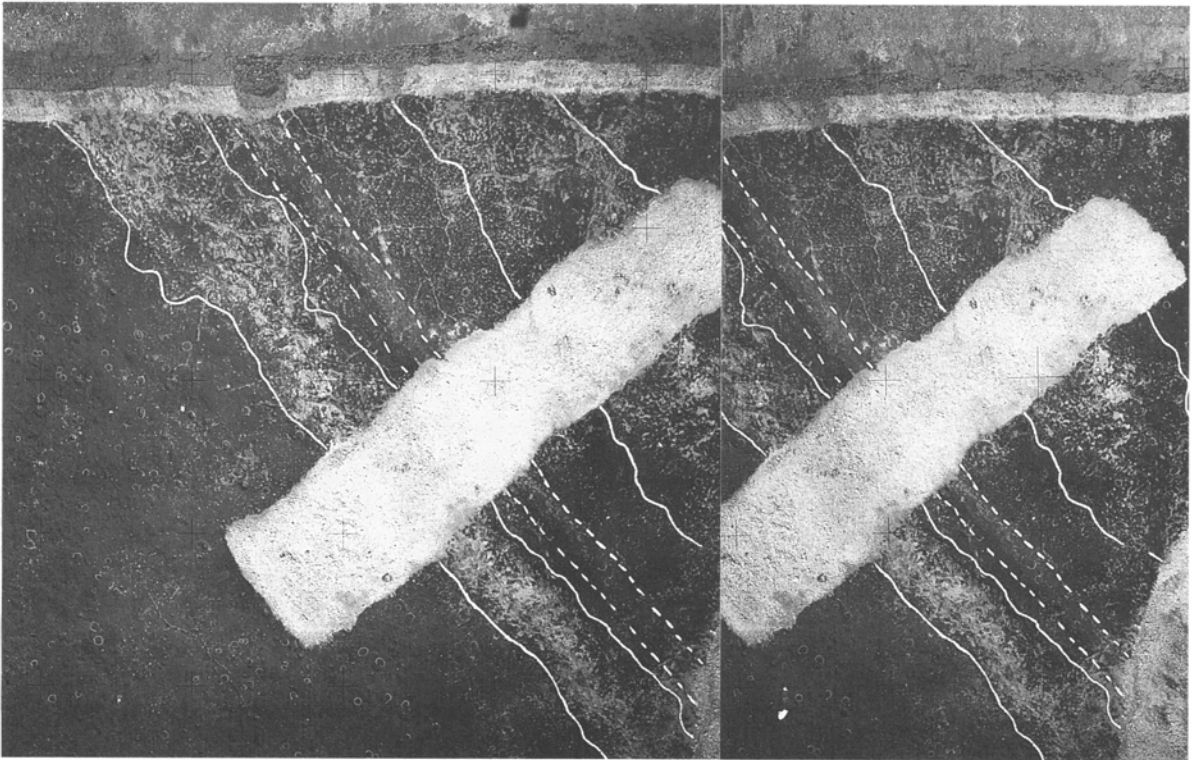
蹄跡 3号畦の西側に、畦に沿うように蹄跡の多い部分がある。ここでは、幅100mm前後の蹄跡と、幅80mm以下の蹄跡が混じっている。小さな蹄跡は円形に近い形状で、仔ウマのものと考えられる。

その他 2号畦と1号道に挟まれた範囲は、地表面の色調が黒みを帯び、細かな皺がある。特にMI-114、MJ-115グリッドでは植物痕の残存が良好である。植物珪酸体の直線状の分析結果から、2号畦と1号

道の間では、ウシクサ族（ススキ属など）が他よりも多く検出され、2号畦から3号畦にかけての範囲では、広葉樹の珪酸体が検出された。



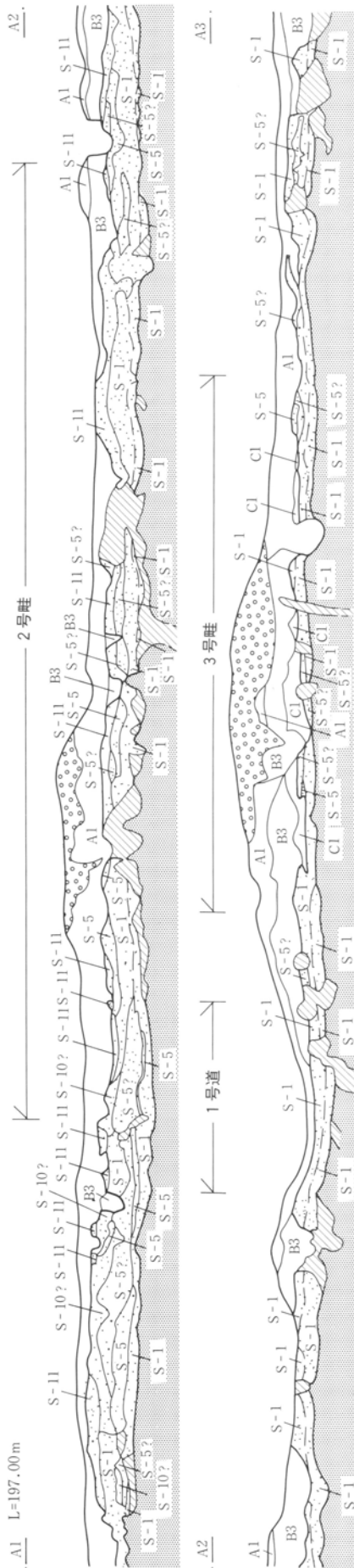
1-Dブロック全景（南東から）



1-Dブロック（実体視用）



第174図 1-Dブロック



第175図 2号・3号畦、1号畦断面図

北中道1区畦セクション

遺構番号	断面番号	幅 m	高さ cm	FP混じり土	炭化物	焼土	FAの残存	FA下面の凹凸	その他
1	A	2.4	14	○	○	○	S-11○	僅かに凸	炭化物の薄層が2枚認められる。
1	B	2.6	10	○	○	○	S-10△	僅かに凸	畦下でFAが途切れる箇所がある。
1	C	2.7	14	○	○	-	S-11○	僅かに凸	FA直上に炭化物層が認められる。
2	A	2.5	10	○	-	-	S-11△	僅かに凸	この断面にはないが、焼土あり。蹄跡あり。
3	A	3.0	14	○	-	-	S-5△	僅かに凸	FA層薄い。
1古	A	2.9	6	-	○	-	S-11○	僅かに凸	炭化物の薄層が2枚認められる。
1古	B	2.8	8	-	-	-	S-11○	-	FAの上面が乱れている。



2号・3号畦、1号畦 (FP混じり土除去後の様子) (北から)



1号畦上の蹄跡 (左: 白線記入前、右: 記入後) (北から)

第5節 白井北中道遺跡



子ウマの蹄跡 (MG-115グリッド)

2区概要

微地形 調査区の北東から南西にかけて、比高差が約1mの谷があり、夏場の調査時には、谷の底面に常時水がついていた。南東部と北西部には、やや平坦な面がある。

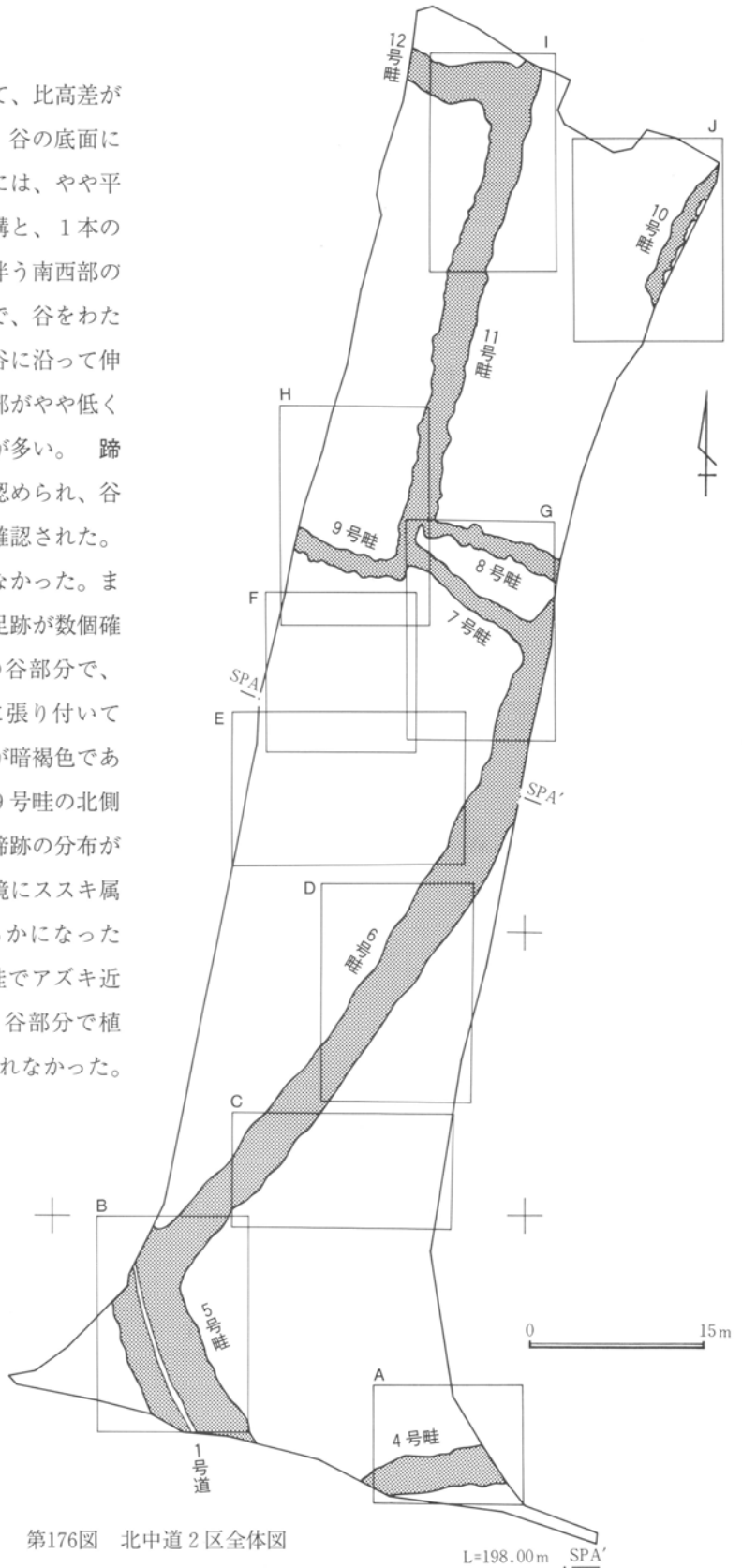
遺構 10本の畦状遺構と、1本の道が検出された。畦状遺構の内、道を伴う南西部のものは、北中道1区から連続するもので、谷をわたるように伸びている。また谷底付近を谷に沿って伸びる畦状遺構があり、これは畦の中央部がやや低くなっている。4号畦、9号畦は炭化物が多い。

蹄跡分布 調査区中央の谷の斜面で多く認められ、谷底へ向かって下りる歩行跡が数カ所で確認された。8・9号畦以北では、蹄跡は検出されなかった。また、調査区中央と9号畦北で、ヒトの足跡が数個確認された。

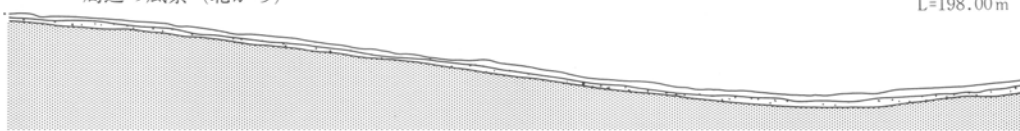
地表面の様子 南西隅の谷部分で、FPを取り除くと黄色シルトが地表面に張り付いている。6号畦の南側では地表面の色調が暗褐色であるが、北側では黒褐色となり、さらに9号畦の北側で暗褐色となる。また、9号畦を境に蹄跡の分布が異なるが、植物珪酸体分析でも、畦を境にススキ属型の密度に大きな差があることが明らかになった(P381参照)。炭化種子分析では、9号畦でアズキ近似種が検出された(P430参照)。また、谷部分で植物珪酸体分析を行ったが、イネは検出されなかった。



周辺の風景（北から）



第176図 北中道2区全体図



第177図 2区断面図



北中道2区北部（南から）

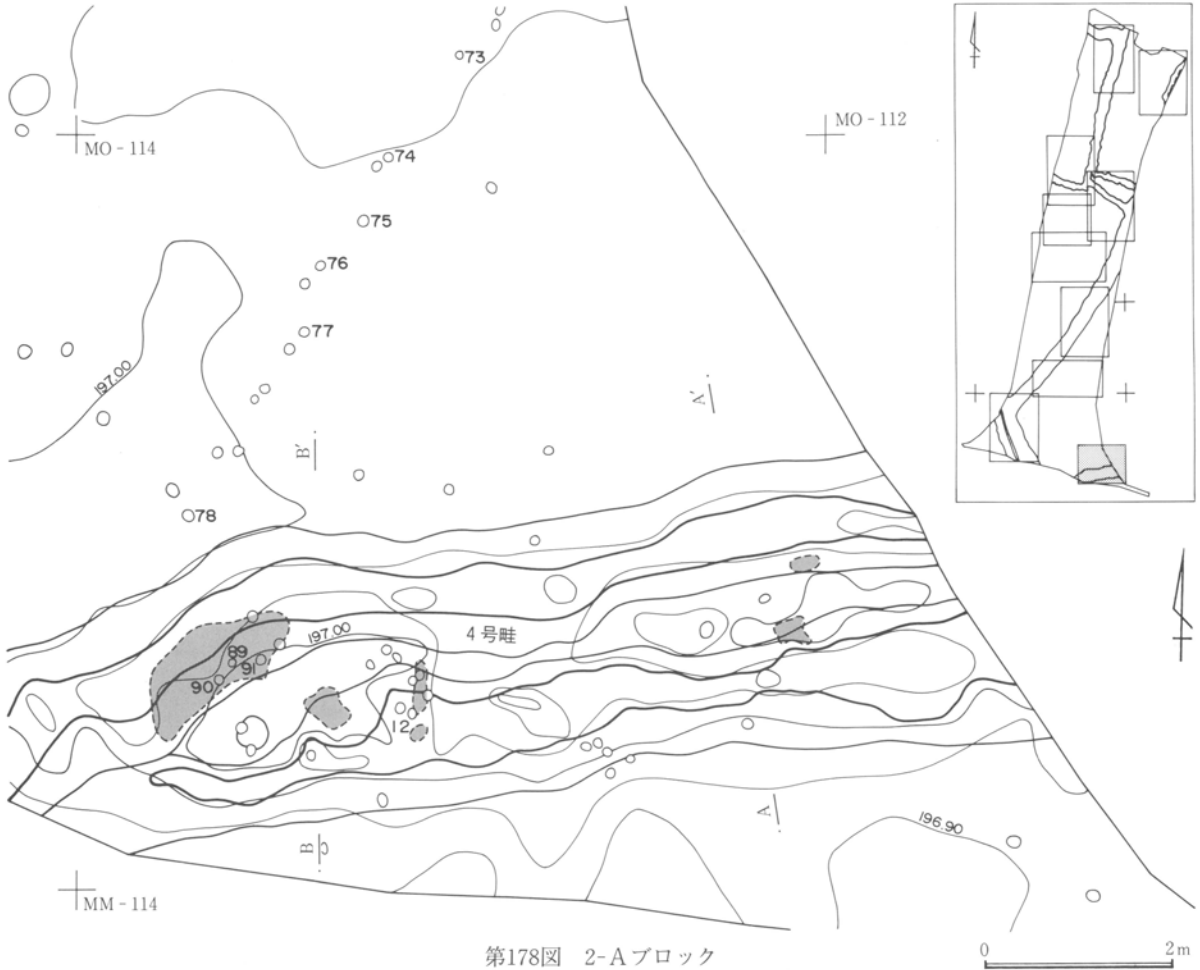


北中道2区南部（上から）

2-Aブロック

畦状遺構 4号畦：幅2.9m、高さ11cm、走向N-11°-W。畦の中央部が低く、その部分に焼土や炭化物が多い。炭化物は、断面で2層確認できる。断面Aでは、畦の南側のFA上面が、周囲に比べてやや低く

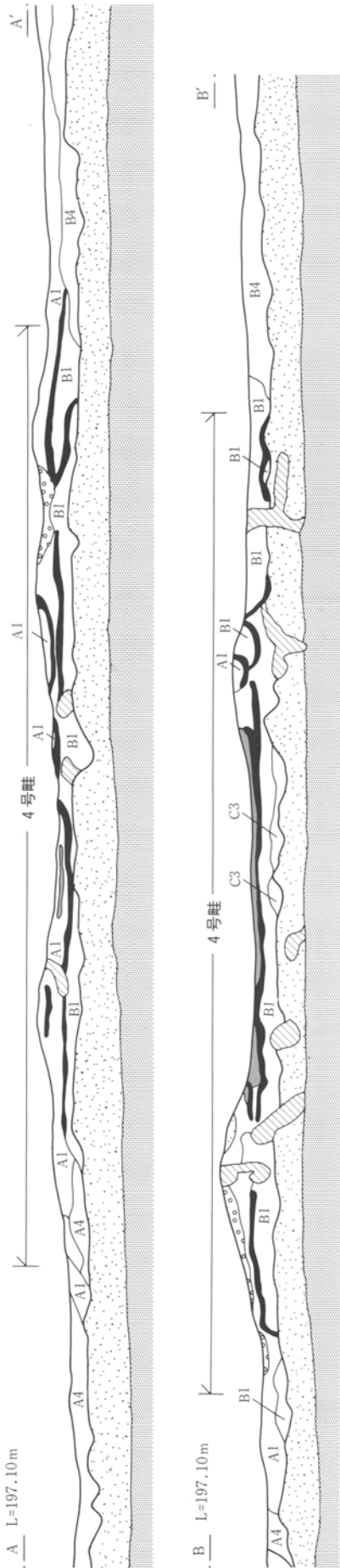
なっている。数カ所でFAのブロックが畦の上面に載る。蹄跡 少ない。4号畦の北側で、列になっている蹄跡があるが、一連の歩行跡とは断定できなかった。4号畦上にも蹄跡が残っている。その他MN-112グリッド付近で植物痕の残存状況がよい。



第178図 2-Aブロック



2-Aブロック全景（南西から）



第179図 4号畦断面図



4号畦断面A (東から)



4号畦断面B (東から)

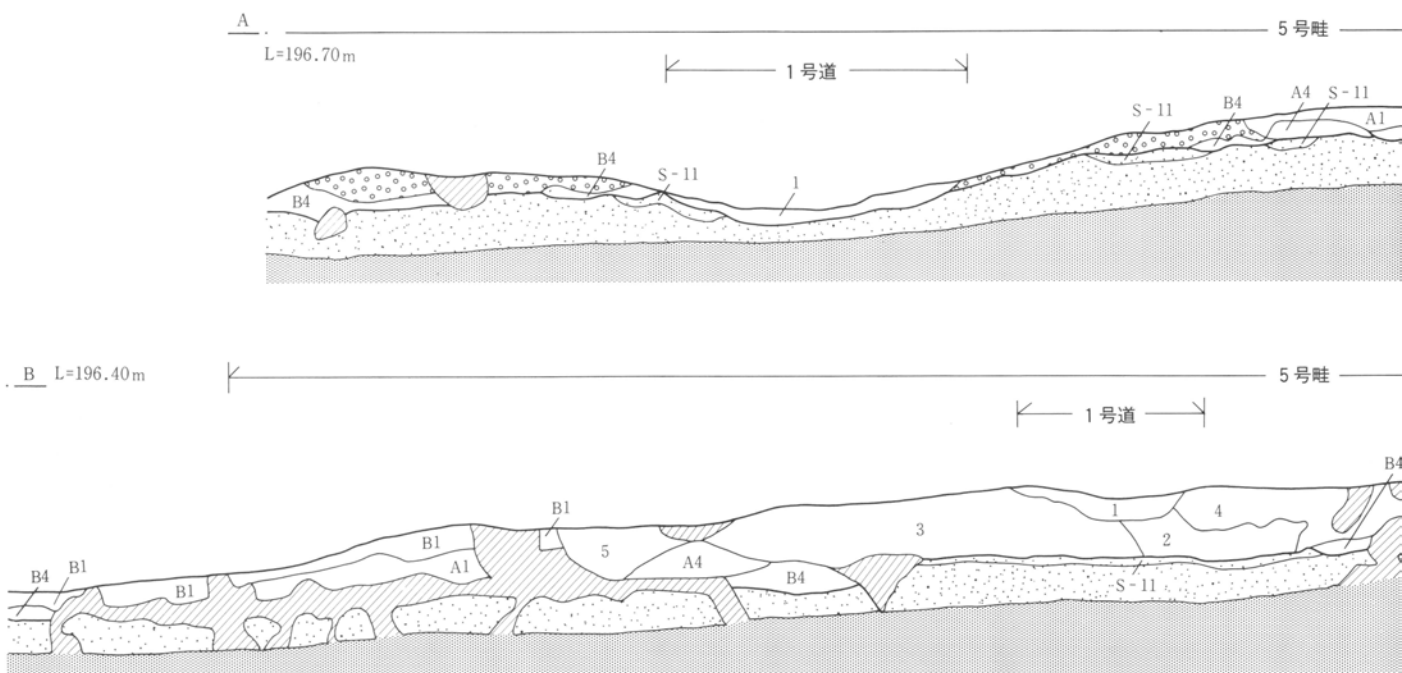


4号畦焼土・炭化物分布状態 (西から)

2-Bブロック

畦状遺構 5号畦：幅6.3m、高さ16cm、走向N-21°-W。北中道1区の2号畦・3号畦から続くもので、1区では明瞭に2本の畦だったが、2区では名残はあるものの、1号道も含めて幅広く全体的に高まる。この畦は谷を横切るように伸びている。谷底付近で6号畦が分岐する。 **道** 1号道：踏みしめられている面の幅は45cm、走向N-15°-W。南東部では周囲よりも低く溝状になっているが、谷部分に向

かうに連れて、高まりの上のようになる。断面Bの観察では、1層が道部分にあたり、硬化している。その下部でやや北よりにある2層も硬化しており、かつて道として使用されていた可能性がある。しかし、他の断面では硬化層が重複して観察できるものはない。道の下部のFAはS-11が残存している。 **蹄跡** 畦の脇で多い部分があるが、全体的には少ない。畦や道の上にも蹄跡がある。

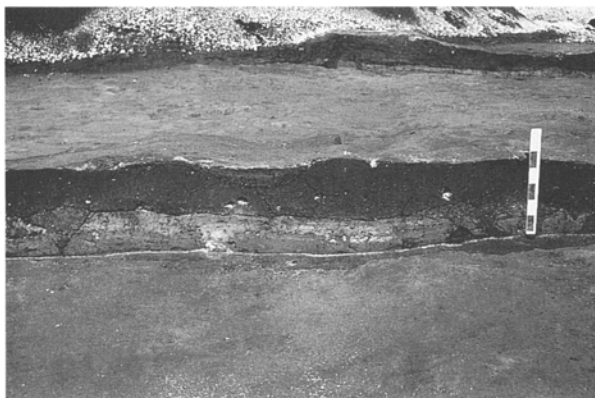


第180図 5号畦、1号道断面図

1号道

- 1 暗褐色砂質土。酸化鉄の小さな斑点あり。硬く締まっている。
- 2 黄褐色砂質土。細かい軽石を含む。ごく薄い砂層の互層で、非常に硬く締まっている。

- 3 暗褐色土。FA(S-11)ブロックを含む。硬く締まっている。
- 4 褐色土。均質。硬く締まっている。
- 5 暗褐色土。やや粘性があり、締まっている。



5号畦、1号道断面B(南から)



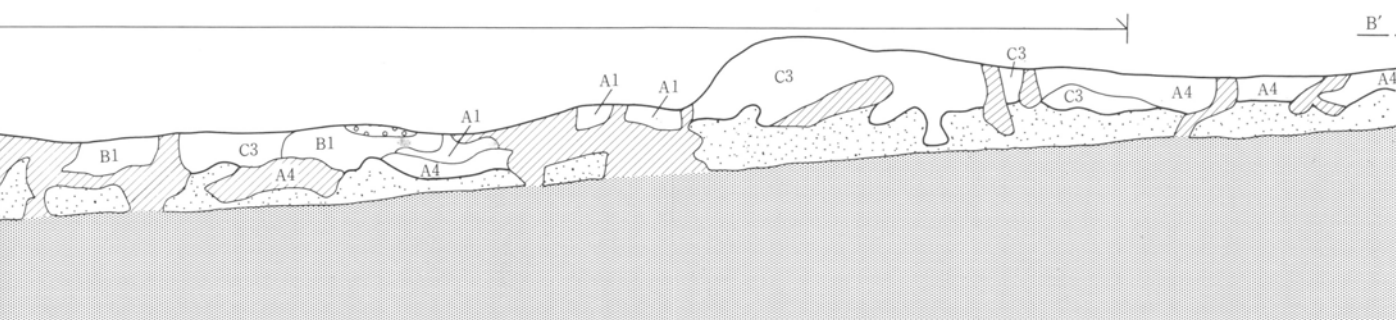
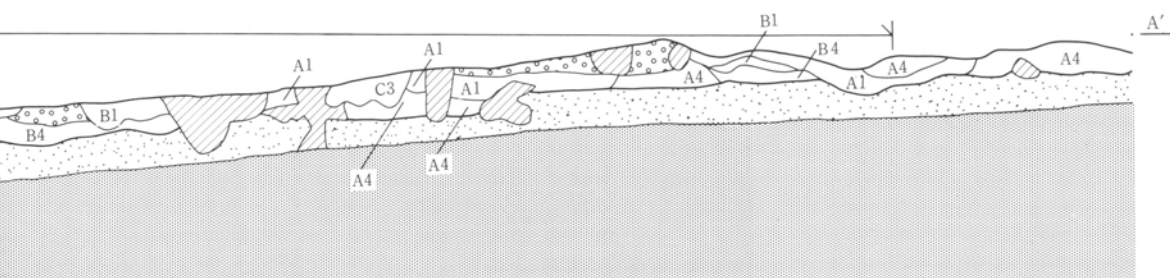
5号畦断面B(南から)



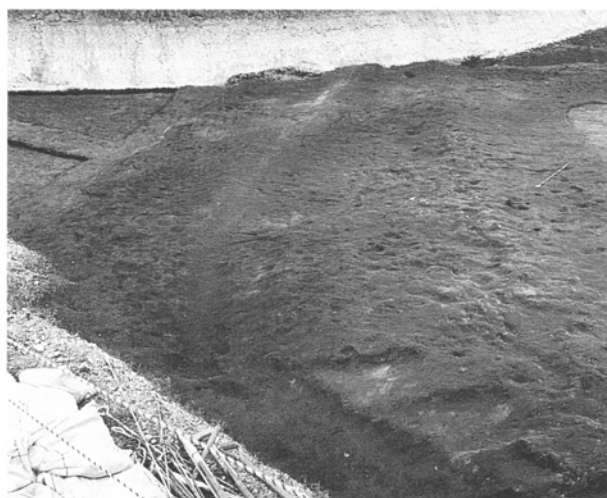
5号畦、1号道断面A（東から）



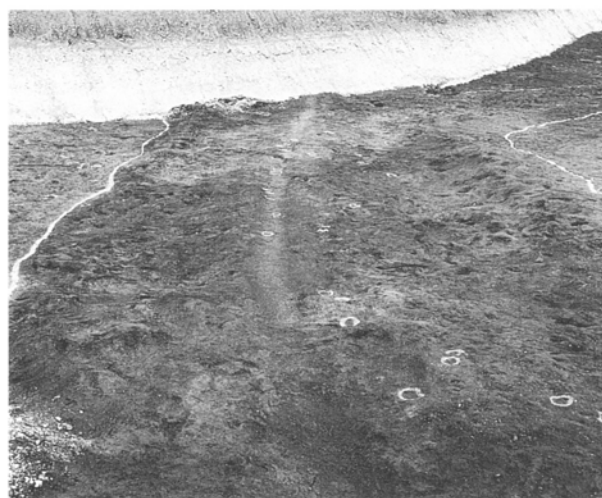
1号道断面A（南から）



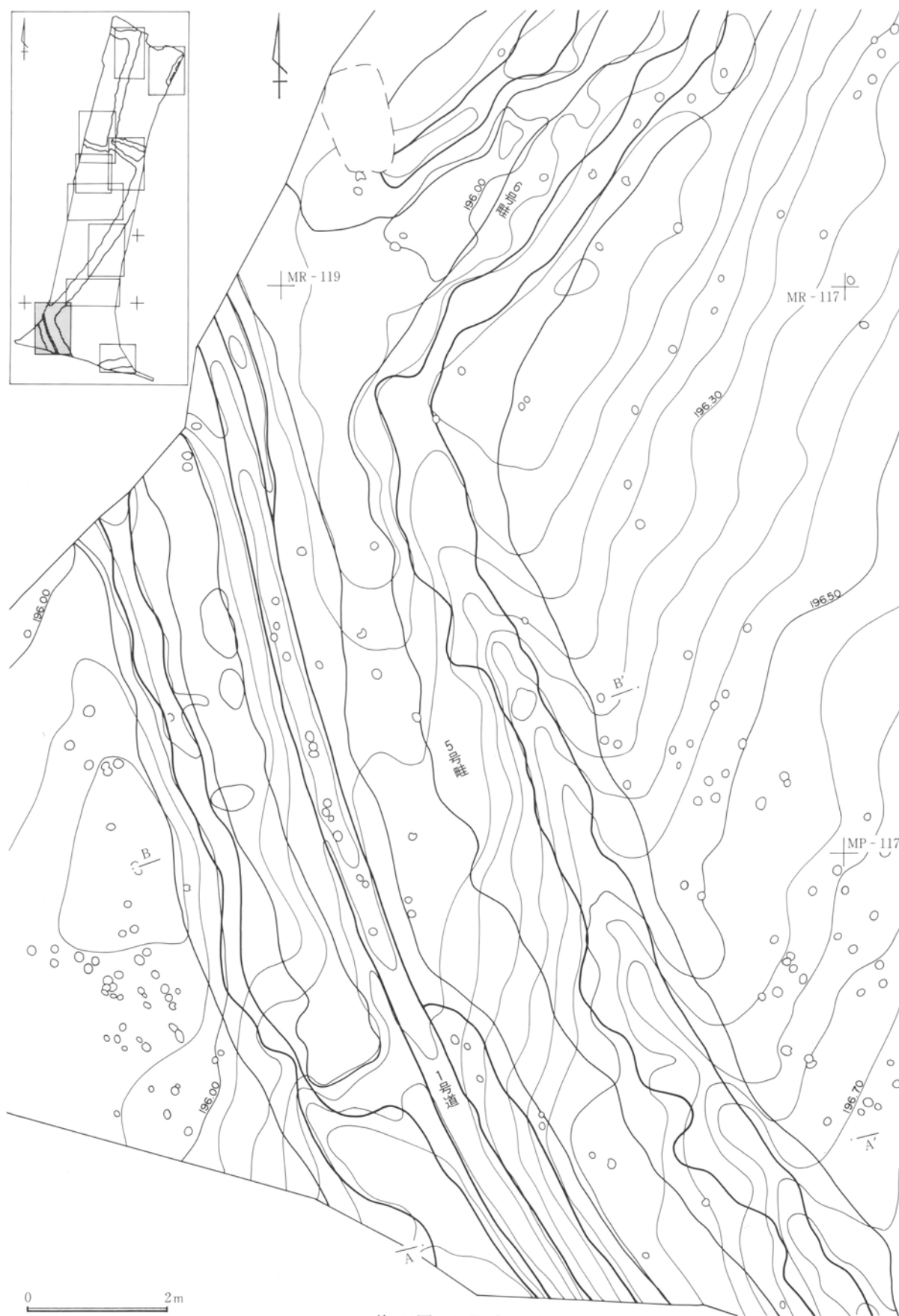
0 50cm



2-Bブロック全景（南から）



2-Bブロック全景（白線記入後）（南から）



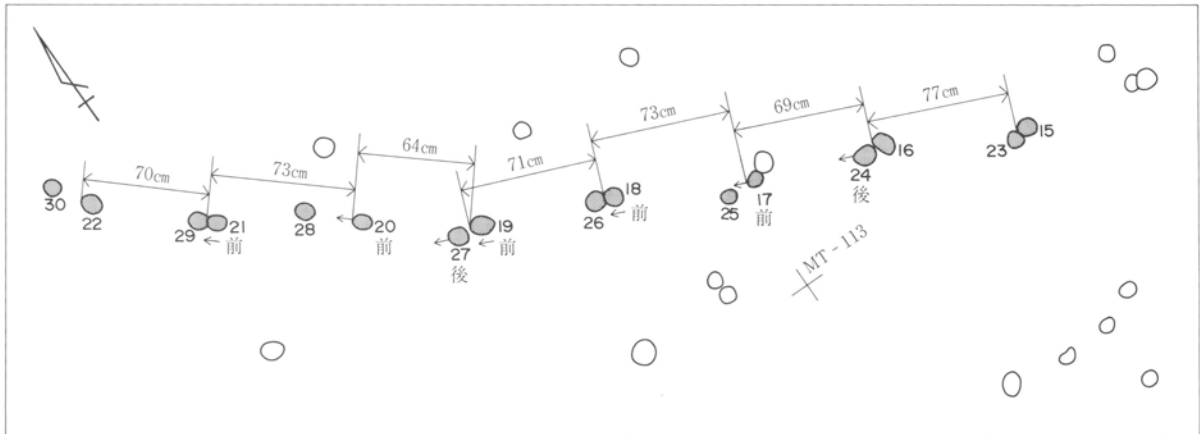
第181図 2-Bブロック

2-Cブロック

畦状遺構 6号畦：幅3.3m、高さ8cm、走向N-44°-E。中央部がやや低くなっており、2本の畦が平行するような形状である。 蹄跡 MS-113、MS-114グリッドで、ほぼ直線的に谷底へ向かって下りる7歩分の行跡（ひと続きの足跡）が確認された。前肢の蹄幅は平均94mm、後肢の蹄幅は平均92mm、歩幅は平均72cmである。この行跡は、畦の手前でわからなくなる。

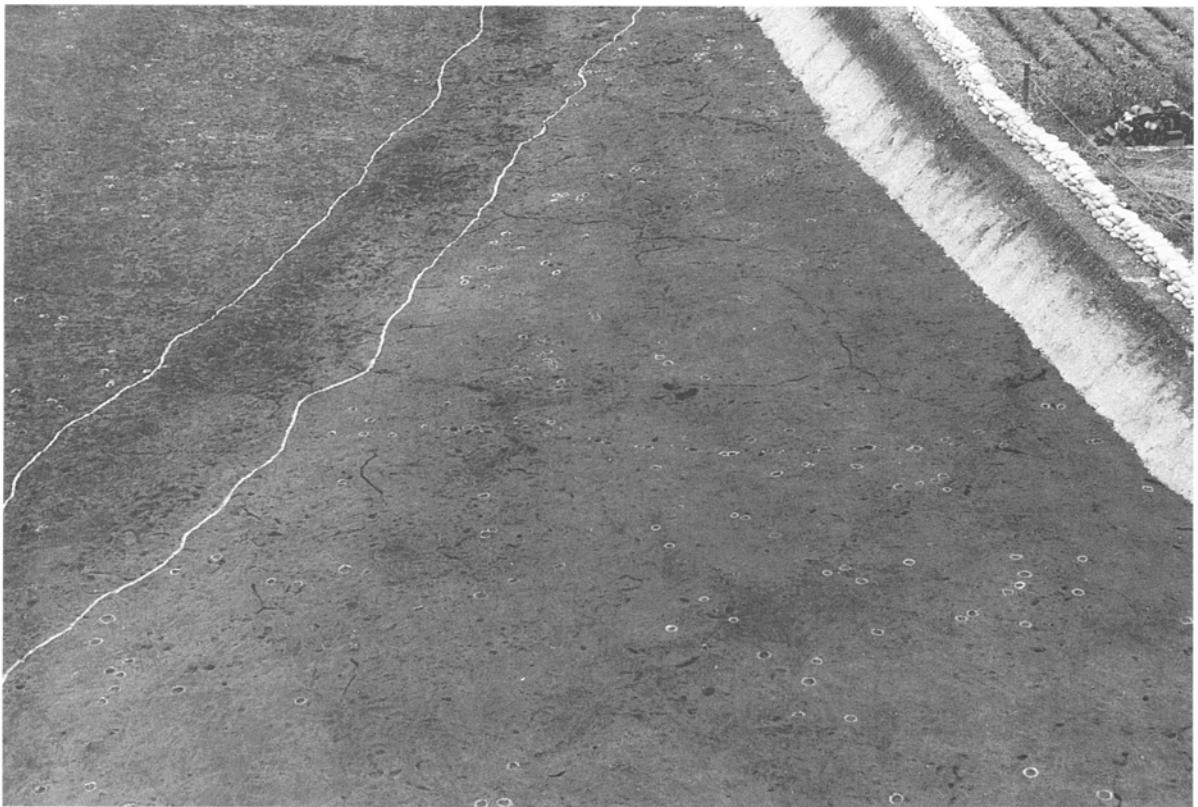


ウマの行跡（東から）

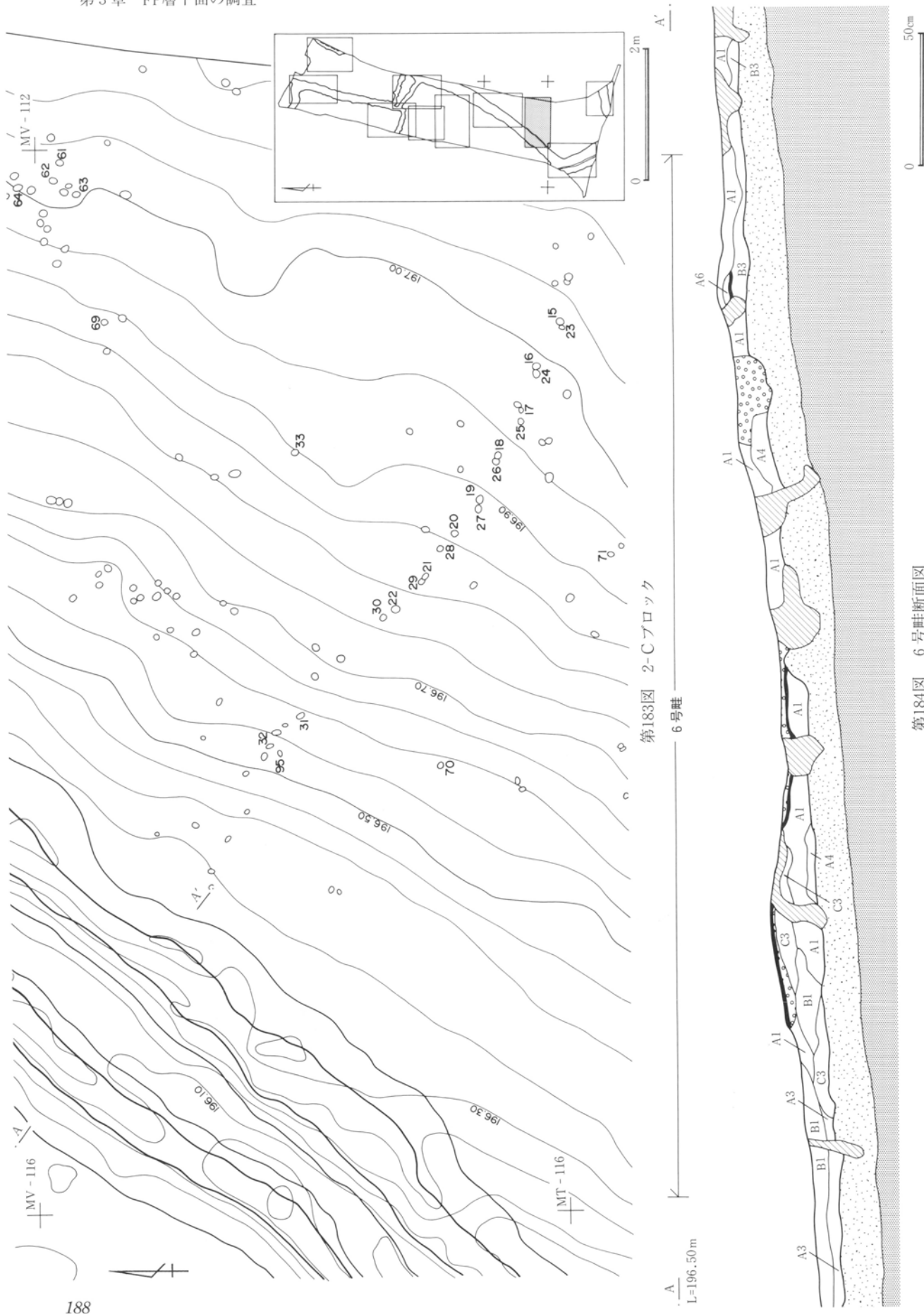


第182図 ウマの行跡（MS-113・MS-114グリッド）

0 1m

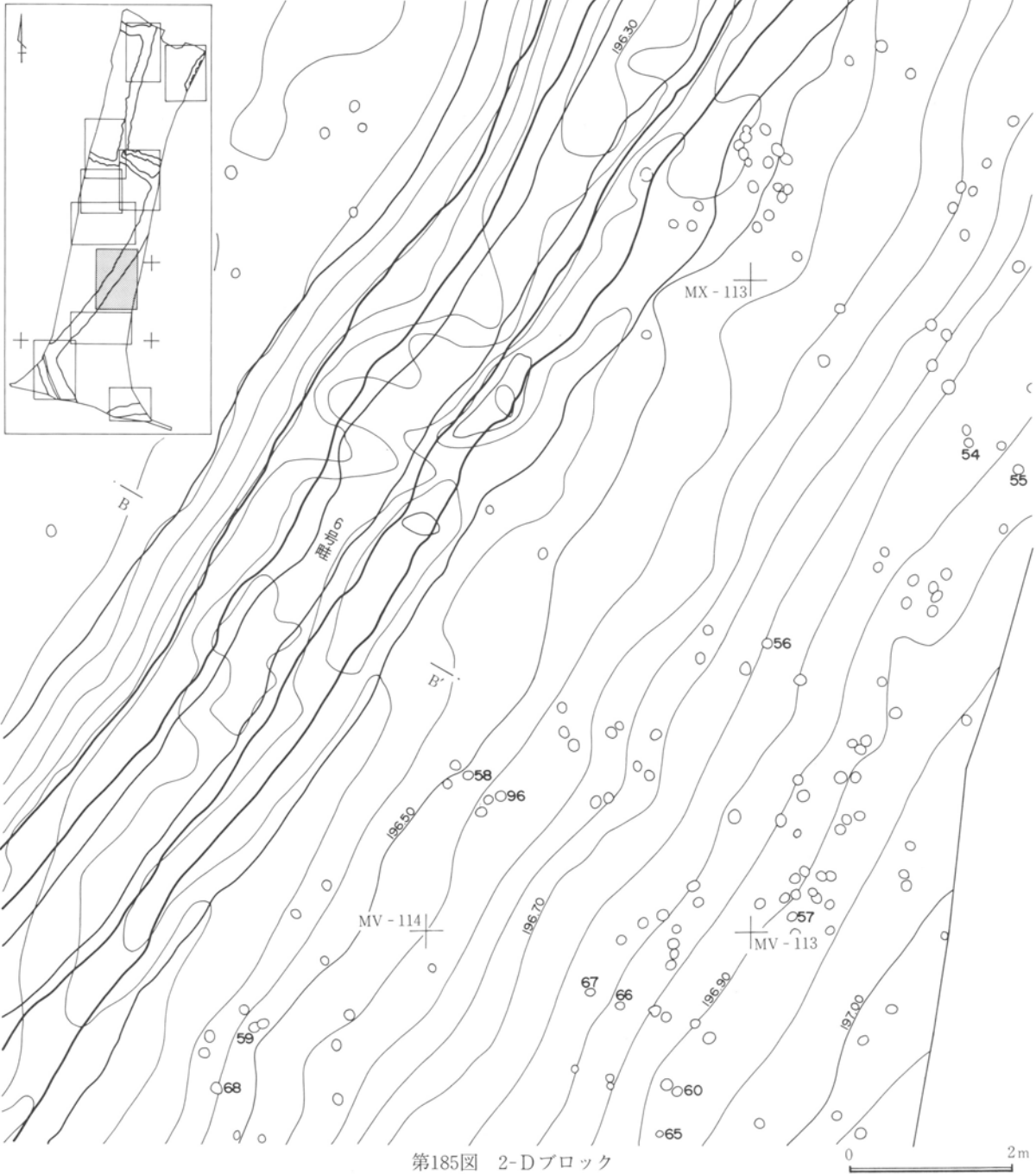


2-Cブロック全景（南から）



2-Dブロック

畦状遺構 6号畦：幅3.1m、高さ15cm、走向N-36°-E。谷の底面の東寄りや谷に沿うように伸びている。畦下のFA下面が、どの断面でも僅かに高まっている。断面Cでは、中間に炭化物の薄い層を挟んでいる。また、植物珪酸体分析で、樹木起源の珪酸体が周辺よりも多く検出された。**跡跡 6号畦**の東側の斜面ではやや多いが、畦の西側の谷底部では、あまり確認できなかった。



第185図 2-Dブロック

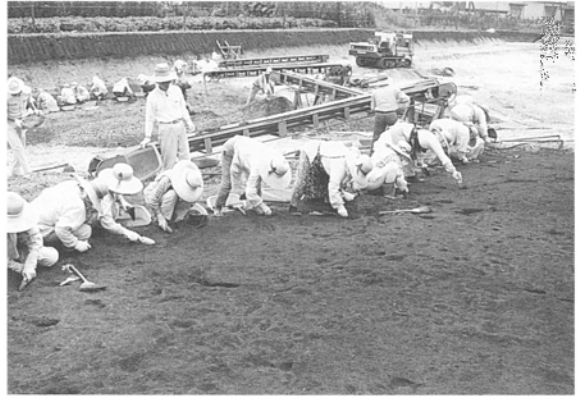


第186図 6号畦断面図



2-Eブロック

蹄跡 NB-115、NB-116グリッド付近で、直線的に並ぶ蹄跡が平行して2列確認された。はっきりとした行跡は認められないが、南側の列は蹄跡が南東向きに揃っており、谷底へ向かって下りる一連のものと考えられる。また、ND-115グリッド付近でも蹄跡の列が検出された。西向きと判定できる蹄跡が複数あり、斜面を登るように移動したものと思われる。谷底部分にはあまり蹄跡が認められない。



調査風景



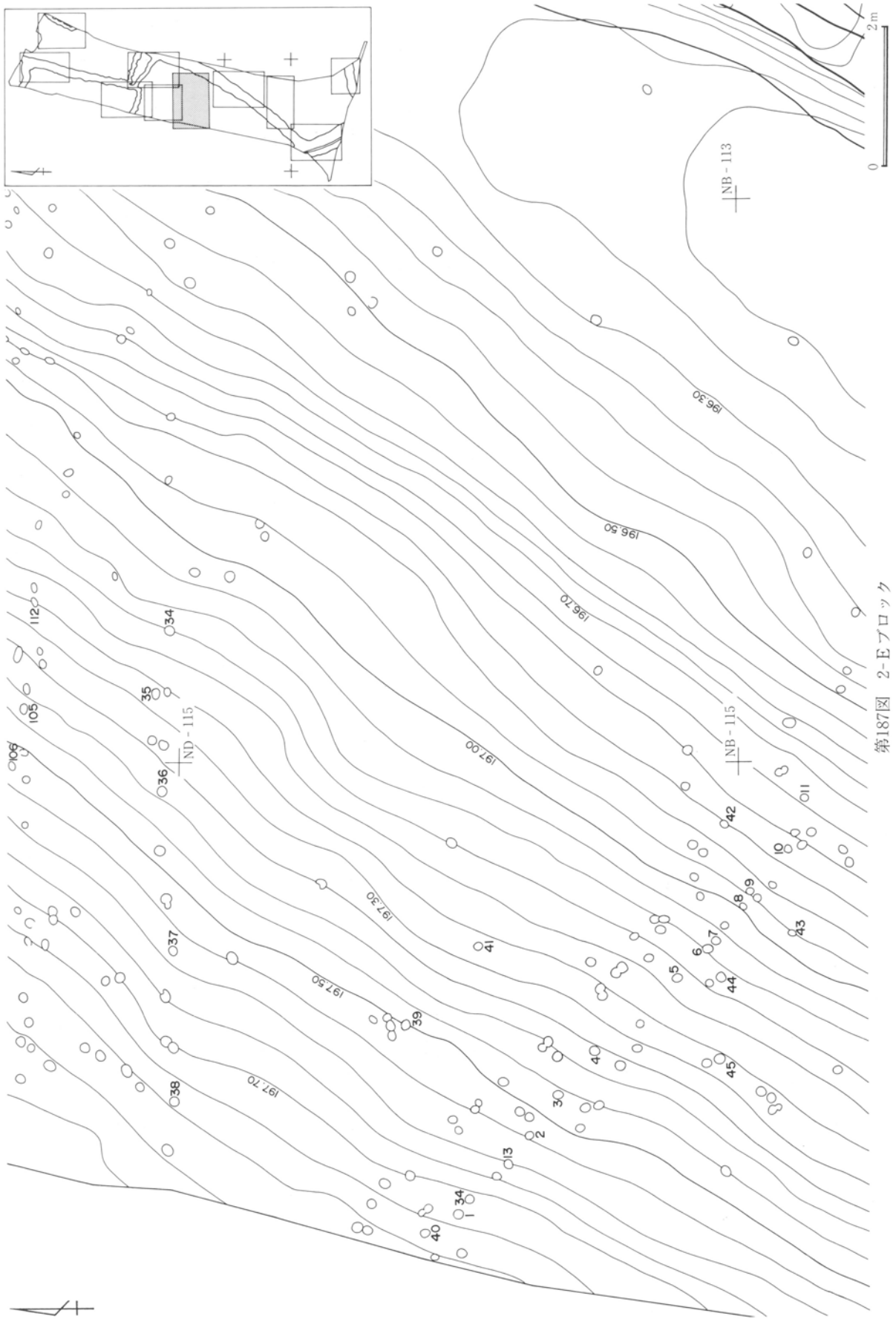
ウマの行跡（北西から）



蹄跡



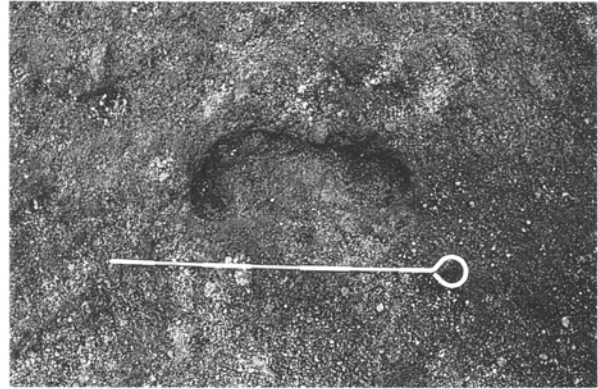
2-Eブロック全景（南東から）



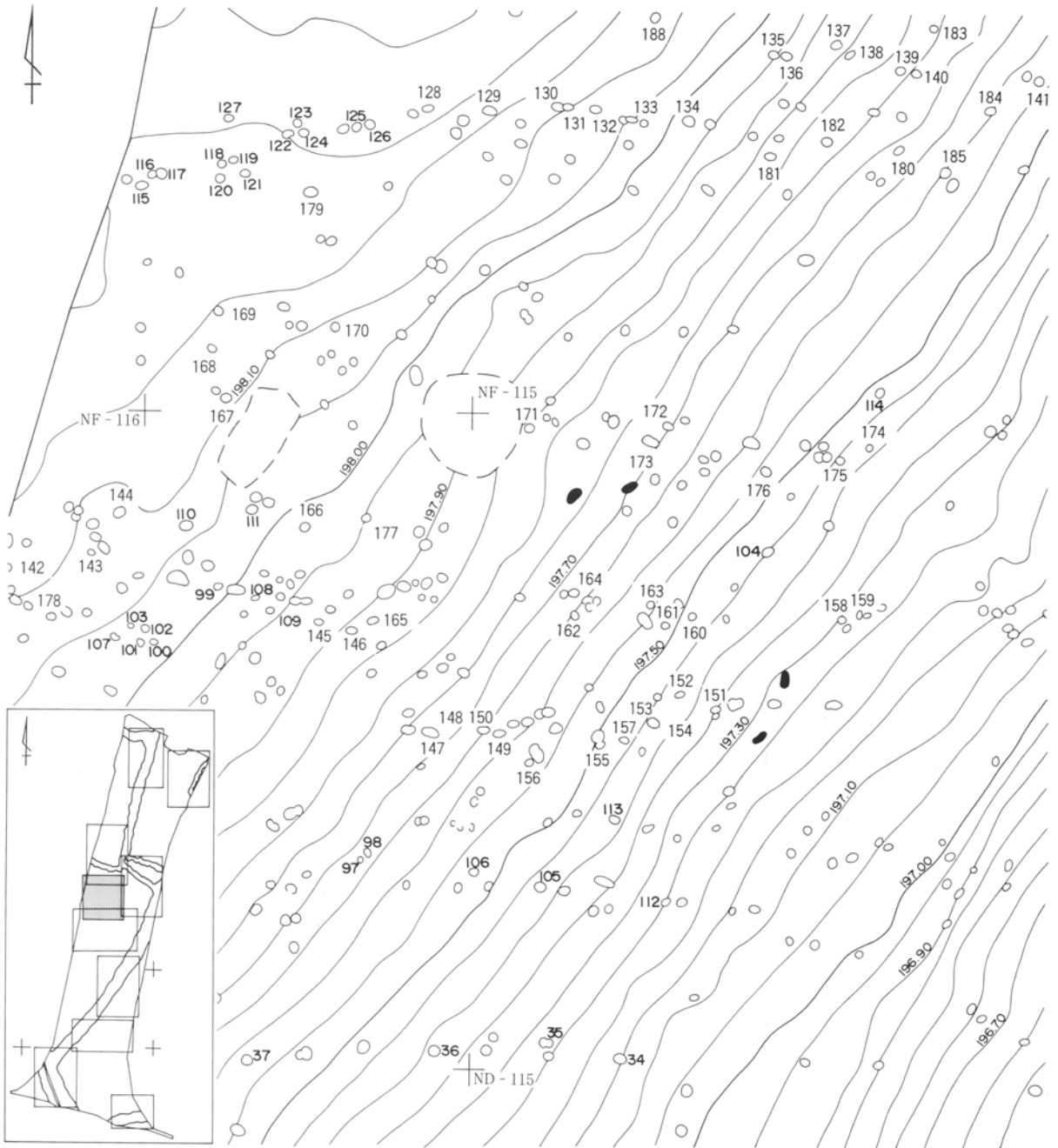
第187図 2-Eプロック

2-Fブロック

蹄跡 やや多く、斜面を登り下りする方向に列ができています。NF-114、NF-115では、谷底へ向かって下りる8歩分の行跡（ひと続きの足跡）が確認された。前肢の蹄幅は平均113mm、後肢の蹄幅は平均103mm、歩幅は平均83cmである。この行跡は、斜面の途中でわからなくなる。 ヒトの足跡 NE-114グリッドで4個検出された。グリッド南東隅の2個は、指の形まで識別できる。

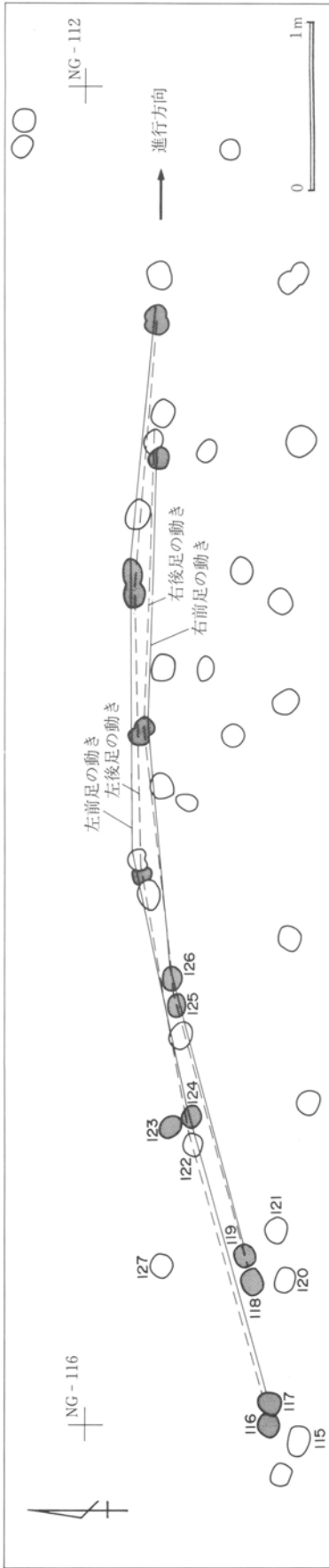


ヒトの足跡



第188図 2-Fブロック

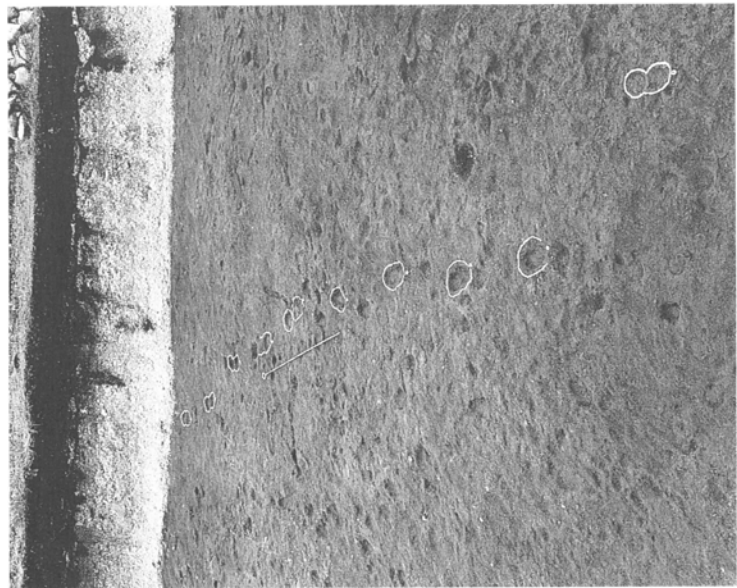
0 2m



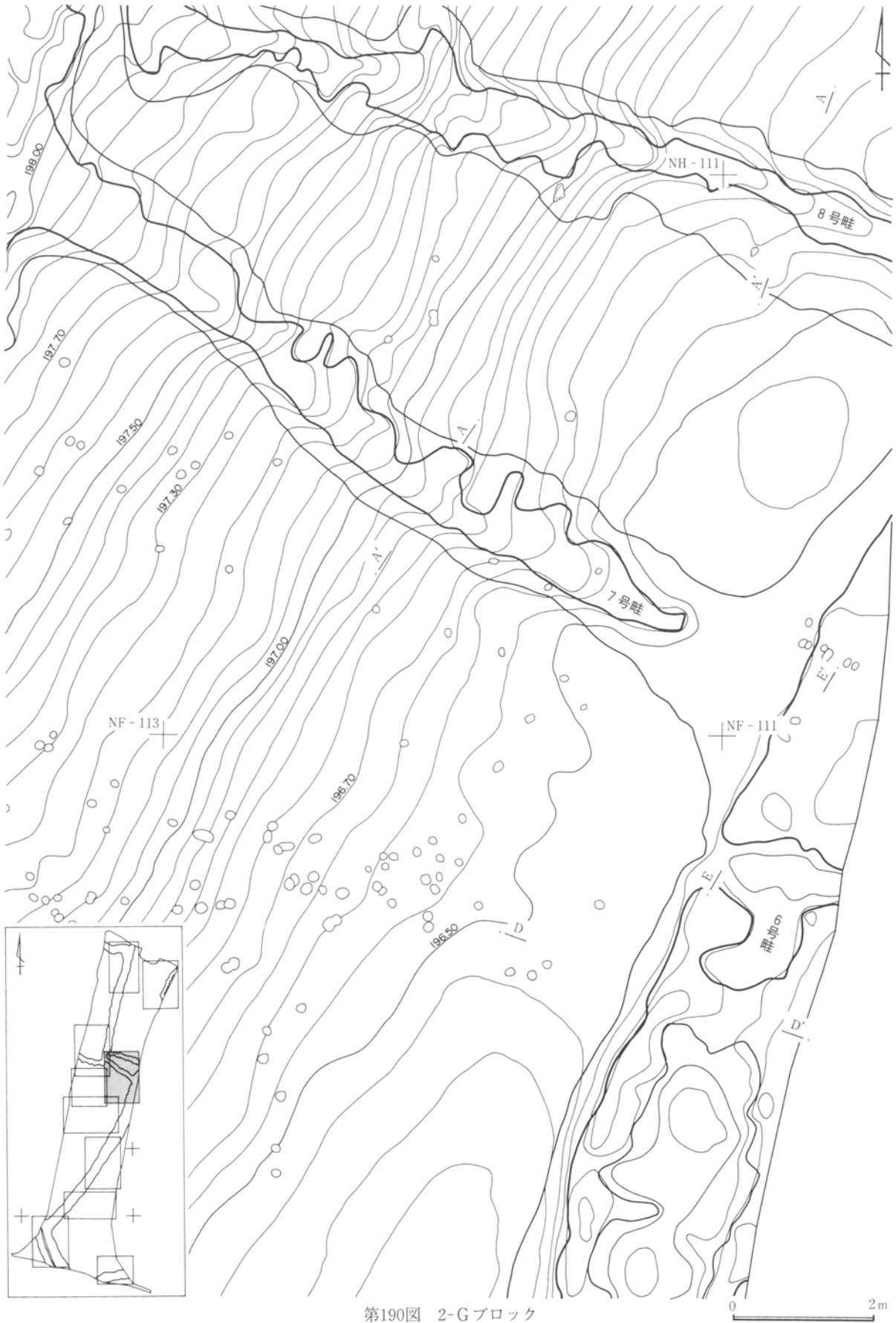
第189図 ウマの行跡(NF-114・NF-115グリッド)



2-Fプロック全景 (南から)



ウマの行跡 (東から)

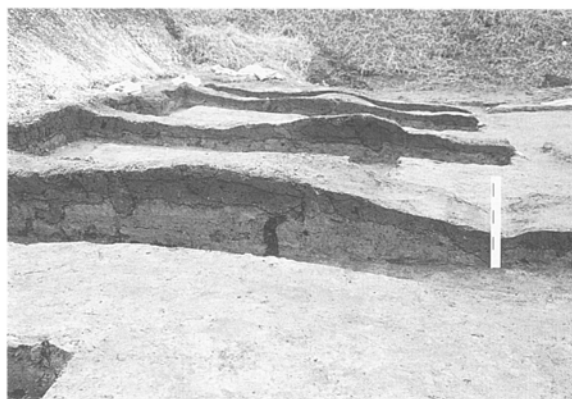


第190図 2-Gブロック

第3章 FP層下面の調査

2-Gブロック

畦状遺構 6号畦：幅2.7m、高さ15cm、走向N-21°-E。中央部がやや低くなっている。断面Aでは、FP-FA間に炭化物層が2層認められる。7号畦：幅1.4m、高さ8cm、走向N-56°-W。6号畦と11号畦を繋ぐように伸びる。表面は黒色みを帯び、FP混じりの土があまりない。8号畦：幅2.0m、高さ15cm、走向N-18.5°-E。7号畦と同様に、2本の畦を繋ぐように伸びる。跡跡 NE-112グリッドでやや集中するが、全体的に少なく、8号畦以北では跡跡は認められない。



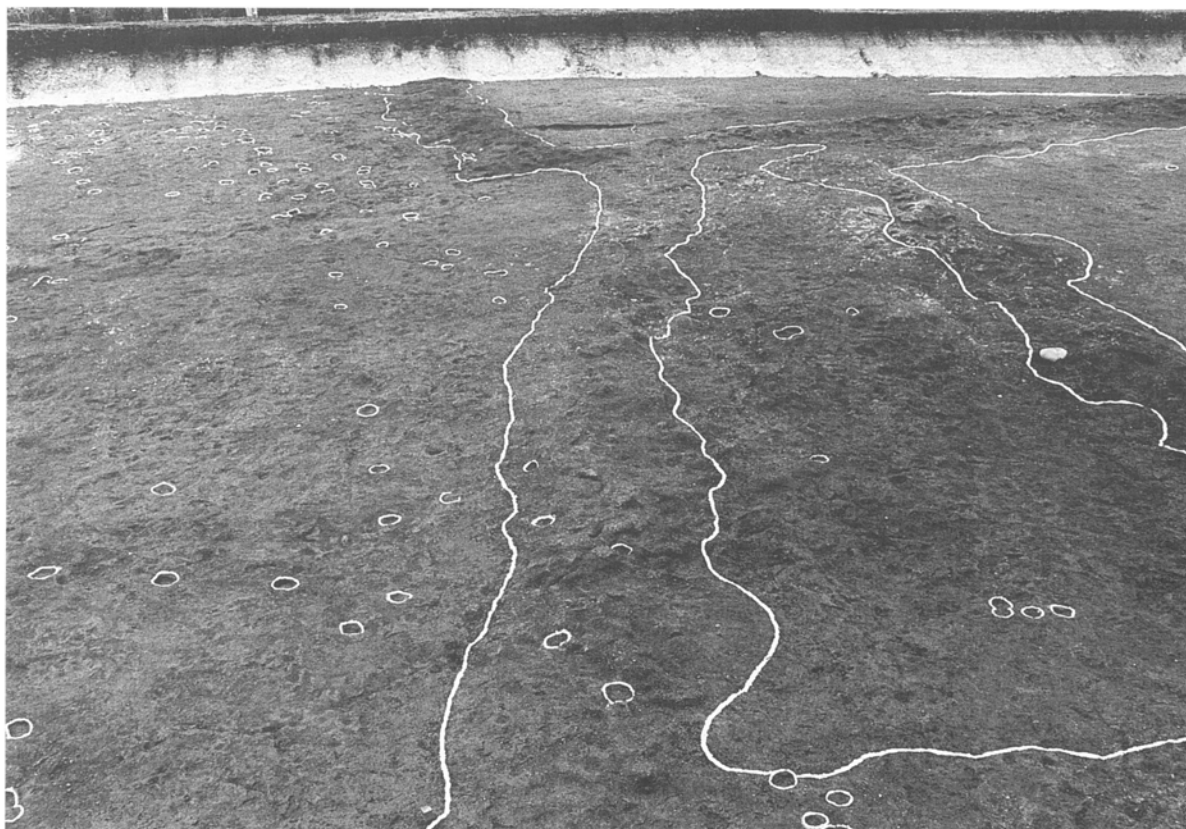
6号畦断面A（東から）



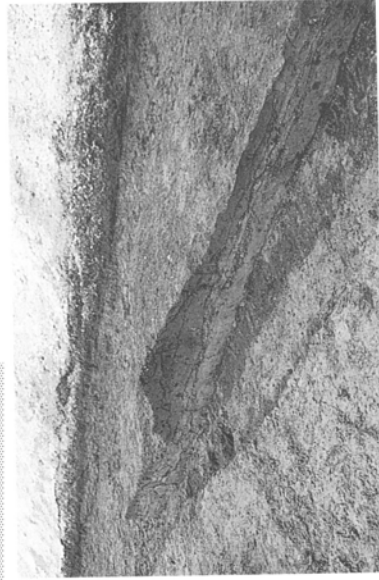
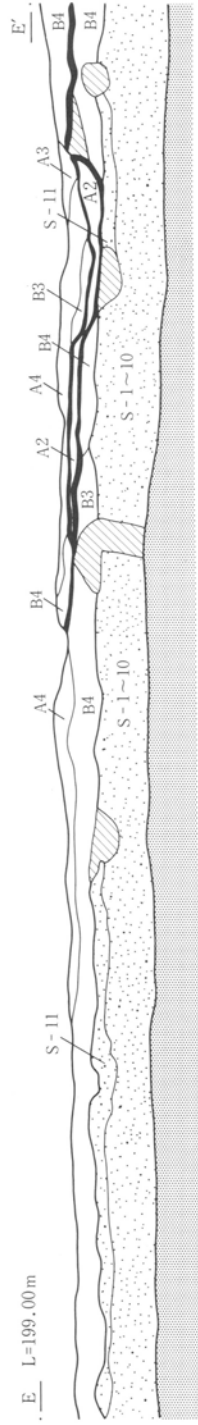
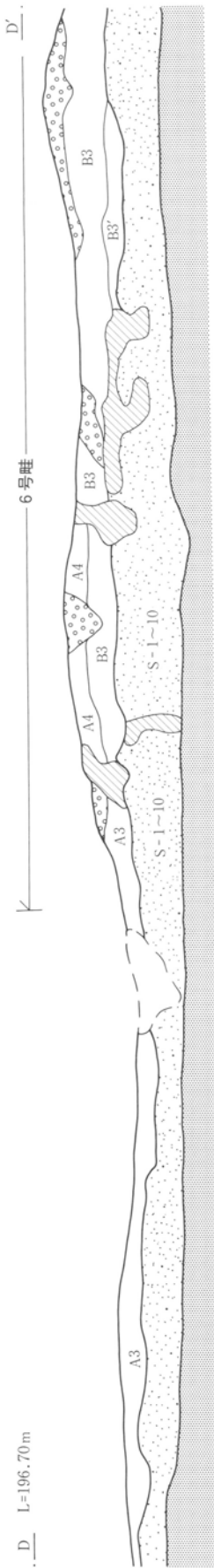
6号畦断面B（西から）



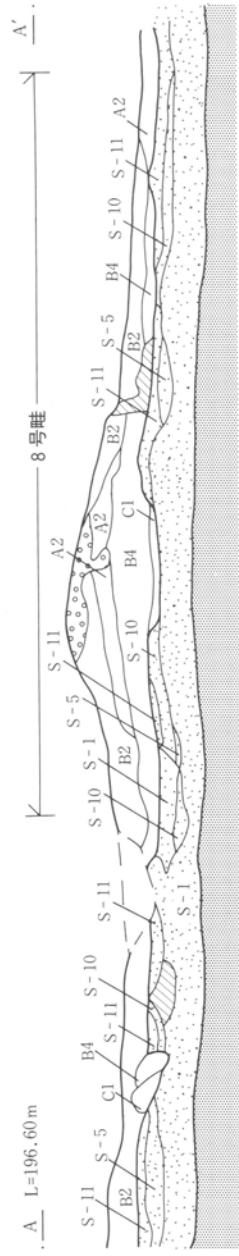
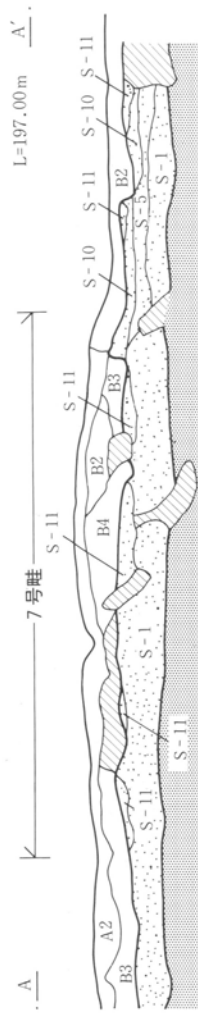
7号畦断面A（西から）



2-Gブロック全景（東から）



8号畦断面A (西から)

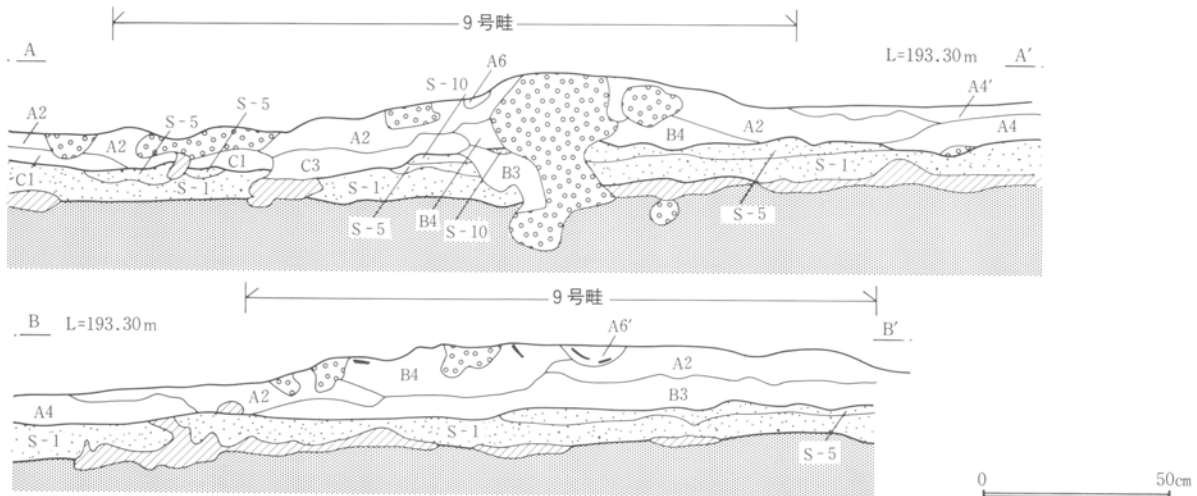


第191図 6号・7号・8号畦断面図

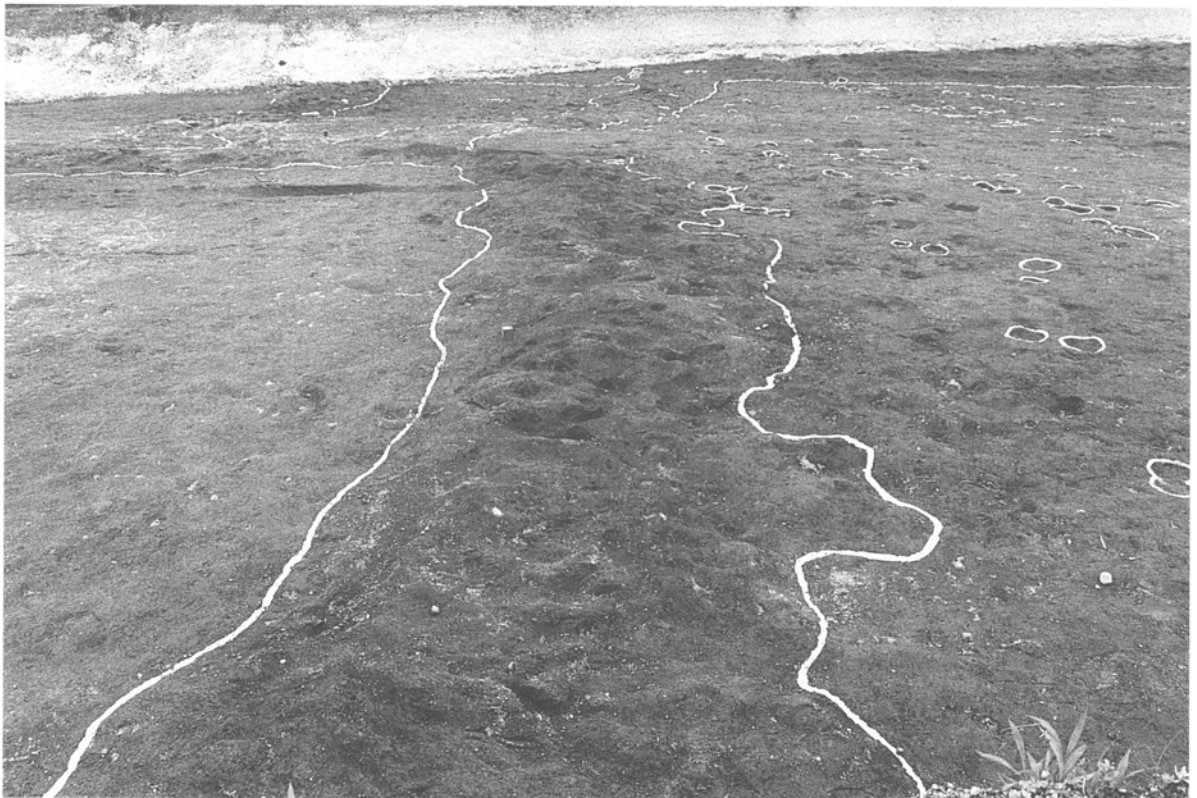
2-Hブロック

畦状遺構 11号畦：幅3.0m、高さ10cm、走向N-17°-E。幅の広い直線的な畦だが、このブロックで3本の畦に分かれる。9号畦：幅1.8m、高さ10cm、走向N-78°-W。畦上に炭化物と焼土が分布する。畦の南側の下端は出入りが激しいが、北側は比較的緩やかである。また断面Cでは、畦の上位のFPの堆積に乱れがあり、畦上に何かあったものと思われるが、柱穴は確認されていない。 跡跡 9号畦

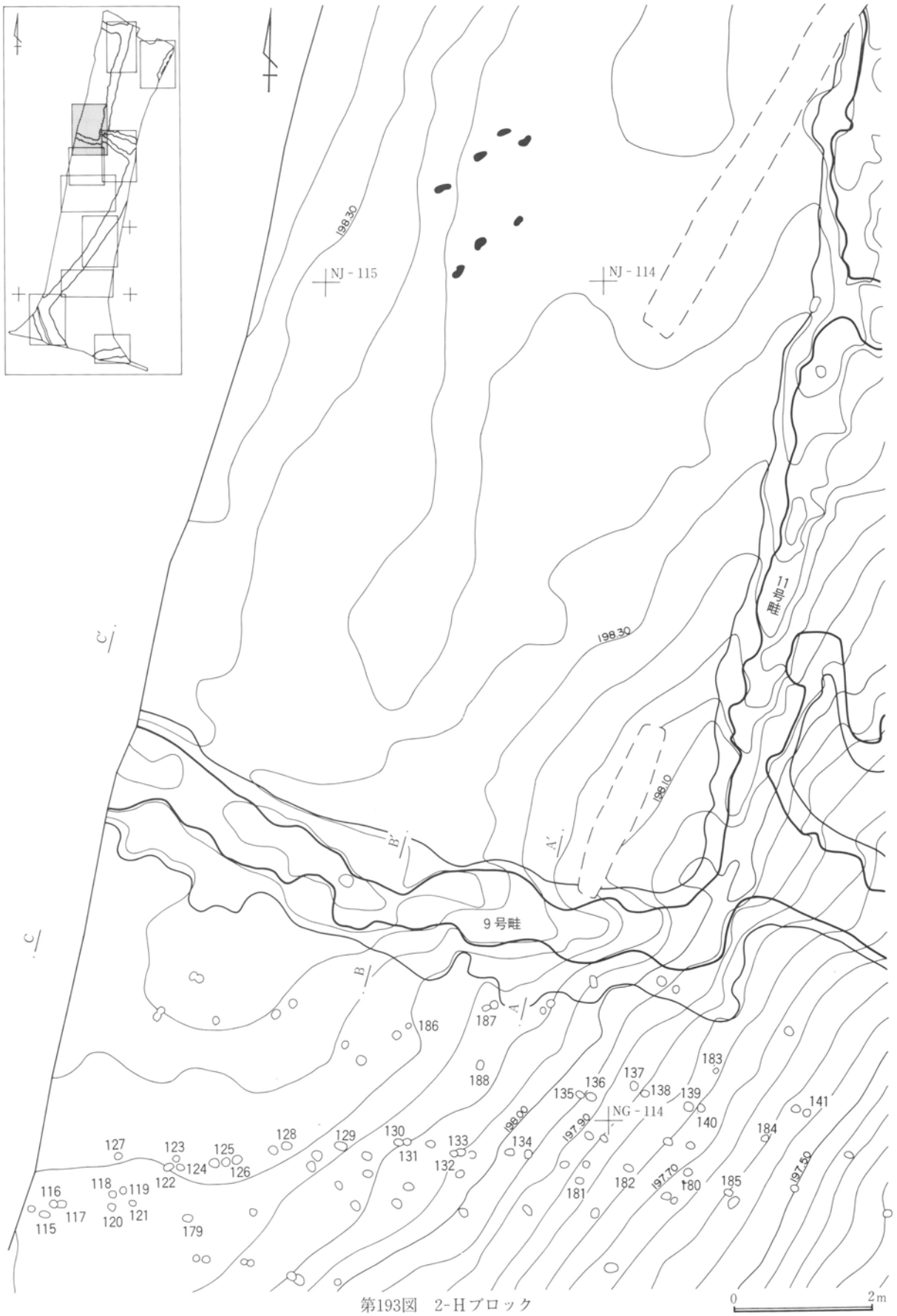
以南では少量分布するが、北側では検出されなかった。 ヒトの足跡 NJ-114グリッドで7個確認された。長さは約22cmである。 その他 9号畦の両側で地表面の様子に変化がある。南側は跡跡が多く黒褐色であり、北側は跡跡がなく暗褐色である。また南側が斜面であるのに対し、北側は平坦な面である。植物珪酸体分析でも、畦を境にススキ属型の密度に大きな差があり、南側が多い。炭化種子分析では、9号畦でアズキ近似種が検出された(P430参照)。



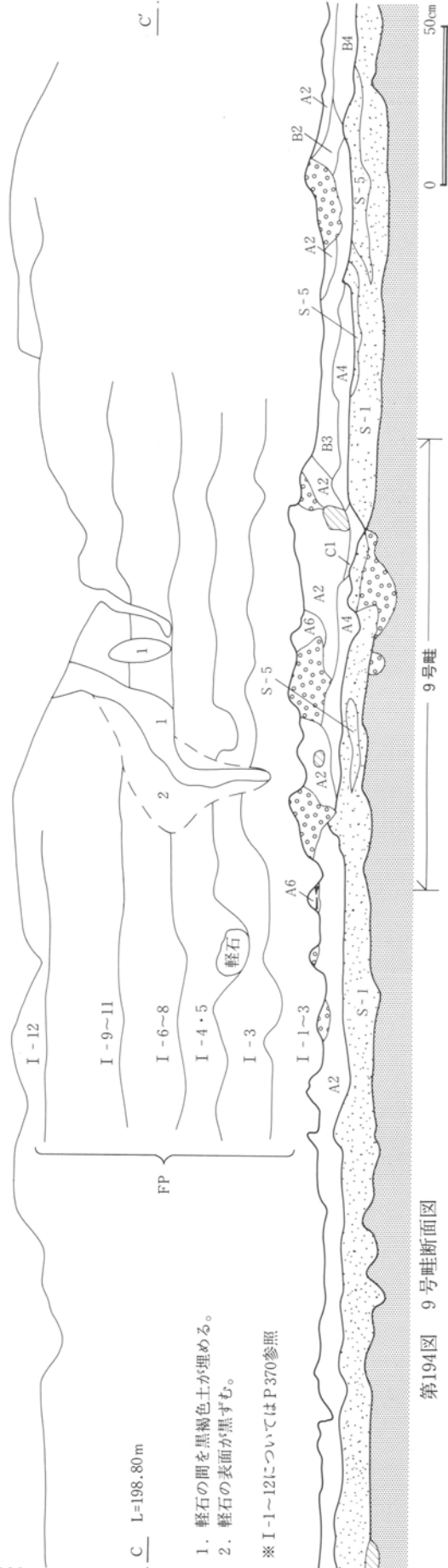
第192図 9号畦断面図



9号畦 (西から)



I・II



C L=198.80m

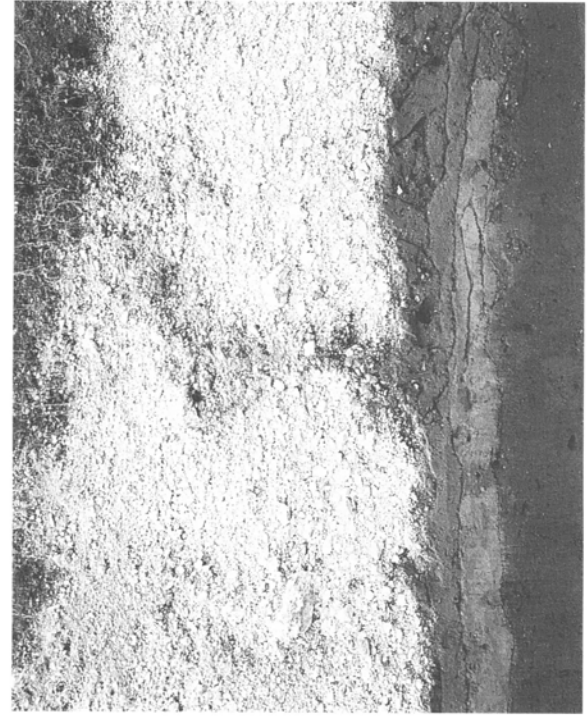
1. 軽石の間を黒褐色土が埋める。
2. 軽石の表面が黒ずむ。

※ I-1-12についてはP370参照

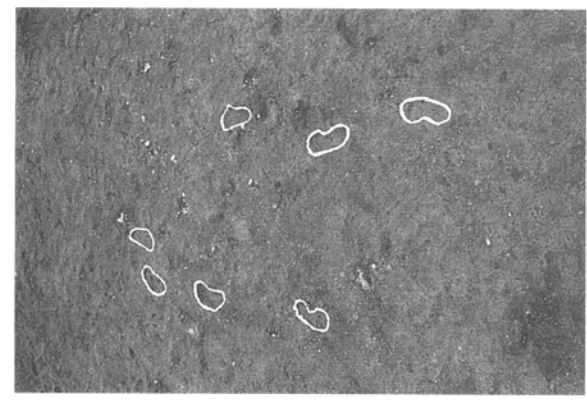
第194図 9号畦断面図



9号畦断面A (東から)



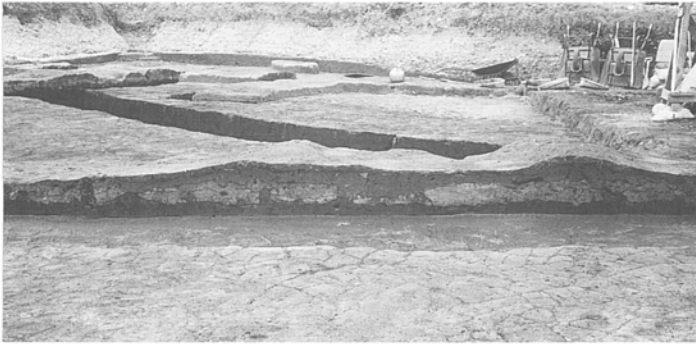
9号畦断面C (東から)



ヒトの足跡 (南西から)

2-Iブロック

畦状遺構 11号畦：幅2.7m、高さ15cm、走向N-17°-E。中央部がやや低くなっており、量は少ないが炭化物や焼土が見られる。直線的に伸び、北中道3区へ続いている。 12号畦：幅2.8m、高さ8cm、走向N-75°-W。11号畦とT字に交わる。中央部が低く、両端が高い。表面は黒みを帯び、FP混じりの土があまりない。 跡跡 全く検出されなかった。



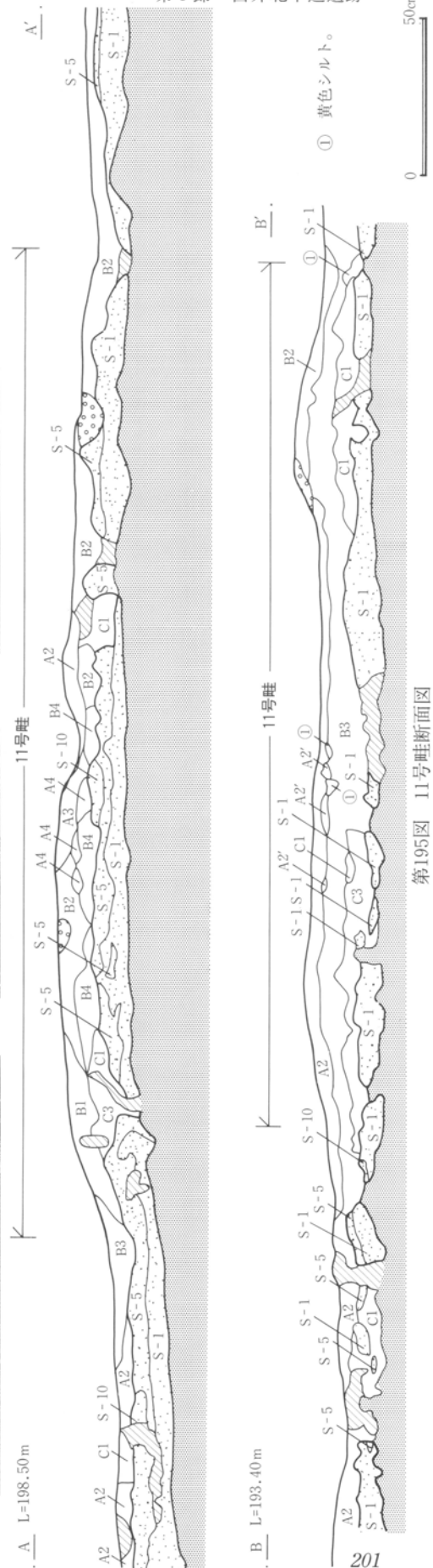
11号畦断面B (南から)



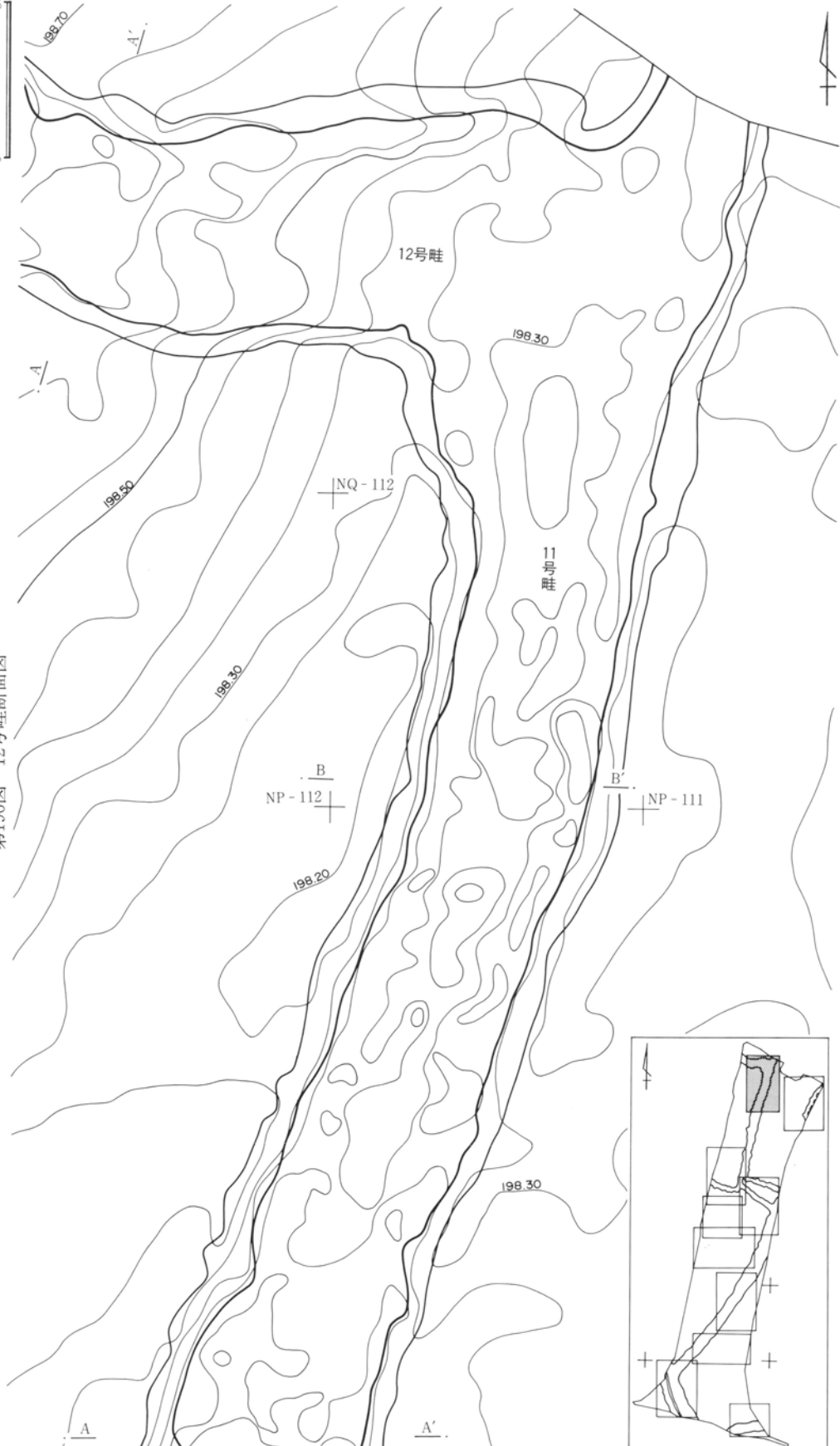
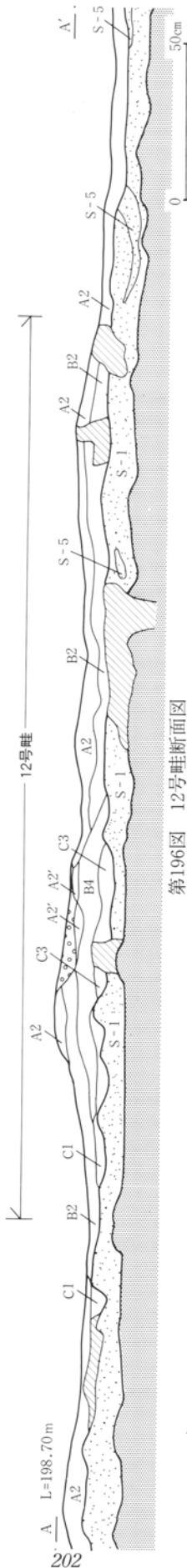
12号畦断面A (南から)



11号畦 (北から)



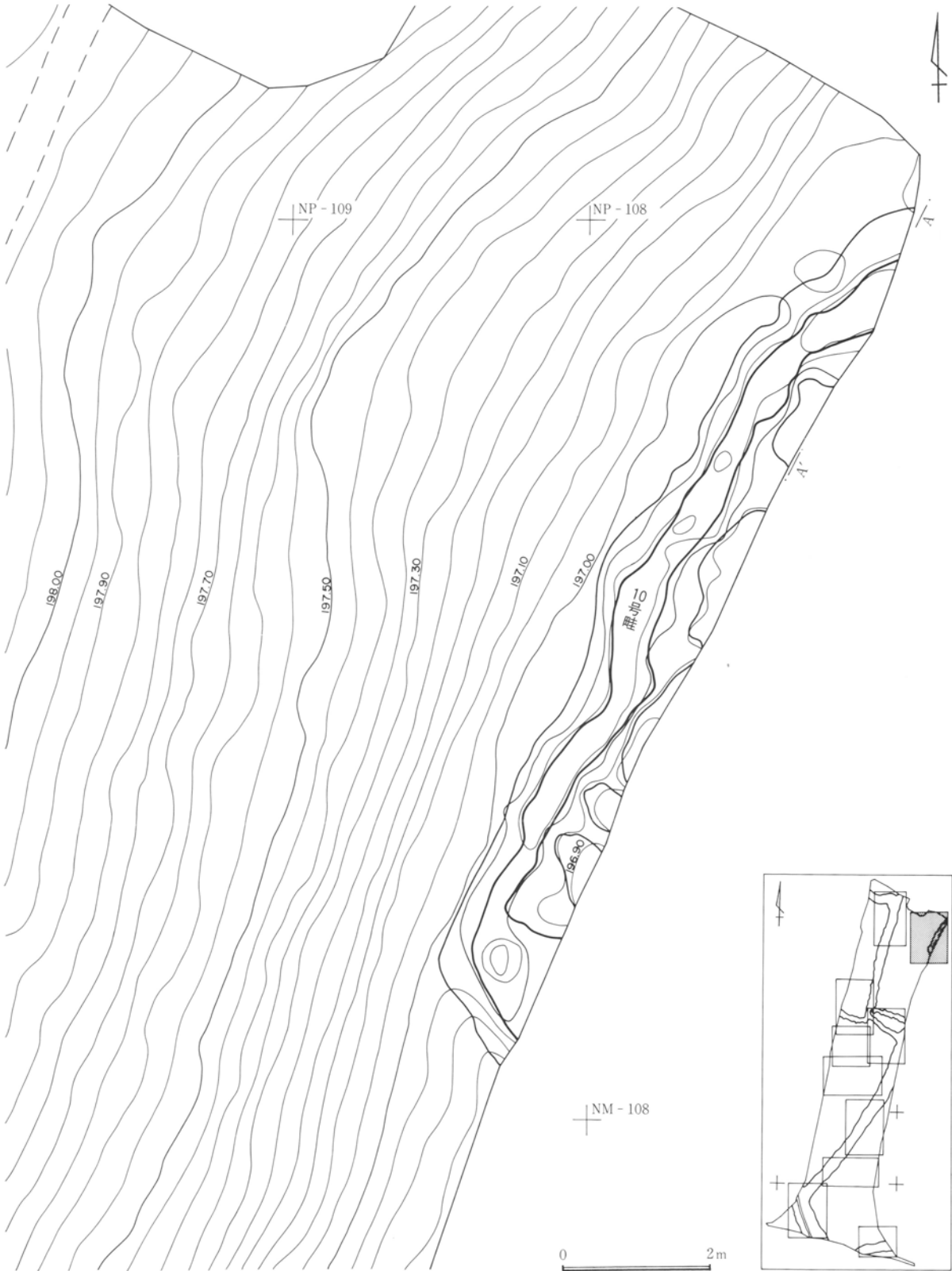
第195図 11号畦断面図



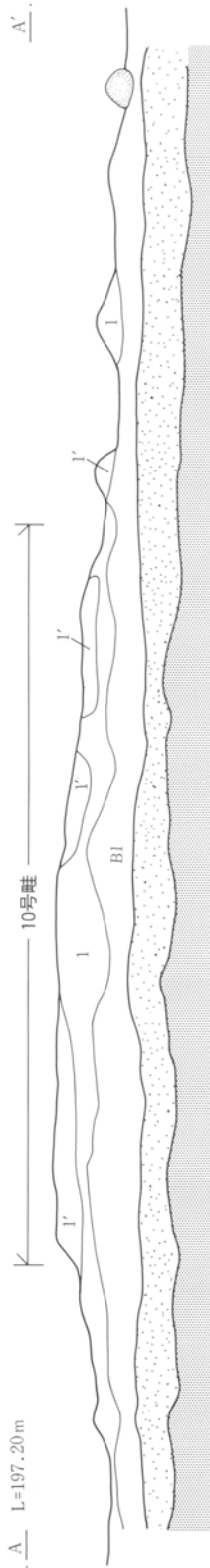
2-Jブロック

畦状遺構 10号畦：幅2.3m、高さ15cm、走向N-25°-E。谷の底面に近いところで検出された。黄色

シルトが畦中にパイプ状に入り込んでいる。 蹄跡
全く検出されなかった。



第198図 2-Jブロック

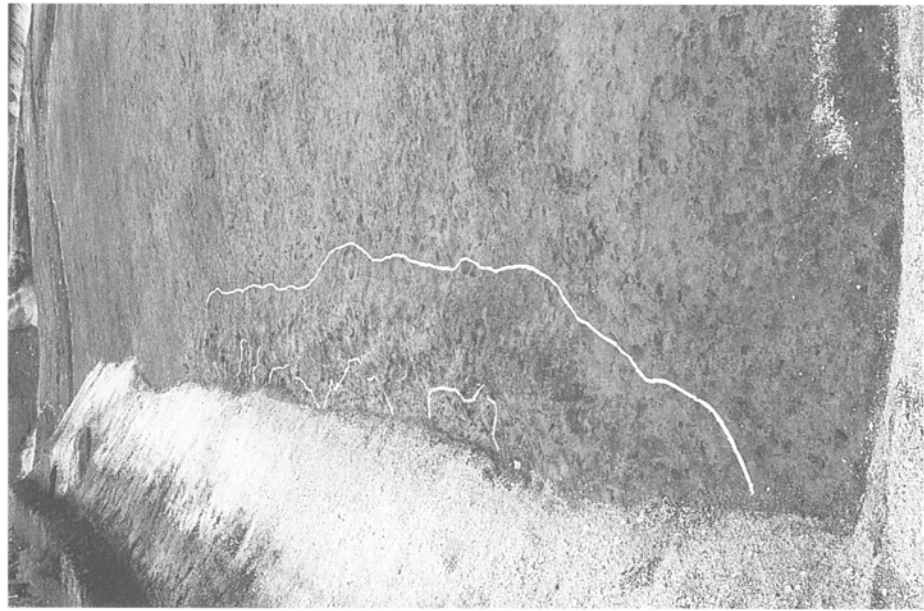


- 1 暗褐色土。黄色シルトのバイブ状ブロックを含む。
- 1' 暗褐色土。黄色シルトブロックを多く含む。

第199図 10号畦断面図



10号畦断面A (西から)



10号畦 (北から)

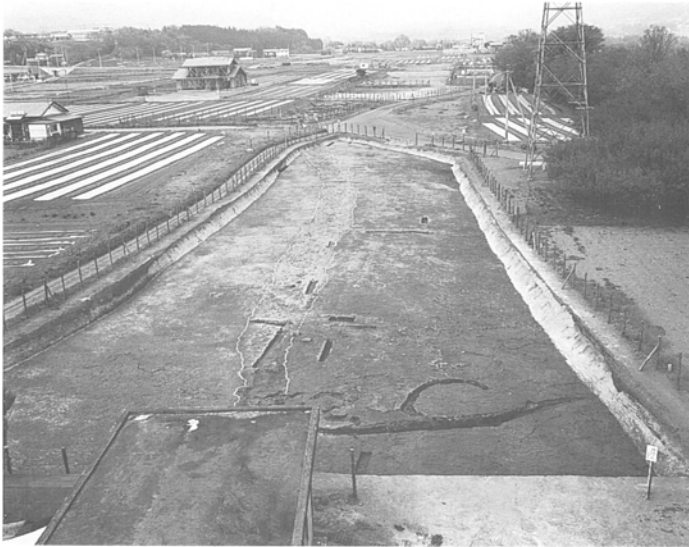
北中道2区畦セクション

遺構番号	断面番号	幅 m	高さ cm	FP混じり土	炭化物	焼土	FAの残存	FA下面の凹凸	その他
4	A	2.9	8	△	○	○	-	僅かに凸	高まり2列。炭化物の薄層2枚あり。
4	B	3.0	11	△	○	○	-	僅かに凸	高まり2列。畦上に蹄跡あり。
5	A	5.5	9	○	△	-	-	-	畦上に蹄跡あり。
5	B	6.3	16	△	△	-	-	-	攪乱が多い。
6	A	4.0	8	△	○	-	-	一部凸	高まり2列。
6	B	3.2	14	-	△	-	-	凸	攪乱が多い。
6	C	4.0	15	△	○	-	-	一部凸	高まり2列。
6	D	2.5	15	△	△	-	-	-	高まり2列。
7	A	1.4	8	-	△	-	S-11△	-	-
8	A	2.0	15	△	△	-	S-11△	僅かに凸	畦脇の落ち込みは調査時の排水溝。
9	A	1.8	11	○	△	△	S-10	僅かに凹	中央部に木の真跡あり。
9	B	1.7	10	△	○	△	S-5△	-	-
9	C	1.7	10	○	○	△	S-5○	凸	-
10	A	1.4	15	-	-	-	-	僅かに凸	黄色シルトのブロックを含む。
11	A	3.1	15	△	△	-	S-10	凸	-
11	B	2.7	10	△	△	-	S-1△	-	FAの残存状況悪い。
12	A	2.8	8	△	△	-	S-1×	僅かに凸	-

3区概要

微地形 調査区南東隅に、北中道2区から続く谷の斜面が検出された。この谷に合流するように伸びる、浅い谷が南西部にある。他は平坦な面で、東へやや傾斜している。遺構 幅の広い畦状遺構が、調査区を縦断するように、ほぼ直線的に伸びる。跡跡分布 非常に少ない。検出されないグリッドが多い。

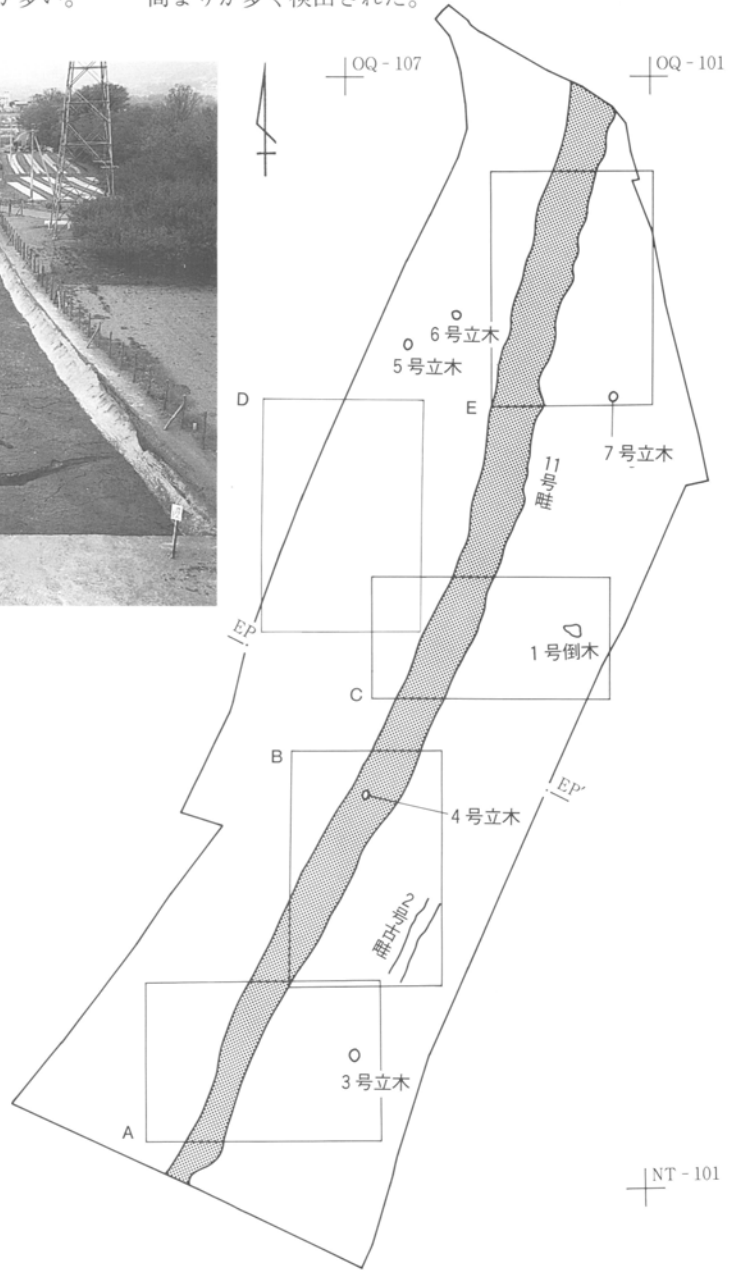
地表面の様子 白色軽石が、地表面に点在する。特に1号畦上には、拳大以上の軽石が多く、これらは堆積の状況から、FPではないと思われる。南西隅の谷部分では、黄色シルトが地表面に張り付いている。また、調査区中程には倒木の痕跡が、落ち込みとして残っている。調査区の北部では、根株跡状の高まりが多く検出された。



北中道3区全景（南から）



北中道3区西部（南から）



第200図 北中道3区全体図

0 15m



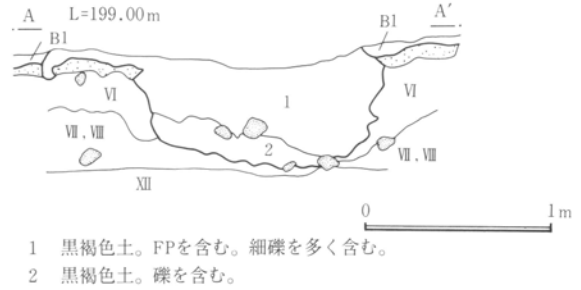
第201図 3区断面図

0 5m

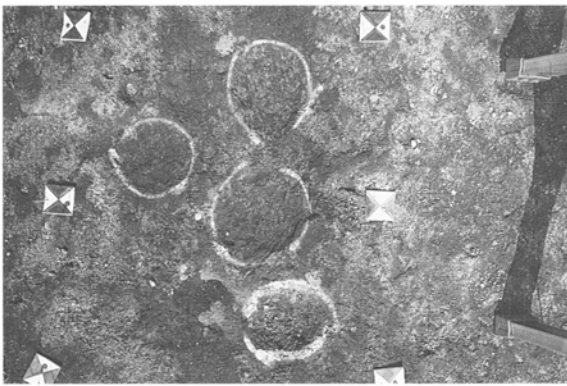
3-Aブロック

畦状遺構 11号畦：幅3.0m、高さ9cm、走向N-24°-E。谷部分は畦幅がやや細くなるものの、地形に影響されることなく、直線的に伸びており、北中道2区へ連続する。**蹄跡** 少ないが、11号畦の西側は比較的残存状況が良い。**立木** 3号立木：FP直下面では僅かな凹みのみで、平面確認はFA上面で行った。FP混じりの黒褐色土で埋まる。断面の形状を見ると土坑様で、根の張出しが認められないことから、立木痕でない可能性もある。その他11号畦以東の谷部分は、FP降下以降に浸食を受け

ている。また、黄色シルトが地表面に張り付いており、FP-FA間の土壌層中にも攪乱を充填するように入り込んでいる。



第202図 3号立木断面図



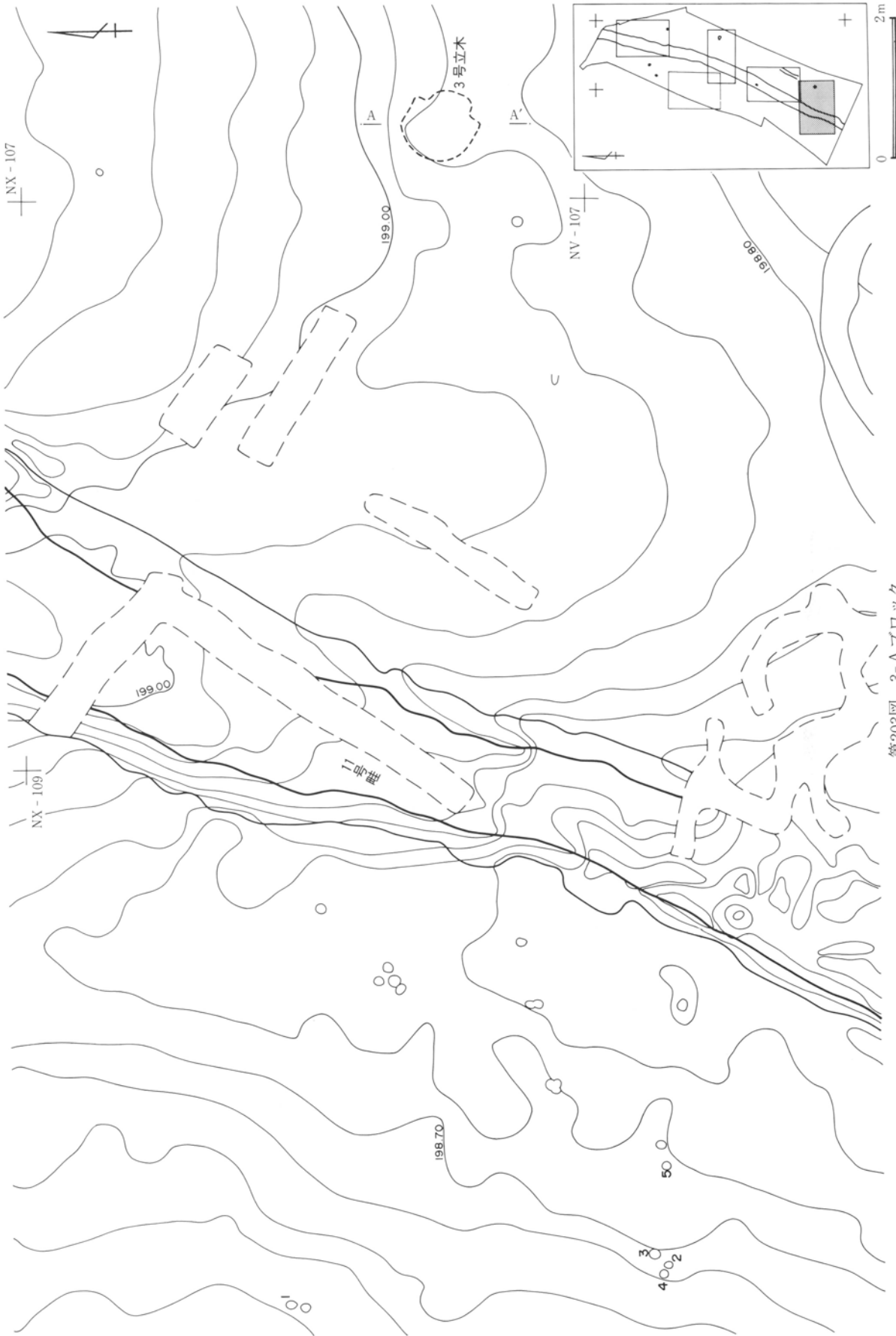
蹄跡



3号立木断面 (東から)



3-Aブロック全景 (南から)



第203図 3-Aブロック

3-Bブロック

畦状遺構 11号畦：幅3.6m、高さ19cm、走向N-28°-E。中央部がやや低くなっており、2本の畦が平行するような形状である。断面Dで畦中に炭化物層が認められるが、これは面的な広がりを持ち、草本類の茎や葉が断片的に形状をとどめている。また、畦上には拳大以上の軽石が、点々と見られる。

古い畦状遺構 3号古畦：幅0.9m、走向N-26°-W。NX-105、NY-105グリッドで、FP-FA間の土壤層を少し削ると、炭化物や焼土粒の混じる土壤が帯状に分布する。この下部のFAはS-11まで認められ、残

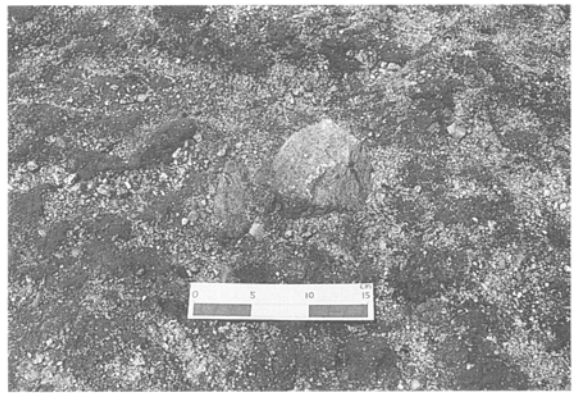
存状況が良い。 跡跡 非常に少ない。 立木 4号立木：上幅約70cm、深さ15cmの円形の落ち込みとして、11号畦上で確認された。根跡部分の土層はFPを含むものが主体で、一部FAを含む。 その他畦上などで見られる拳大以上の大きな軽石は、その下にFP最下層の火山灰が認められないこと、拳大以上の軽石は3区のFPでは、FP下面から25cm上位のI-18までは、ほとんど認められないことから、FPではない可能性もある。またFAの火砕流(S-5)中に軽石が含まれており、畦上の軽石がどちらに由来するのかわからない。



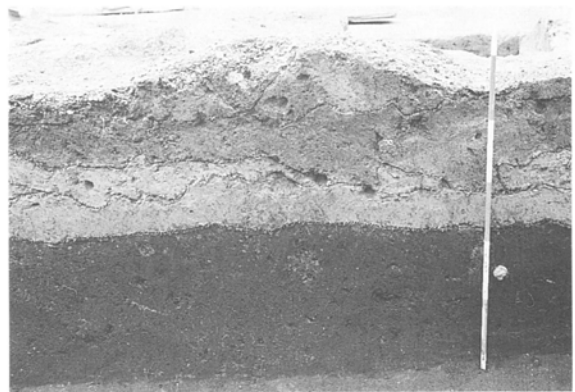
3号古畦 (FP下面を削った様子) (北から)



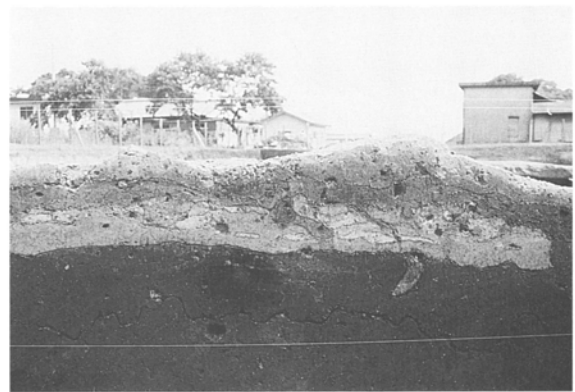
3-Bブロック全景 (北から)



11号畦上の軽石 (東から)



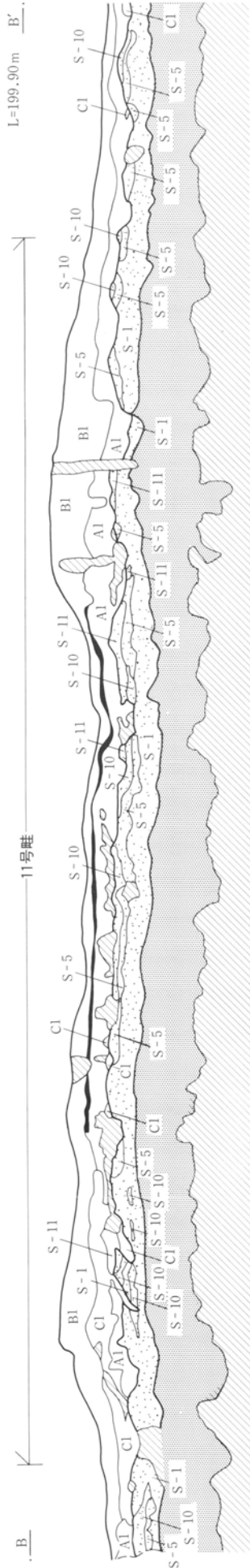
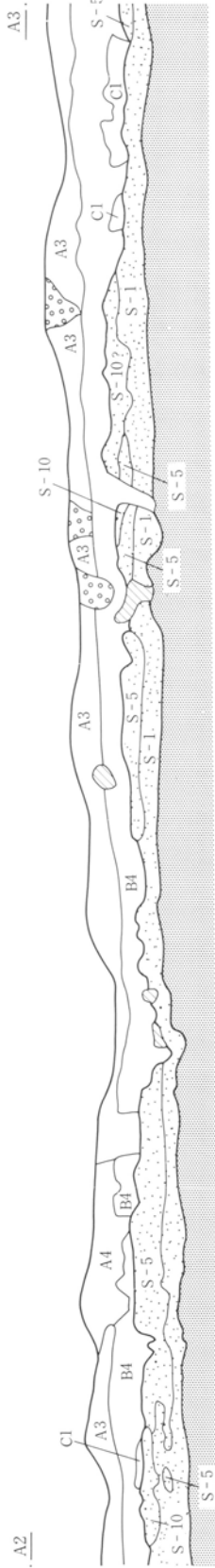
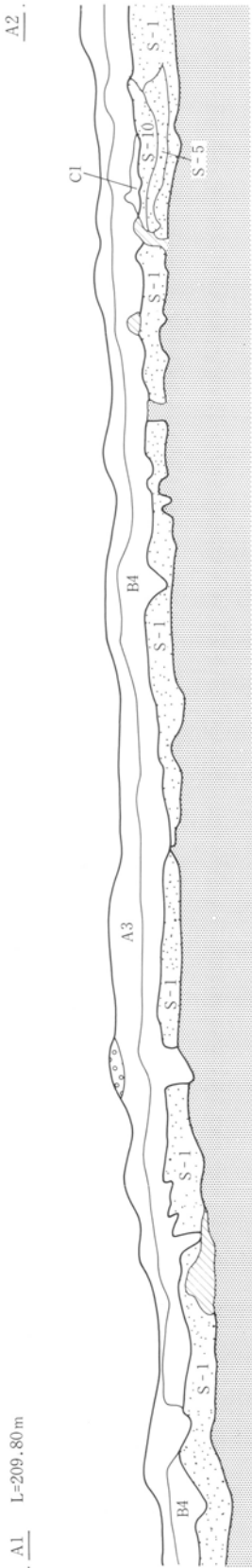
11号畦断面C (部分) (東から)



11号畦断面D (北から)



第204図 3-Bブロック



第205図 11号畦断面図

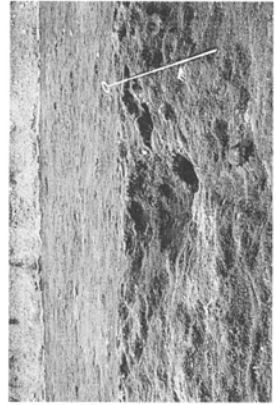
- 1 黒褐色土。FPを多く含む。締まりなし。
- 2 黒褐色土。FA(S-1)の小ブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土。FPを含む。
- 4 にぶい黄褐色土。FA主体。FPを含む。
- 5 黒褐色土。基本土層VI層・VII層主体。締まりなし。

L=199.70m

0 50cm



第206図 4号立木断面図



4号立木 (東から)



4号立木断面 (南西から)

3-Cブロック

畦状遺構 11号畦：幅3.4m、高さ18cm、走向N-22°-E。Bブロックと状況に変化はない。断面で畦下のFA下面が、1号畦と同様に2箇所が高まっているが、これは平面的にも連続しており、FA下面でも畦状の高まりが存在している。**蹄跡** 11号畦の西側と1号倒木の周辺に分布する。11号畦の西側のものは、一連の行跡と思われるが、残存状況が悪く断定できない。**倒木** 1号倒木(詳細はP355)：FA降下前の倒木であるが、FP下面で卵型の落ち込みと、その脇の高まりが検出された。落ち込み部

分は長径1.2m、短径0.8mで、東側が最も深く40cm、西側に行くに従って徐々に浅くなる。落ち込みの底面や側面には、FPの最下部の火山灰が付着している。



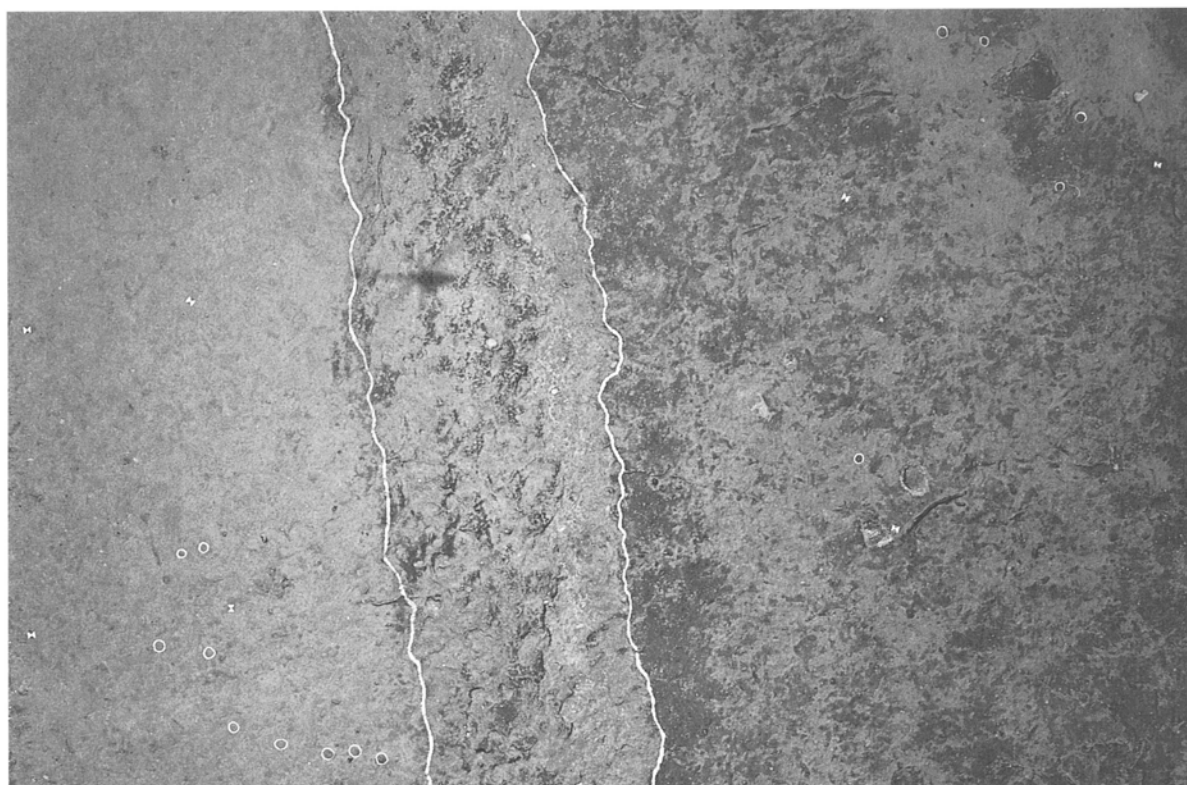
1号倒木 (西から)



調査風景 (11号畦)



調査風景 (1号倒木) (西から)

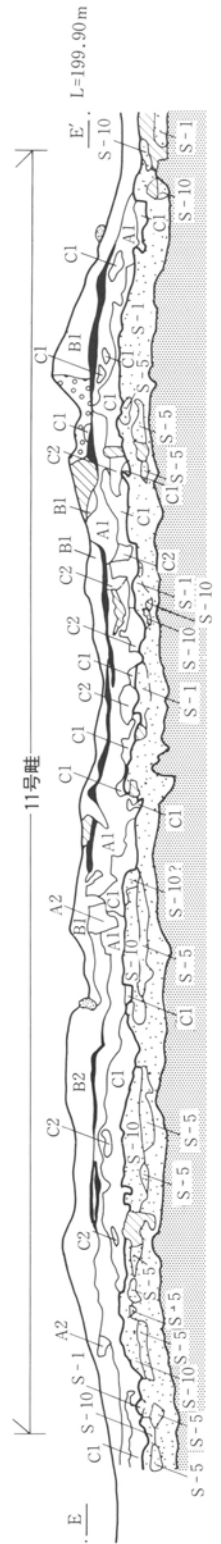


3-Cブロック全景 (地表面の色の違いは、調査後の乾燥の程度差による。) (上から)



第207図 3-Cブロック

0 2m



第208図 11号畦断面図

0 1m

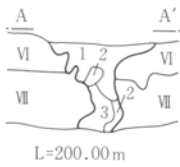
3-Dブロック

跡跡 少ない。南西部のものは、Cブロックから続く行跡と思われるが、残存状況が悪く断定できない。

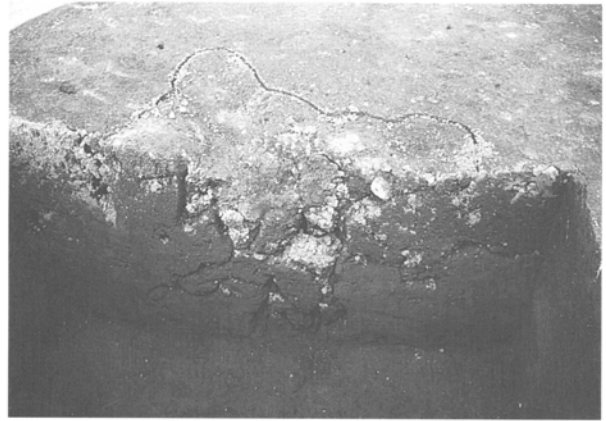
立木 5号立木：OK-105グリッドで、FA下面調査時に確認された。根跡部分の土層はFPを含む。

6号立木：OL-104で確認された、5号と同様の立

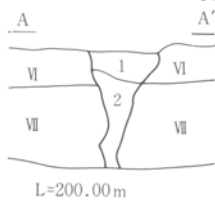
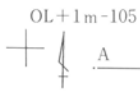
木。 その他 OI-105グリッドで、根株状の高まりが2箇所確認された。高まり部分の下のFAの堆積や、FA下面の状況に特に変化は見られなかった。また、OI-104グリッドでは焼土が検出され、植物珪酸体分析を行ったところ、周辺よりもウシクサ族の密度が高いことがわかった。



- 1 黒褐色土。FPを多量に含む。締まりなし。
- 2 暗褐色土。FPを含む。締まりなし。
- 3 褐色土。基本土層Ⅶ層主体。



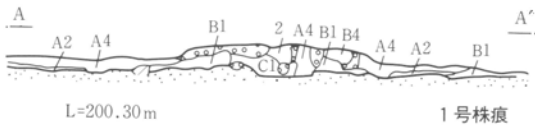
5号立木断面（南から）



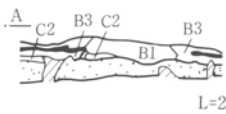
- 1 黒褐色土。FPを多量に含む。締まりなし。
- 2 暗褐色土。FPを含む。締まりなし。



6号立木断面（南から）

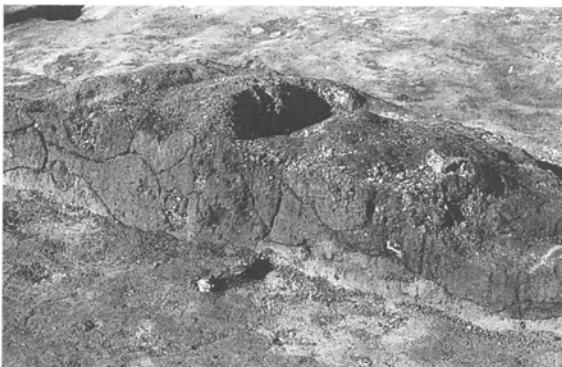


1号株痕

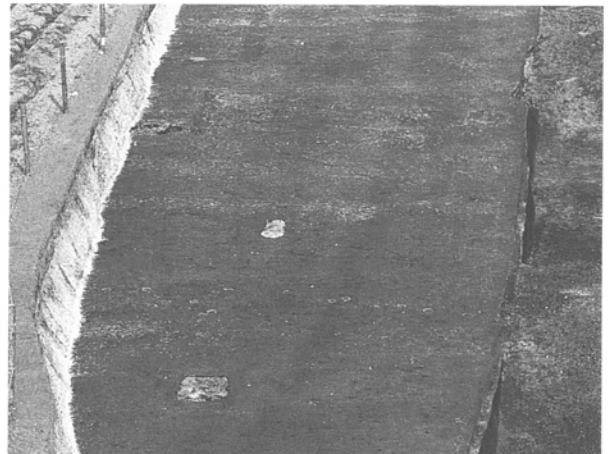


2号株痕

第209図 5号・6号立木、1号・2号株痕断面図



1号株痕断面（南東から）



3-Dブロック全景（南から）



第210図 3-Dブロック

3-Eブロック

畦状遺構 11号畦：幅34m、高さ18cm、走向N-13°-E。他のブロックと同様で、中央部がやや低く黒みがかかる。畦の表面は凹凸が激しく、拳大以上の軽石が、点々と見られる。FP混じりの土のみを除去してみたが、同じく凹凸が激しい。断面に見られる炭化物層は面的にも広がり、ウシクサ族の植物珪酸体が多く検出された。断面Eでは、FP降下後と思われる根跡で、攪乱されている。この畦は北中道4区では、検出されなかった。 蹄跡 非常に少ない。 立木 7号立木：上幅約60cm、深さ11cmの落ち込みとして検出され、根跡部分の土層はFPを含む。西隣には根株状の高まりがある。 その他 OL-101グリッド付近には、根株状の円形の高まりが多く確認された。このうちの3号根株について、中心部から外側

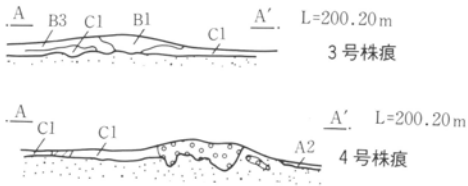
にかけて、植物珪酸体分析を行ったが、特別な変化は認められなかった。また、11号畦上でコナラ節の炭化材が検出された。



3号株痕断面 (南東から)



4号株痕断面 (南から)



- 1 暗褐色土。FPを多量に含む。
- 2 暗褐色土。FPを含む。
- 3 黒褐色土。基本土層Ⅵ層主体。
- 4 暗褐色土。基本土層Ⅶ層主体。



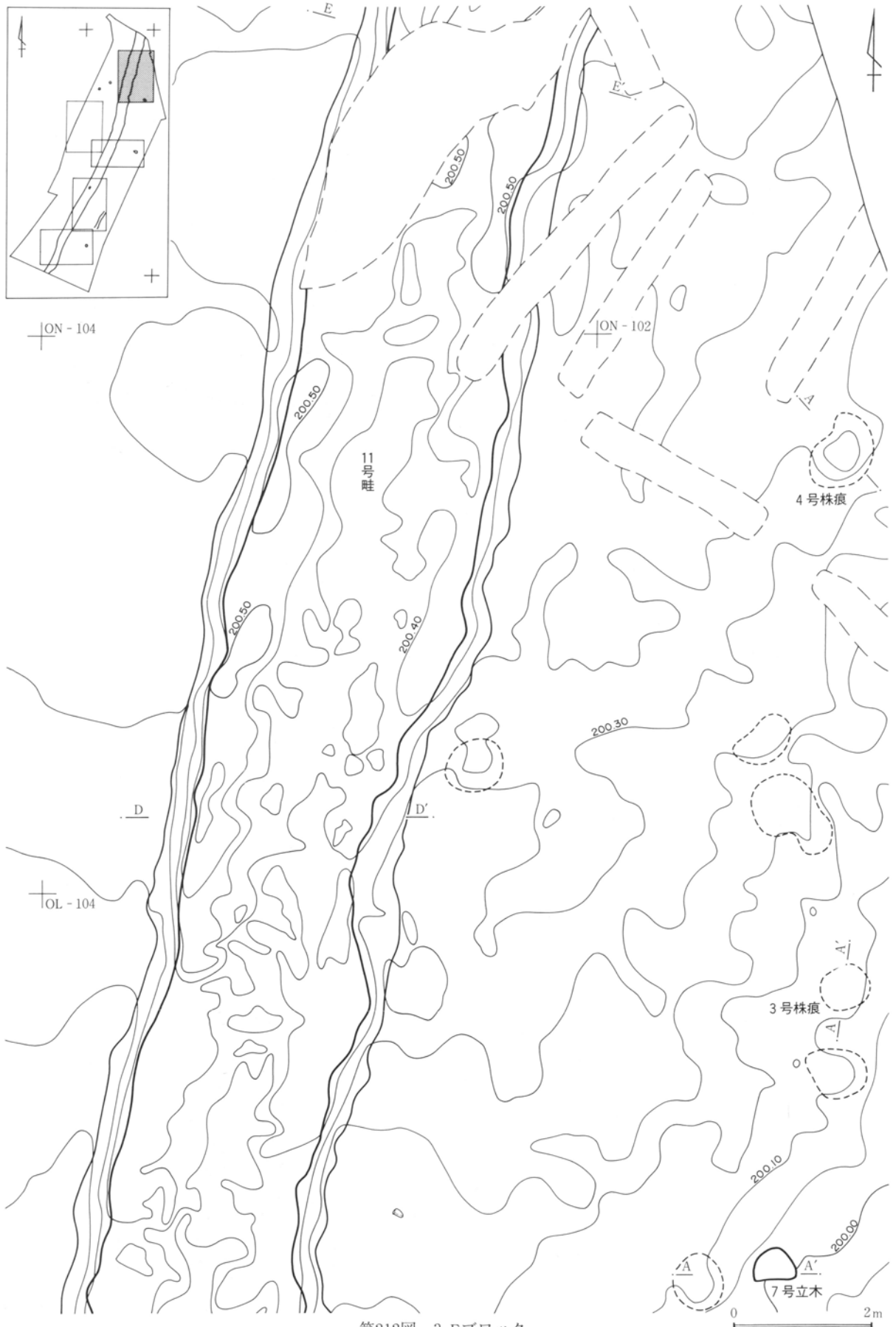
第211図 7号立木、3号・4号株痕断面図



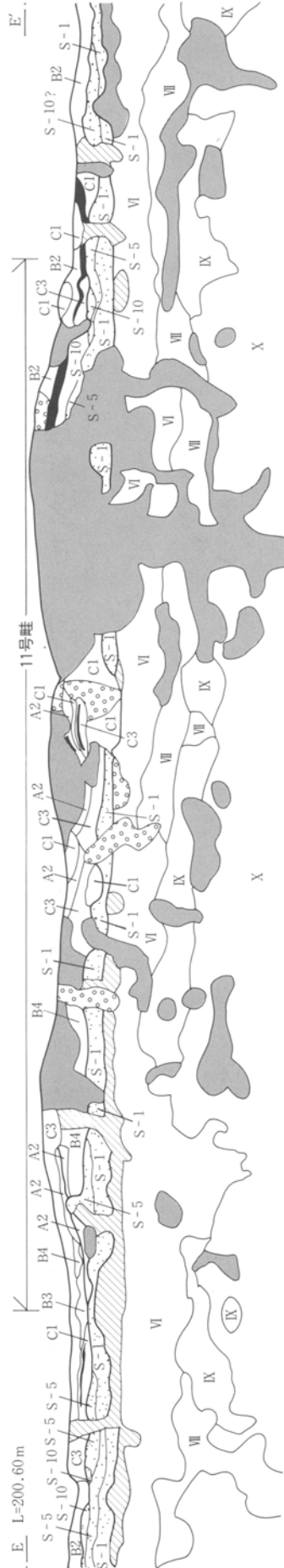
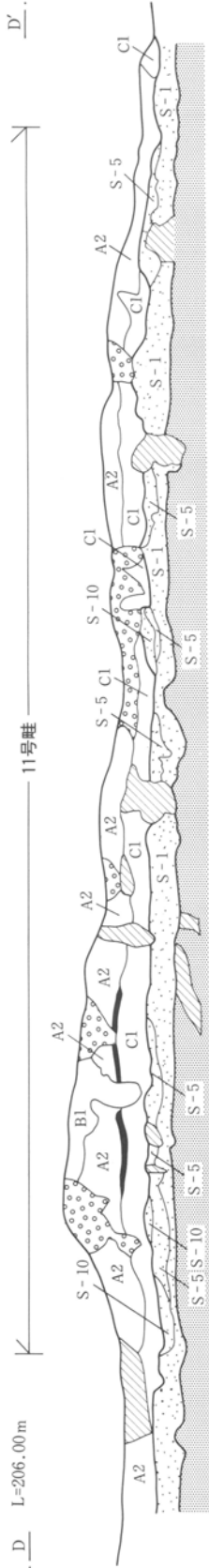
11号畦 (南から)



3-Eブロック北部 (南から)



第212図 3-Eブロック



※アミ掛け部分は新しい根跡

第213図 11号畦断面図



11号畦断面E (南から)



11号畦断面F (南から)



11号畦断面F (拡大) (南から)

北中道3区畦セクション

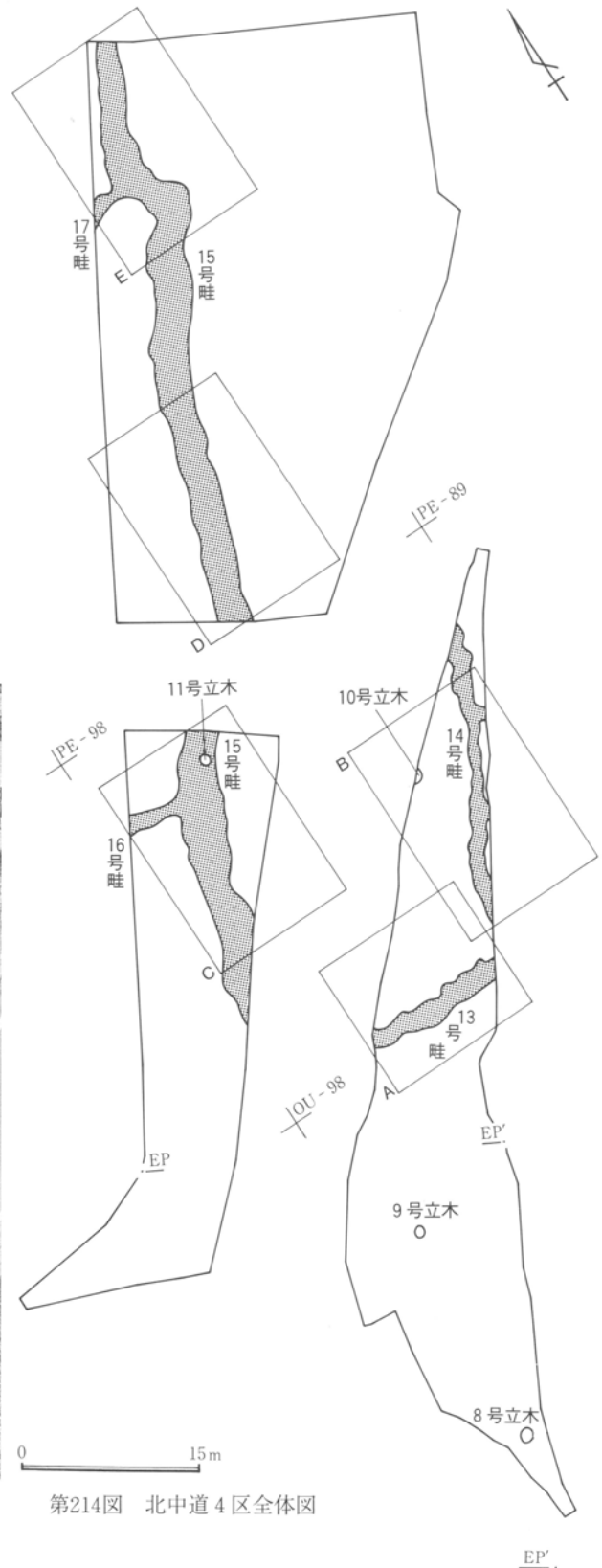
遺構番号	断面番号	幅 m	高さ cm	FP混 じり土	炭化物	焼土	FAの 残存	FA下面 の凹凸	そ の 他
11	B	3.7	19	-	○	-	S-11○	凸	FA下面と1号畦の起伏が類似する。
11	C	3.1	18	△	○	-	S-10△	凸	FA下面と1号畦の起伏が類似する。
11	D	3.4	18	○	○	-	S-10○	僅かに凸	
11	E	3.3	13	△	○	-	-	-	根跡が重複する。

4区概要

微地形 調査区中央に比高差の小さな緩斜面があり、南西側が高く南東側が低い。斜面の両側は平坦面となっている。調査区南東部は、東に向かって低くなる斜面となっている。**遺構** 村道の東側の調査区では、等高線に直行する畦状遺構が検出されている。西側の調査区では、斜面部に等高線に沿うように、畦状遺構が伸びる。**跡分布** 全体的に少なく、特に南東部の斜面や、中央の平坦面では検出されなかった。**地表面の様子** CブロックとDブロックで、地表面が波打っているように見えた部分があり、当初畑の畝の痕跡かと考えたが、畦状遺構の一部と見解を改めた。村道の西側の北寄りと、村道の東側で炭化種子分析を行った。その結果、タデ属などの種子が確認された(詳細P430)。

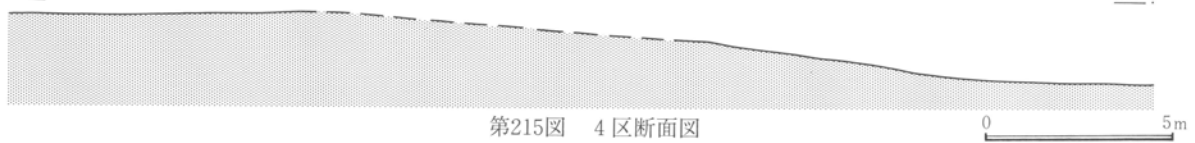


北中道4区東部(北から)



第214図 北中道4区全体図

EP L=201.00m

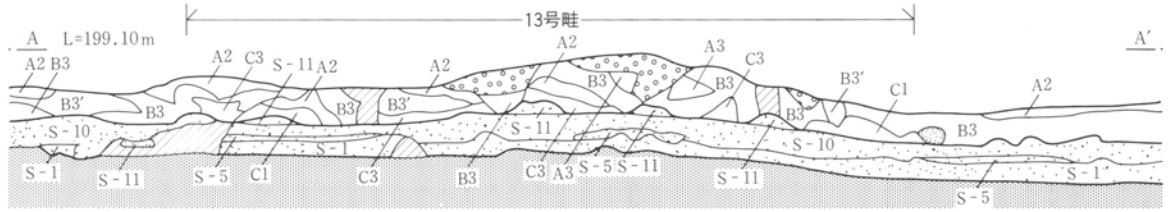


第215図 4区断面図

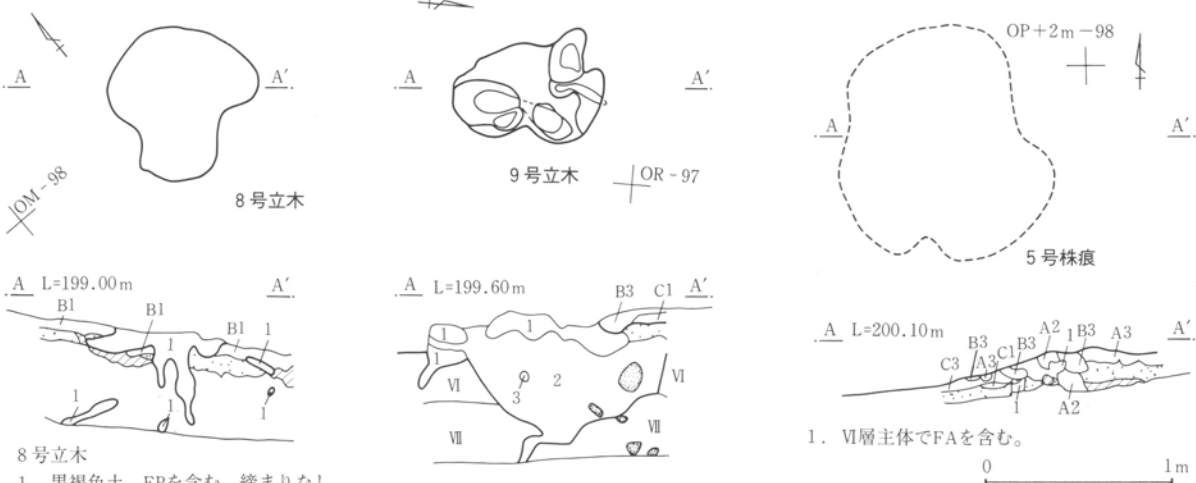
4-Aブロック

畦状遺構 13号畦：幅1.4m、高さ12cm、走向N-86°-W、ほぼ東西。等高線に直行し直線的に伸びる。15号畦との連続性ははっきりしないが、走向は約68°異なっている。**蹄跡** 非常に少なく、13号畦の南側では検出されなかった。**立木** 8号立木：OM-97グリッドで確認された。根跡部分の土層は

FPを含む。FP下の土壌層やFAの残存状況が良く、FP降下後の根跡の可能性はある。9号立木：OQ-97グリッドで確認された。根跡部分の土層はFPを含む。その他 OQ-98グリッドに根株状の円形の高まりがあり、周囲よりも4cmほど盛り上がっている。高まりの中央部下ではFA層が途切れている。



第216図 13号畦断面図



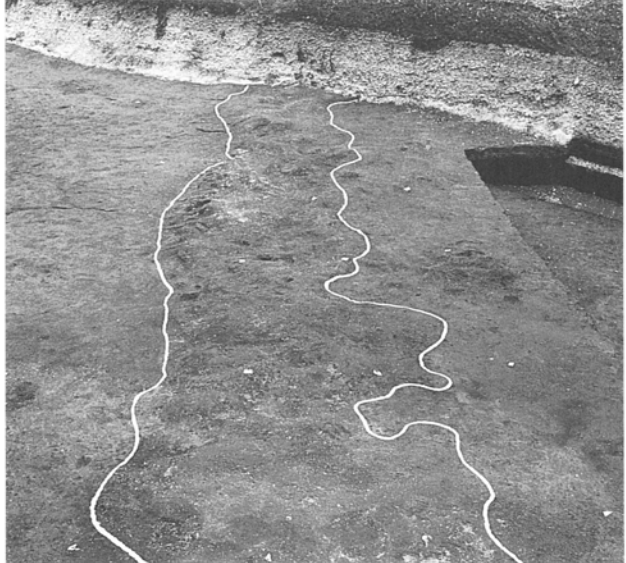
8号立木
1 黒褐色土。FPを含む。締まりなし。

- 9号立木
- 1 黒褐色土。FPを多量に含む。
 - 2 黒褐色土。基本土層VI層主体。FPを含む。締まりなし。
 - 3 黒褐色土。FAを多く含む。

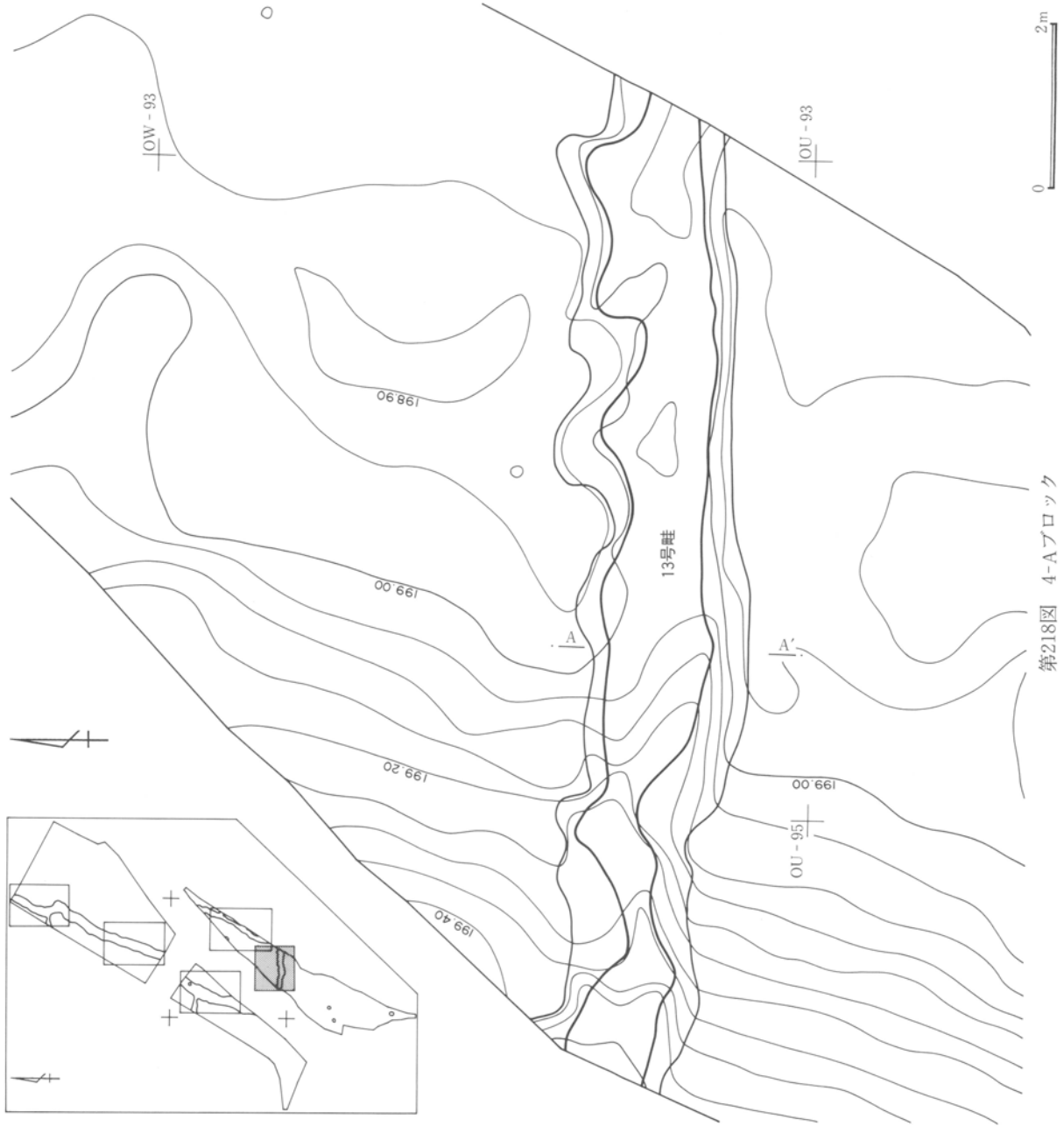
第217図 8号・9号立木、5号株痕断面図



13号畦断面A (西から)



13号畦 (東から)



第218図 4-Aアブロック



8号立木断面 (南から)



9号立木断面 (東から)

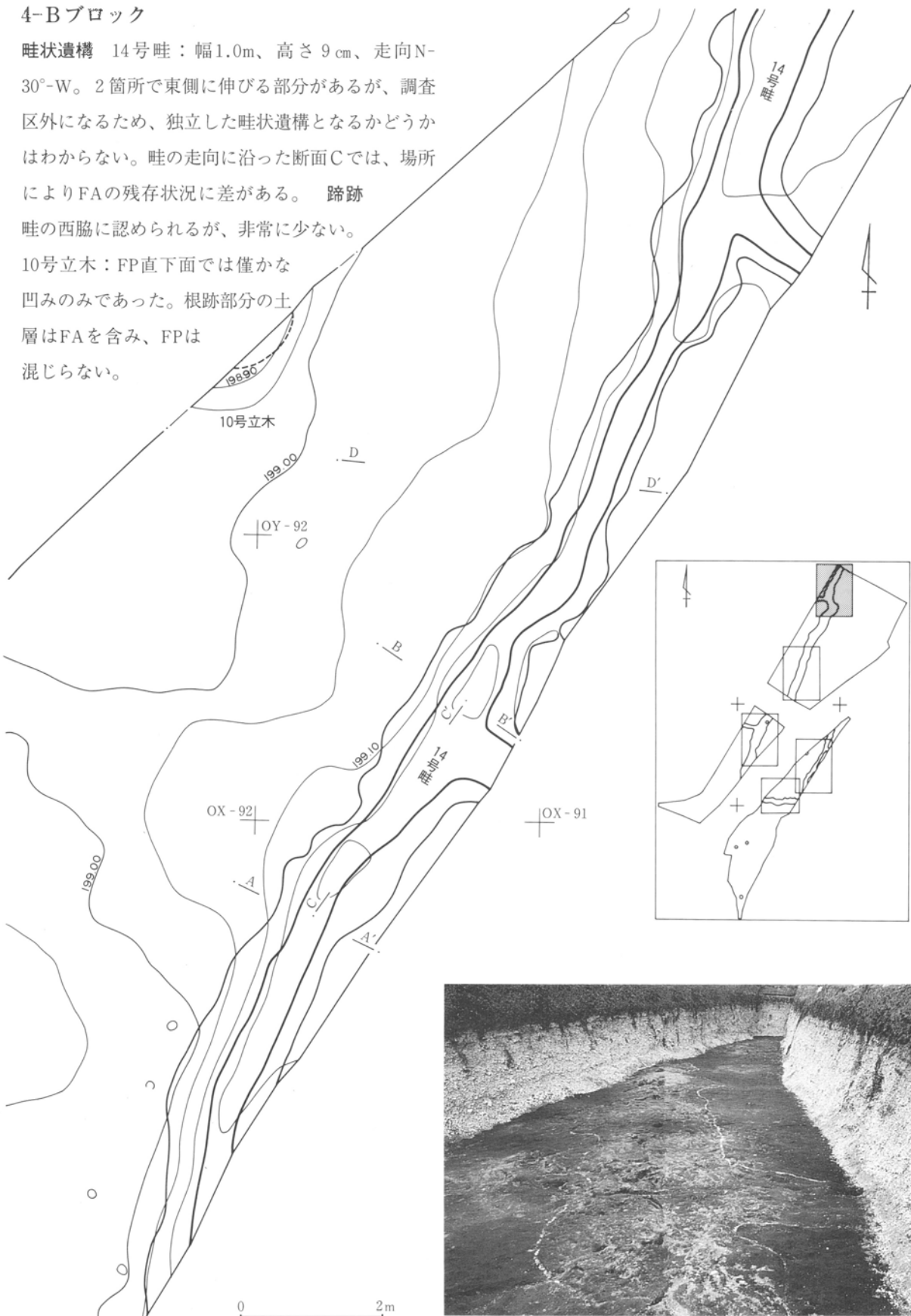


5号株痕 (南から)

4-Bブロック

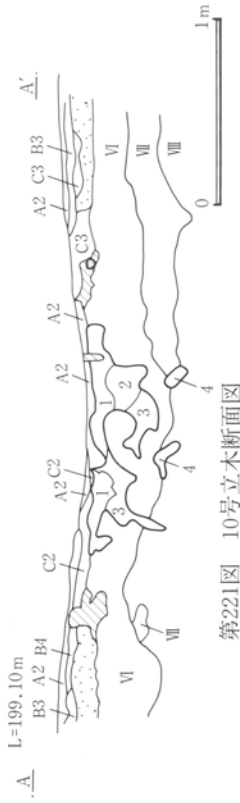
畦状遺構 14号畦：幅1.0m、高さ9cm、走向N-30°-W。2箇所東側に伸びる部分があるが、調査区外になるため、独立した畦状遺構となるかどうかはわからない。畦の走向に沿った断面Cでは、場所によりFAの残存状況に差がある。 **蹄跡** 畦の西脇に認められるが、非常に少ない。

10号立木：FP直下面では僅かな凹みのみであった。根跡部分の土層はFAを含み、FPは混じらない。



第219図 4-Bブロック

14号畦 (南から)



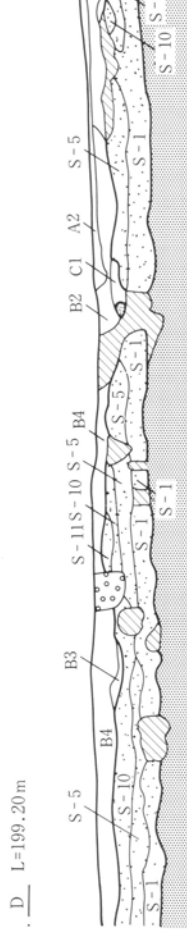
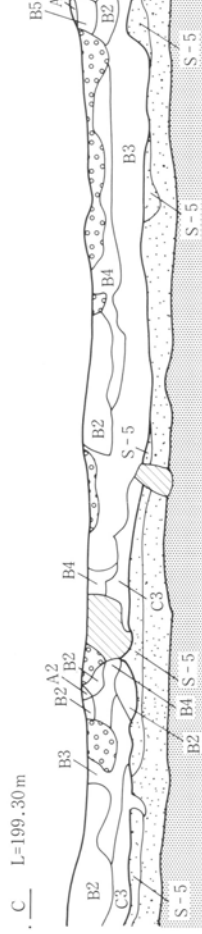
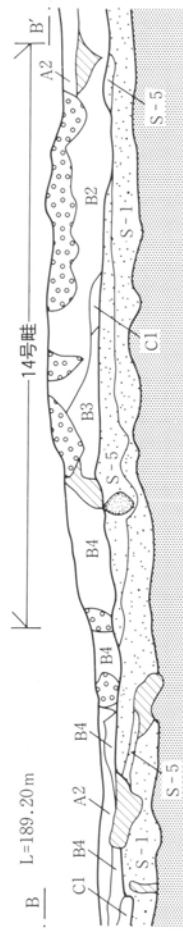
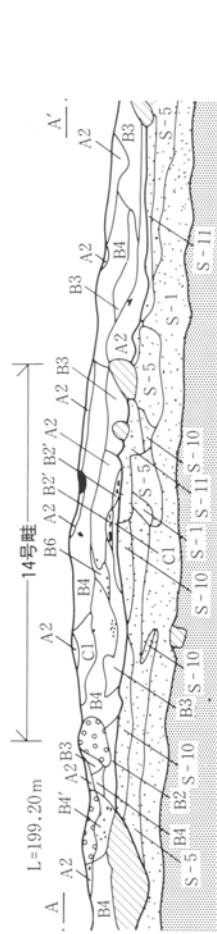
第221図 10号立木断面図



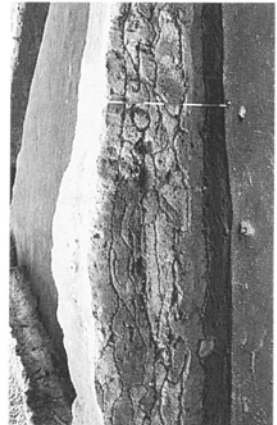
10号立木断面 (北から)

10号立木

- 1 暗褐色土。FAを含む。
- 2 黒褐色土。FAを含む。
- 3 黒褐色土。基本土層Ⅵ層主体。縮まりなし。
- 4 黒褐色土。基本土層Ⅶ層主体。縮まりなし。



第220図 14号畦断面図



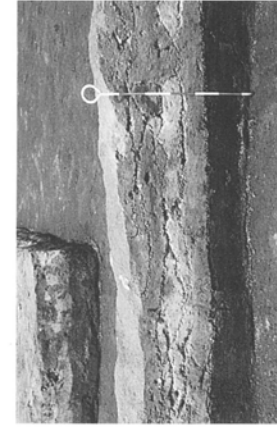
14号畦断面A (北から)



14号畦断面B (南から)



14号畦断面C (南西から)



14号畦断面D (南から)

4-Cブロック

畦状遺構 15号畦：幅3.2m、高さ12cm、走向N-23°-E。西寄りに特に高まる部分があり、東側へは緩やかに低くなる。調査途中でこの畦が、2～3条の畝跡の様に見えたが、調査区全体が明らかになったところで、最も明瞭な高まりのみ縦方向への連続性が良いこと、横への新たな畝の広がりが少ないことから、最終的に畦状遺構とした。この畦はFP混じりの土が畦上に少ない。16号畦との接続部分では焼

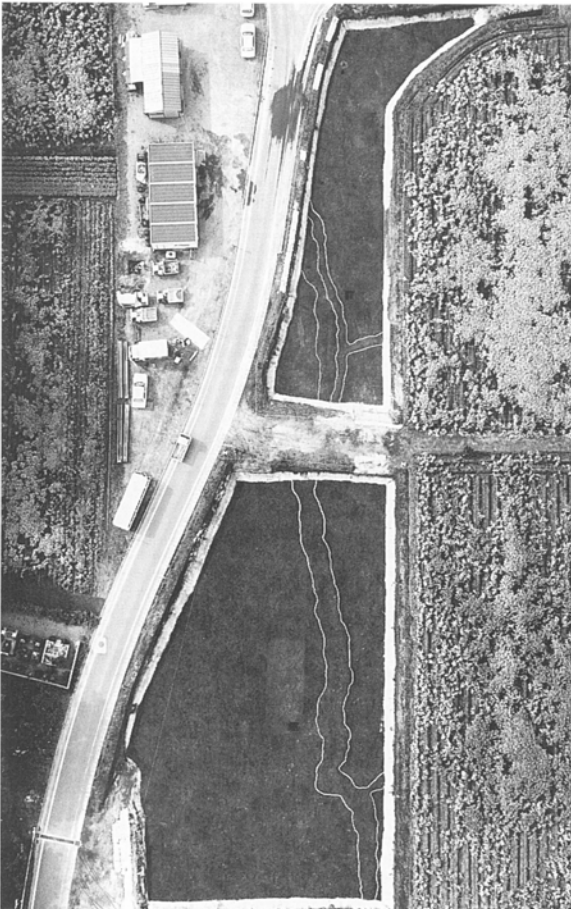
土が確認され、焼土の下には炭化物層が認められた。また、断面A、Bで畦の中央からやや東寄りで、FA上面が落ち込むが、これらは一連の溝状の窪みとなっている。16号畦：幅1.1m、高さ8cm、走向N-76°-W。跡跡 非常に少ない。立木 11号立木：FP直下面では僅かな凹みのみで、FA上面で確認された。根跡部分の土層はFAを含み、FPは混じらない。15号畦下の溝状の窪みは、この立木の幹跡の可能性はある。



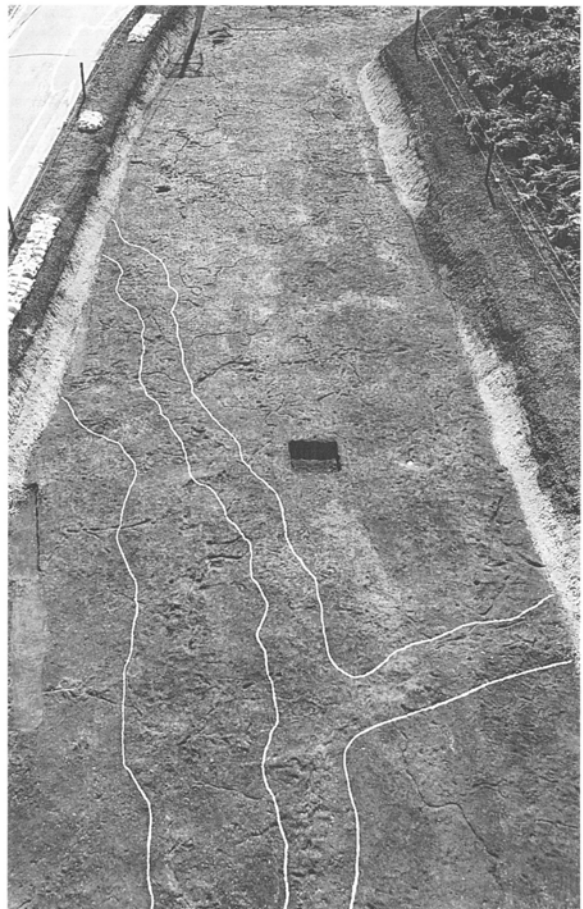
15号畦断面A (南から)



16号畦断面A (東から)



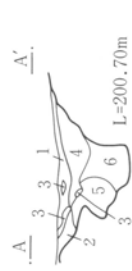
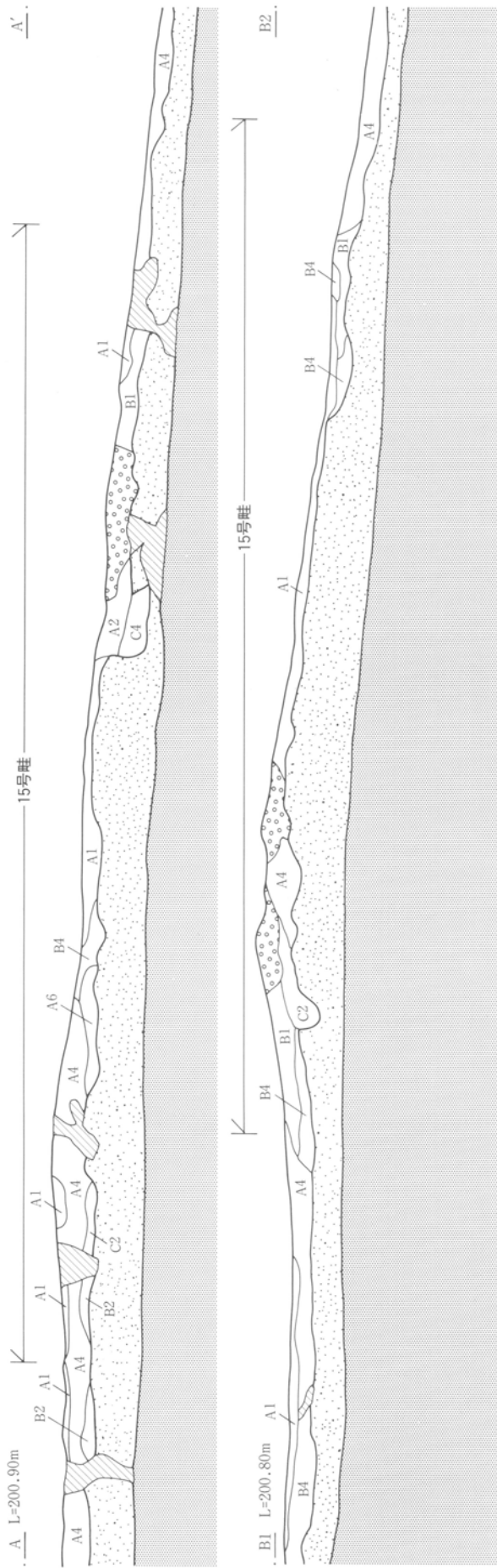
北中道4区西部 (北から)



4-Cブロック全景 (北から)

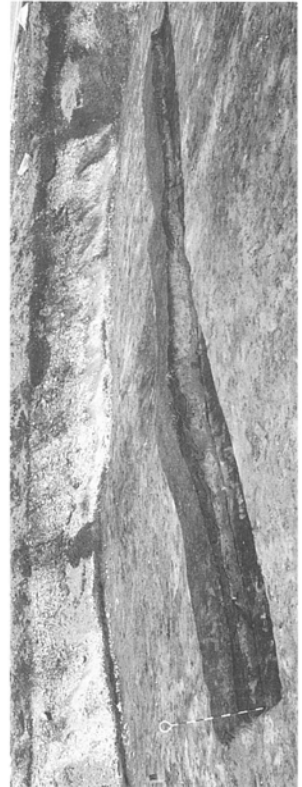


第222図 4-Cブロック

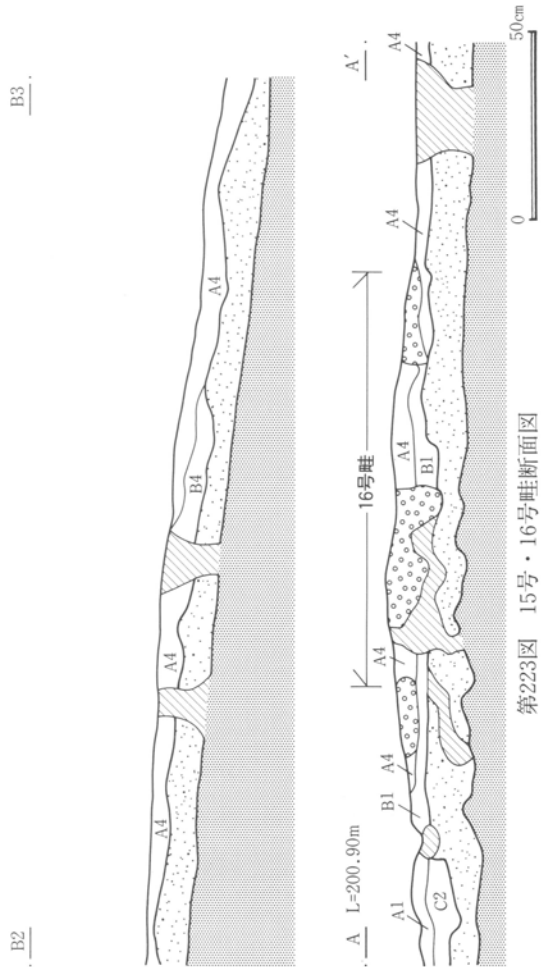


第224図 11号立木断面図

- 1 黒褐色土。炭化物を含む。
- 2 暗褐色土。炭化物を含む。
- 3 褐色土。FA主体。
- 4 にぶい黄褐色土。FA、炭化物を含む。
- 5 褐色土。FA、炭化物を含む。締まりなし。
- 6 暗褐色土。FA、炭化物を含む。粘性あり。



15号畦断面B (南西から)

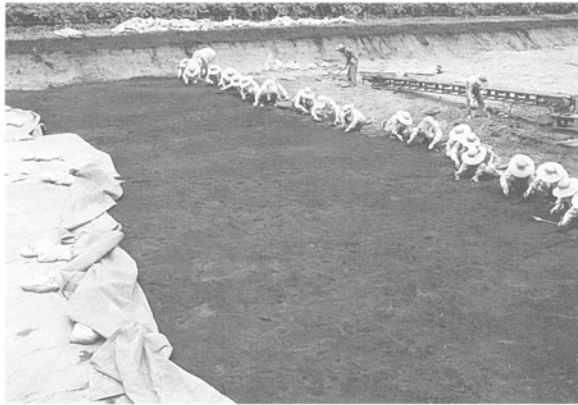


第223図 15号・16号畦断面図

第3章 FP層下面の調査

4-Dブロック

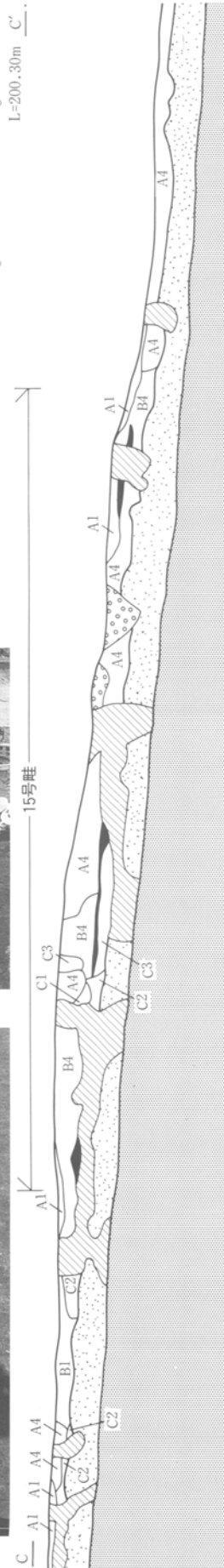
畦状遺構 15号畦：幅2.5m、高さ10cm、走向N-18°-E。等高線に沿うようにはほぼ直線的に伸びる。畦の中央部が低くなっており、東側がやや不明瞭であるが、2本の畦が並んでいるようである。FP-FA間の土壤層中に炭化物の薄層を挟む。畦の上面の凹凸が少ない。畦の中央部と西脇は地表面が黒みを帯びている。踏跡 非常に少ない。その他 Cブロックと同様に、調査途中で15号畦周辺が、3～4条の畝跡の様に見えた。これは地形の変換点に位置すること、15号畦に2列高まりがあること、畦上にFP混じりの土があまりないため、周囲の地表面と様子が差がなく畦が認識しづかったことが挙げられる。また、高まりが3～4条並んで認められるのは一部の範囲のみで、調査区全体には広がらない。



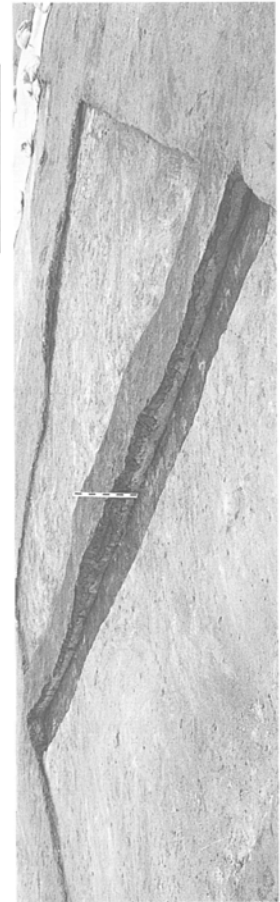
調査風景



4-Dブロック全景 (南から)



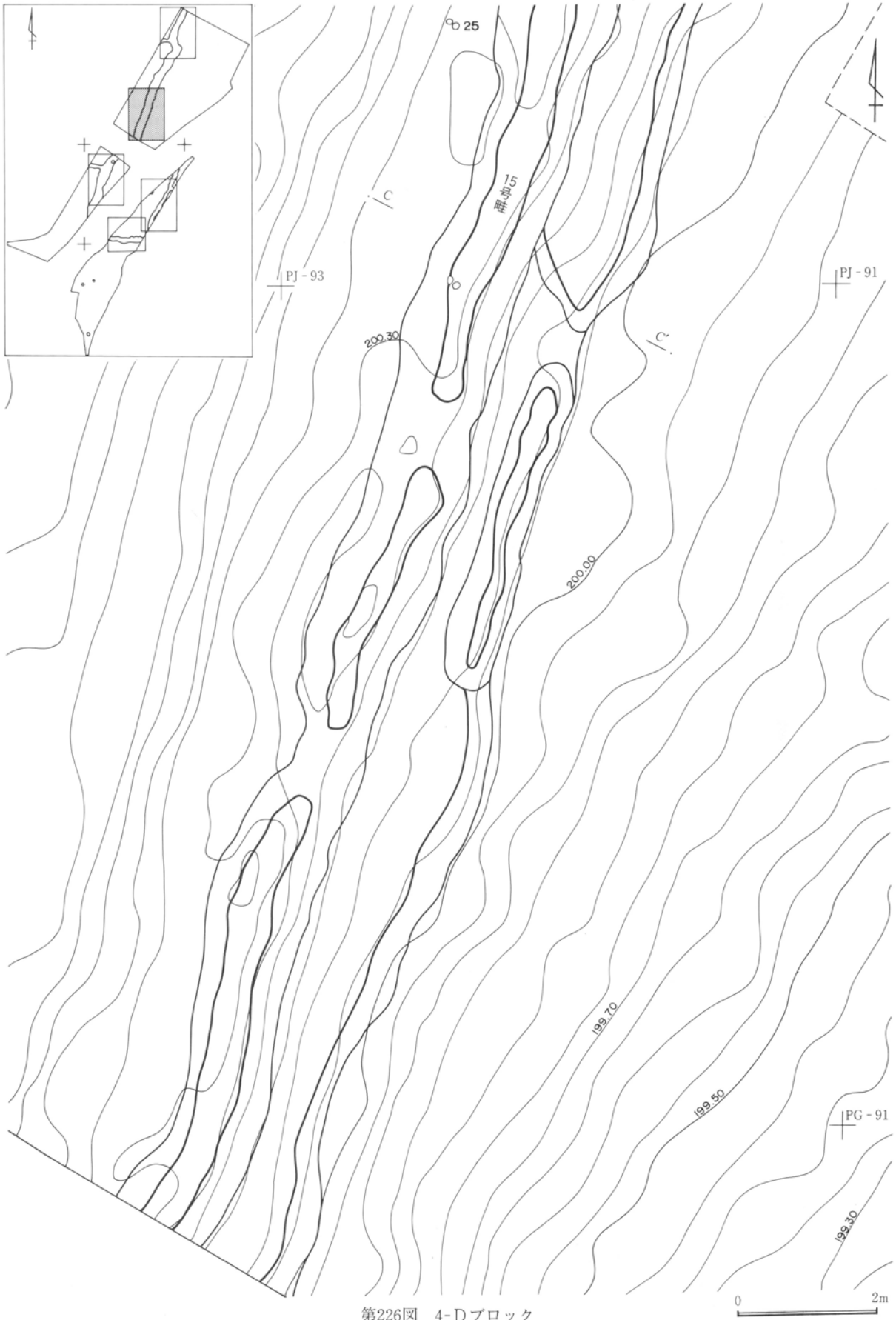
第225図 15号畦断面図



15号畦断面C (南東から)



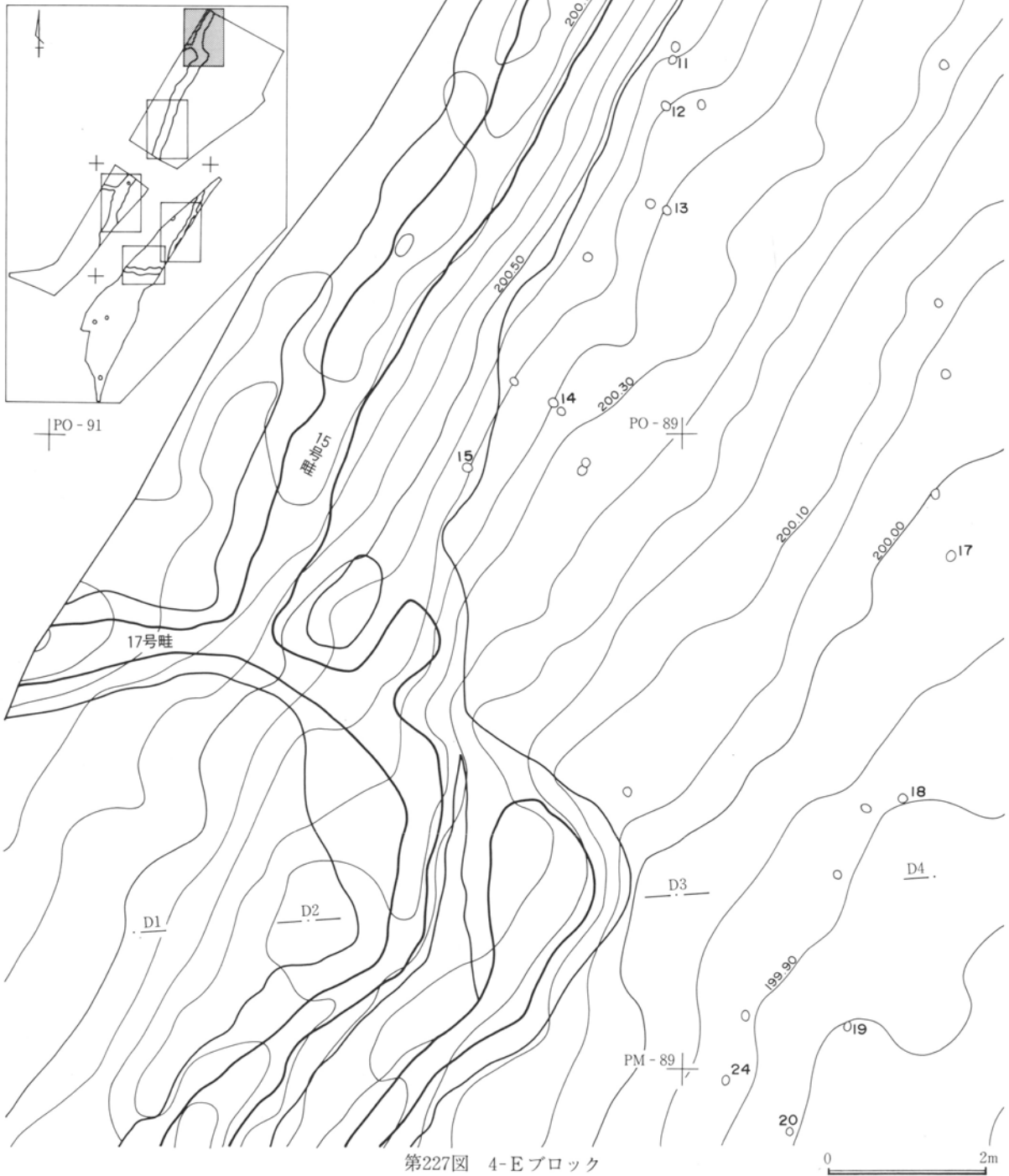
15号畦断面C (中央部) (南から)



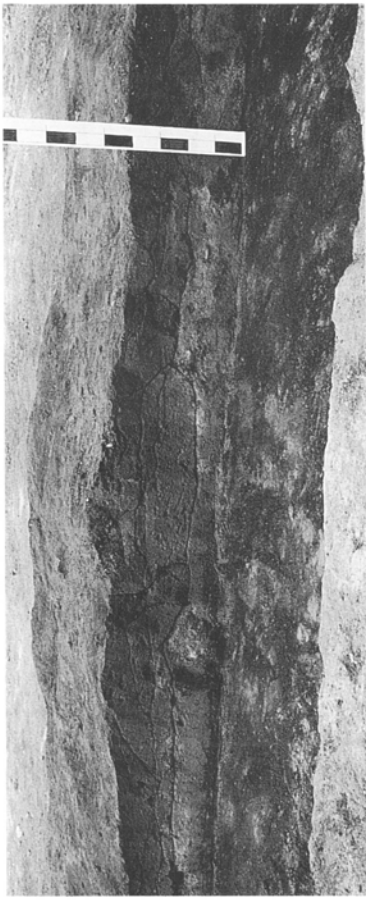
第226図 4-Dブロック

4-Eブロック

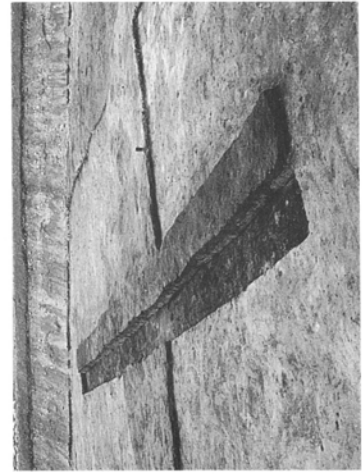
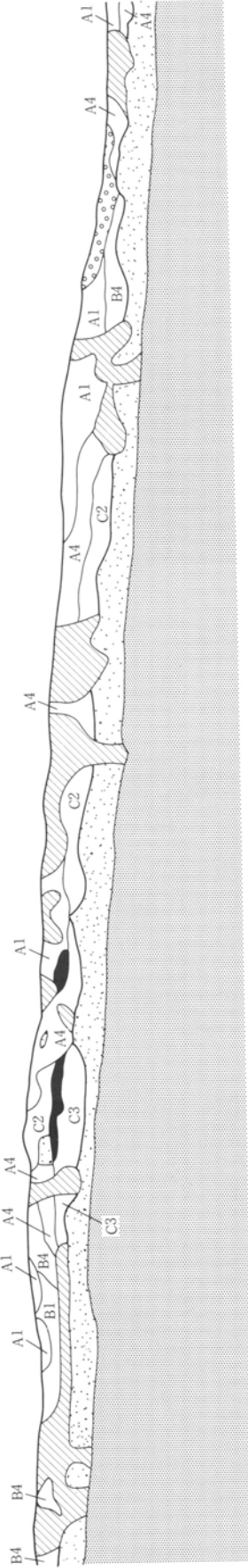
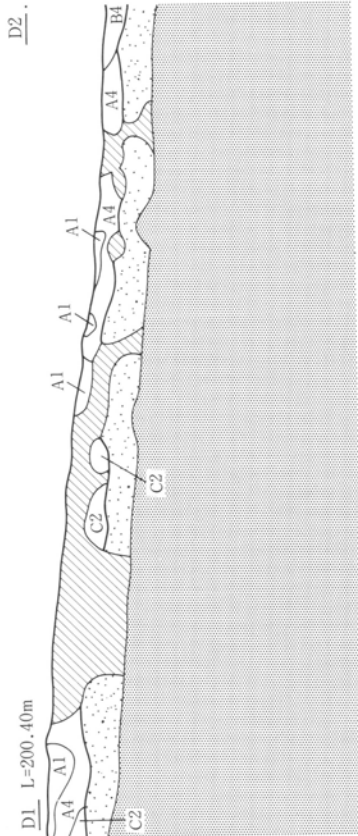
畦状遺構 15号畦：幅1.0m、高さ12cm、走向N-26°-E。PM-89グリッドで走向を変え、南側では2列の高まりを持つ畦であったものが、高まりが1箇所になり17号畦が分岐する。FP-FA間の土壤層中に炭化物の薄層を挟む。17号畦：幅1.3m、高さ12cm、走向N-86°-E。 **跡跡** 少ないが、畦の東側にややまとまる部分がある。



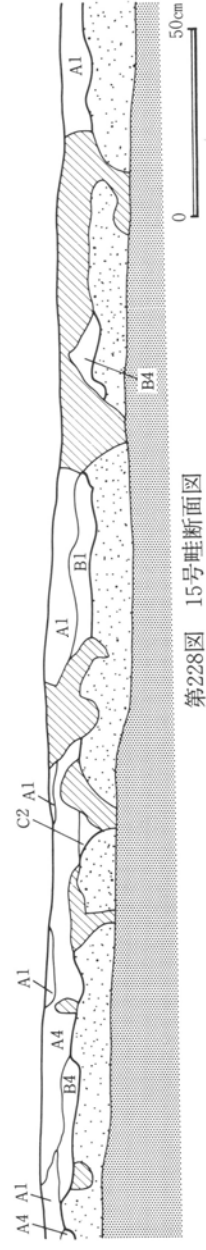
第227図 4-Eブロック



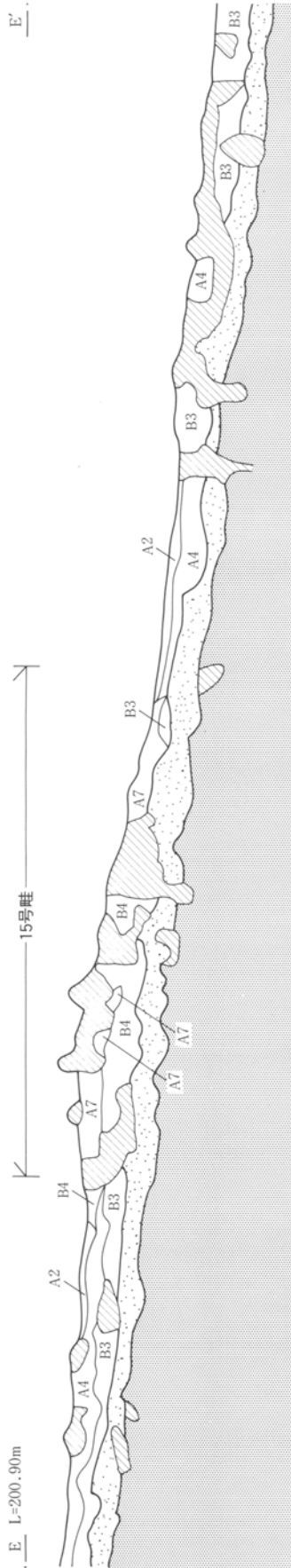
15号畦断面D (中央部) (南から)



15号畦断面D (東から)



第228図 15号畦断面図



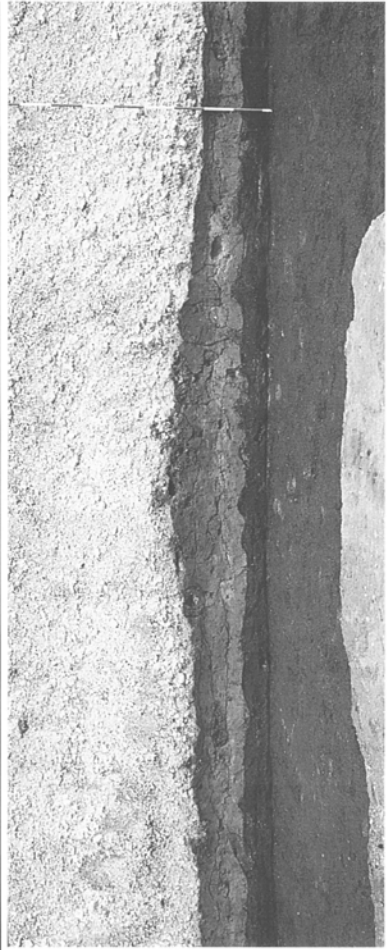
第229図 15号畦断面図



15号畦 (南から)

北中道4区畦セクション

遺構番号	断面番号	幅 m	高さ cm	FP混じり土	炭化物	焼土	FAの残存	FA下面の凹凸	その他
13	A	1.9	12	○	△	-	S-11○	僅かに凸	
14	A	1.0	6	△	○	○	S-11△	-	細かな炭化物多い。
14	B	1.6	9	○	△	-	S-5△	僅かに凸	
14	D	1.0	7	○	△	-	S-10○	-	
15	A	3.6	9	△	△	△	-	僅かに凸	畦下のFA上面乱れる。
15	B	3.1	12	△	○	-	-	凸	畦下はFAが厚い。
15	C	2.5	10	△	○	-	-	僅かに凸	畦下はFAが厚い。
15	D	3.4	9	△	○	-	-	僅かに凸	
15	E	1.5	12	△	△	-	-	-	
16	A	1.2	8	○	△	-	-	僅かに凸	



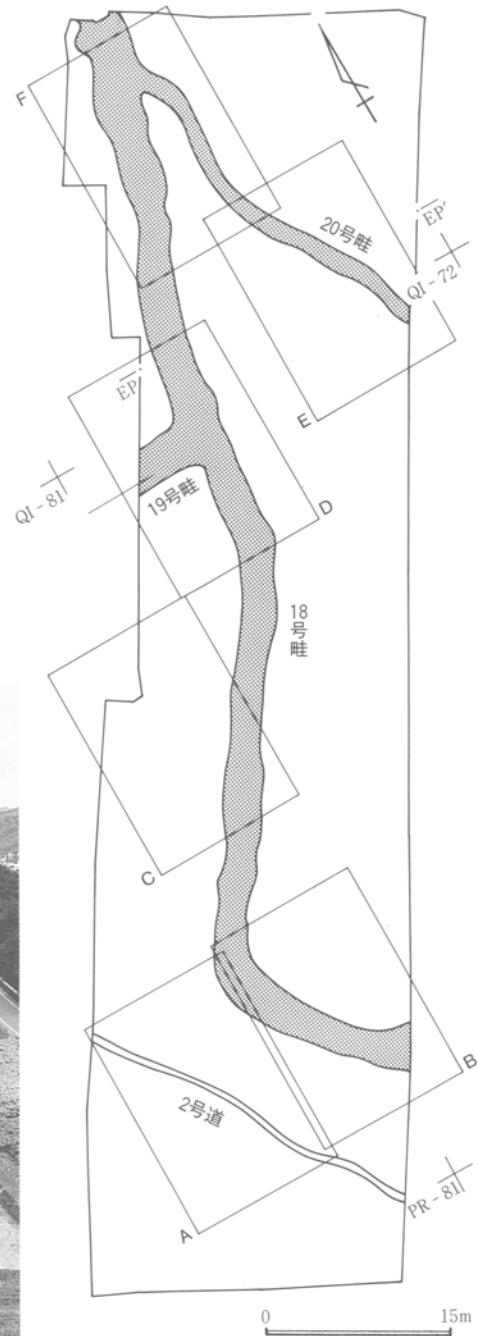
15号畦断面E (南から)

5区概要

微地形 北西側の調査区範囲際が、全域にわたって高くなっており、小さな段丘があるものと思われる。調査区の北東部には、南北方向の浅い谷がある。
遺構 中央に幅の広い畦状遺構があり、調査区南部で走向をほぼ90°変える。この畦から2本の畦状遺構が枝分かれしている。南西部には道があり、調査区を横切っている。
蹄跡分布 道の南側では認められなかったが、北へ行くほど多く検出され、畦上でも蹄跡が確認された。
地表面の様子 道の周辺や18号畦の西側で、植物痕の残りがよい。18号畦の西側では、円形の高まりがあり、植物珪酸体分析の結果、ウシクサ族が他より多いことがわかった。



北中道5区全景（南から）



第230図 北中道5区全体図

EP L=201.00m

EP'



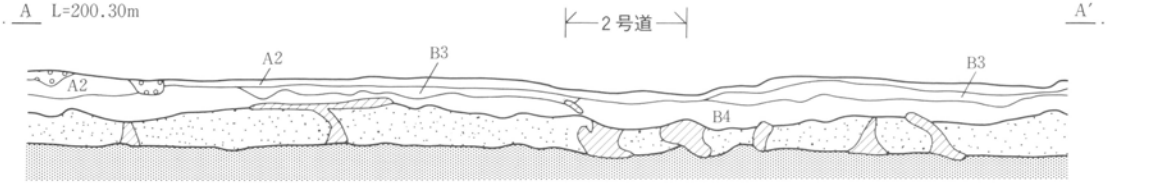
第231図 5区断面図

0 4.5m

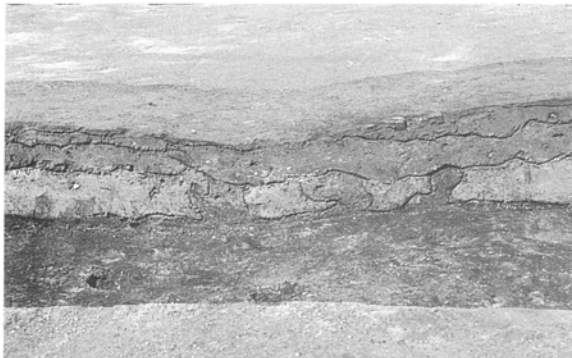
5-Aブロック

道 2号道：幅0.4m、走向N-36°-W。緩く蛇行しており、路面は硬化している。この道の東の延長上は約25mで段丘崖となる。 蹄跡 2号道の南側で

は検出されなかったが、北側のPW-83グリッドでは集中して多く認められた。 その他 2号道の周囲は植物痕の残存状況が良く、路面にも細長い直線状の植物痕が残っている。



第232図 2号道断面図



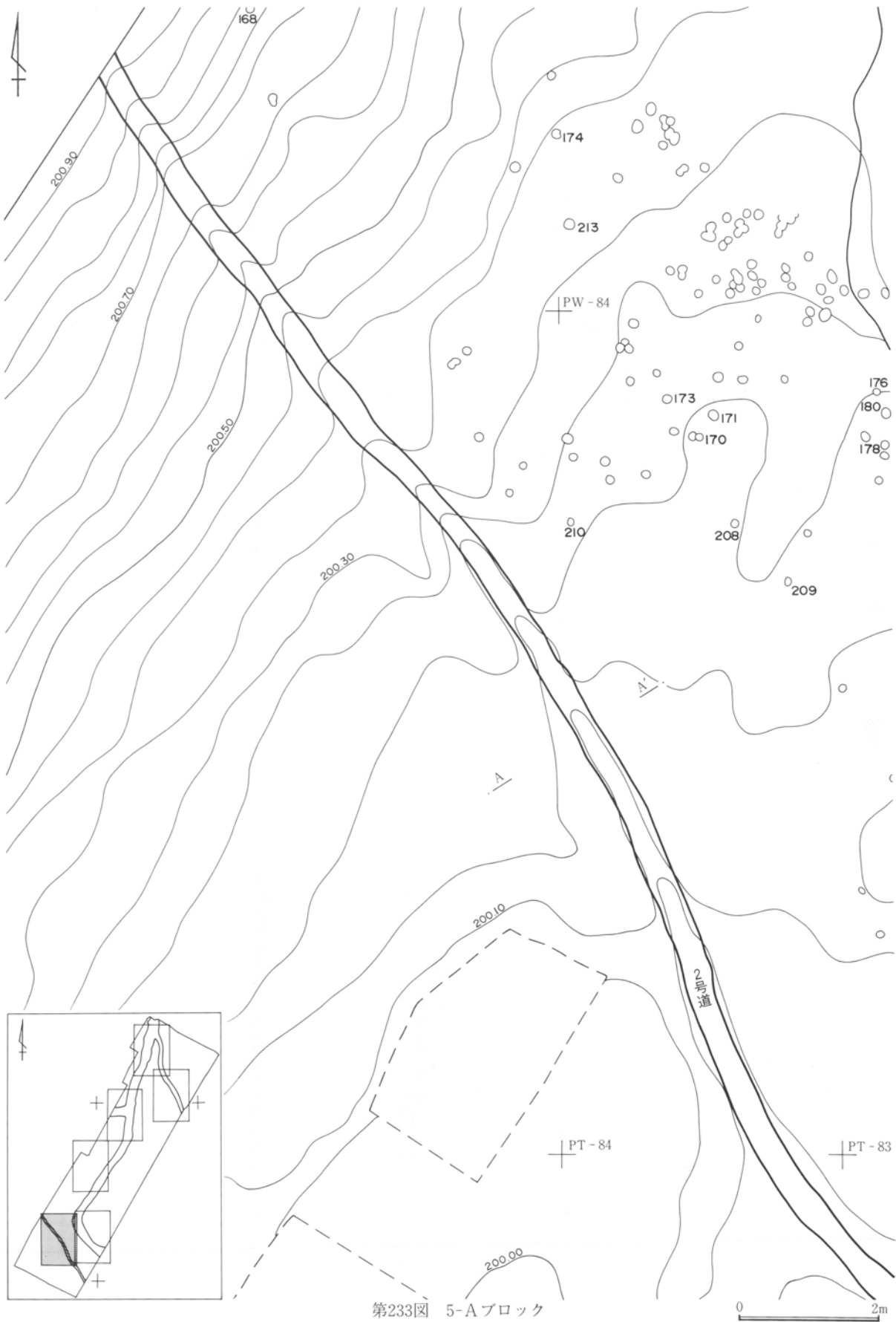
2号道断面A (南東から)



蹄跡 (北から)



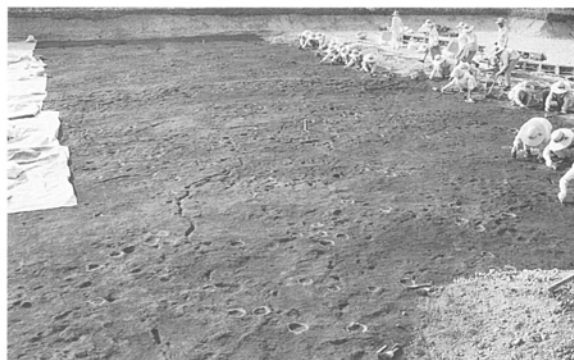
5-Aブロック全景 (北西から)



第233図 5-Aブロック

5-Bブロック

畦状遺構 18号畦：幅2.4m、高さ14cm、走向N-48°-Eであるが、PW-82グリッドで方向を変え走向N-35°-Wとなる。表面は黒みを帯び、FP混じりの土がなく滑らかである。断面Bでは、FP-FA間の土壤層中に炭化物の多い層を断続的に挟む。 蹄跡やや多く、PX-81付近では残存状況が良い。畦の上にも多くの蹄跡が付いている。



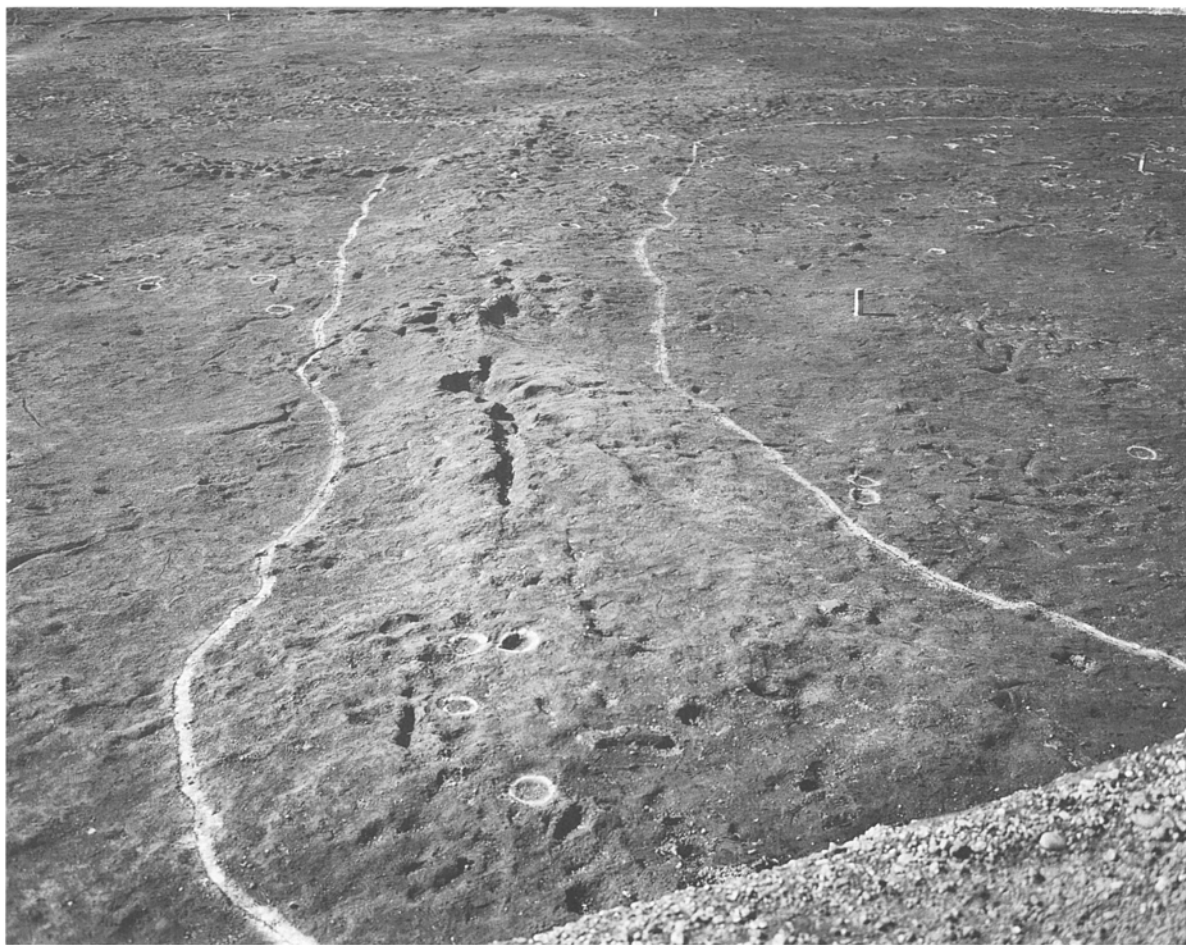
調査風景（東から）



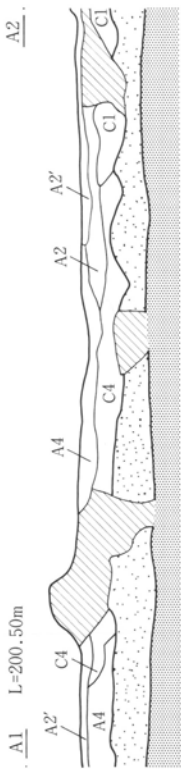
PX-81グリッド付近蹄跡（北から）



18号畦（南から）

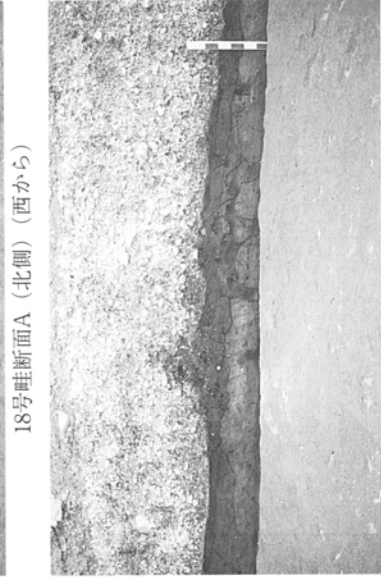
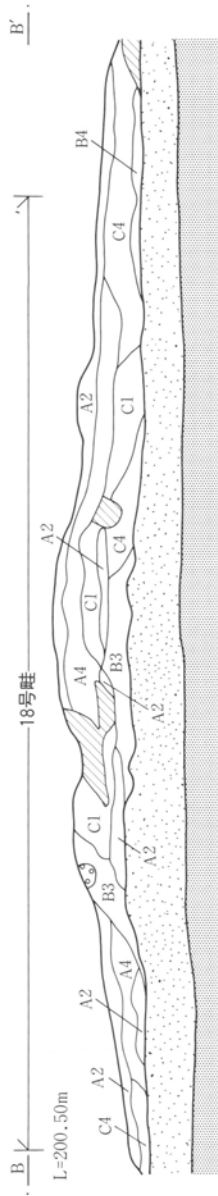
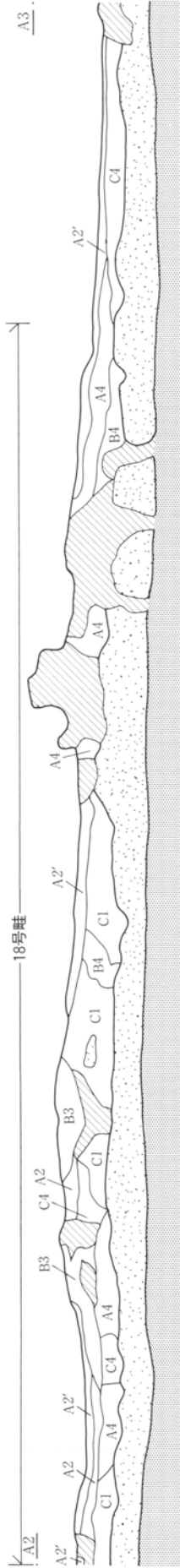


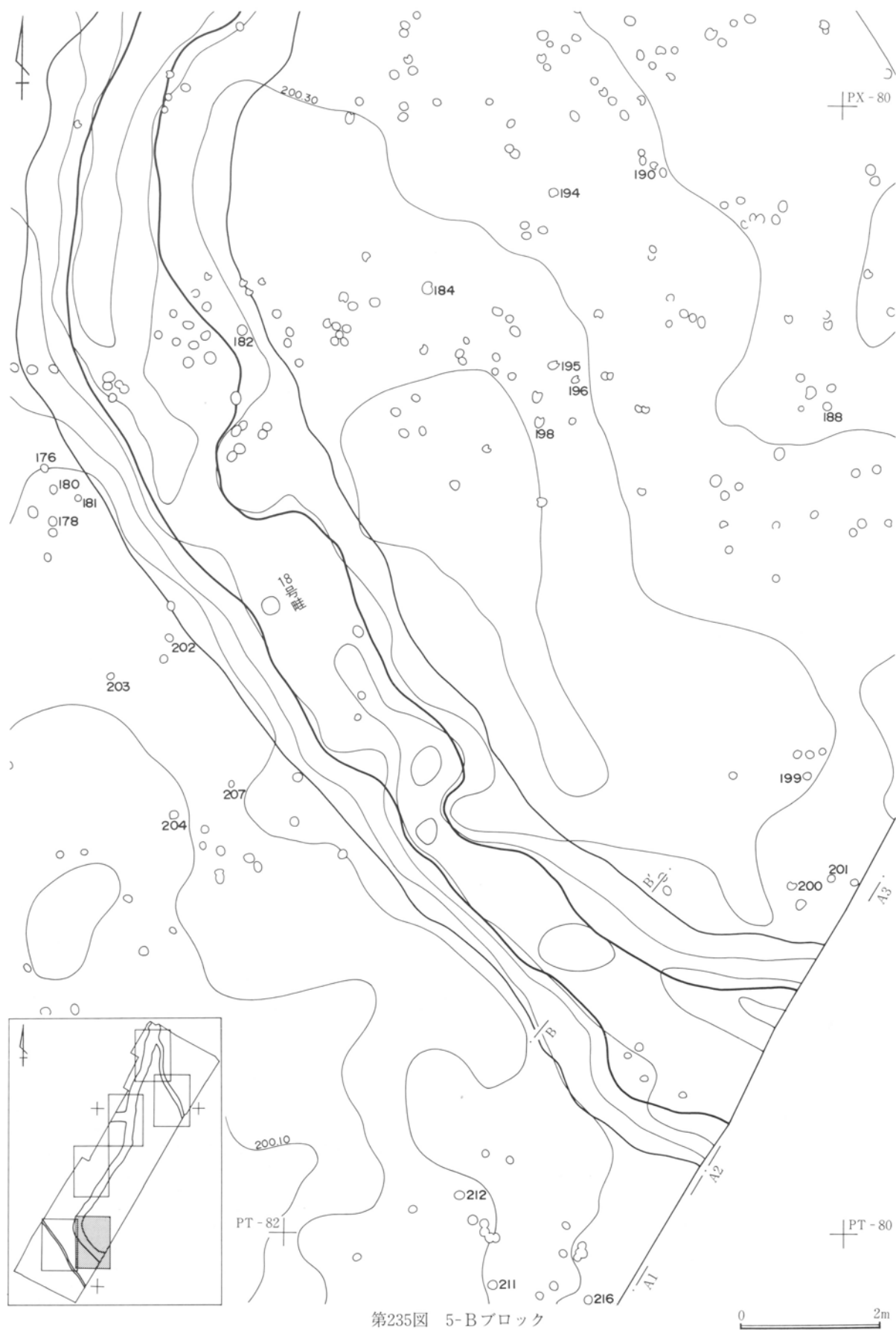
5-Bブロック全景（東から）



第234図 18号畦断面図

0 50cm



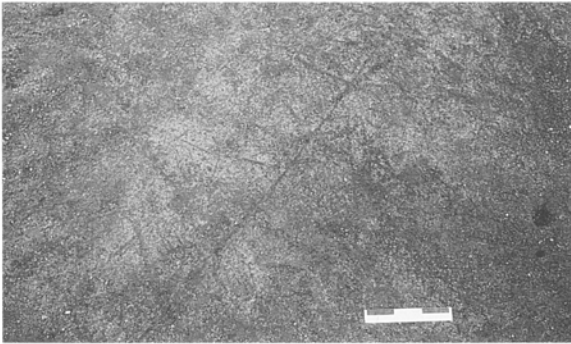


第235図 5-Bブロック

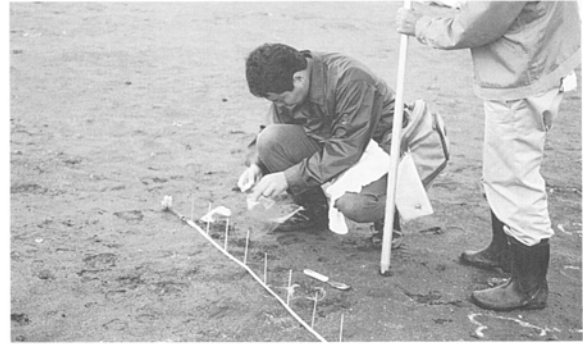
5-Cブロック

畦状遺構 18号畦：幅2.7m、高さ9cm、走向N-33.5°-W。 蹄跡 QD-80グリッド付近に多く分布する。その他 円形の高まりが数箇所認められ、表面が黒みを帯びているものがある。3箇所の高まりを横断するように、20mに渡って20cm間隔で植物

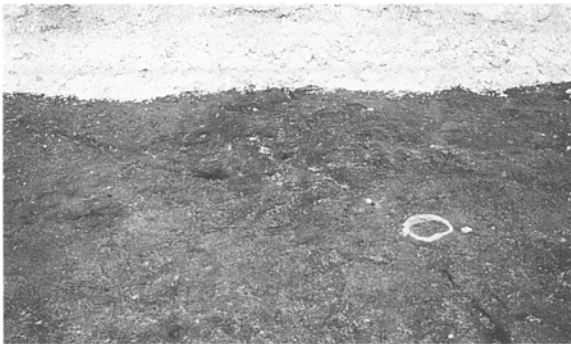
珪酸体分析を行った結果、高まり部分ではウシクサ族が他より多いことが判明した(P381参照)。このことから、これらの高まりはススキ等の根株跡と考えられる。また、QB-83杭の付近で、長さが90cmにおよぶ細長い植物痕が確認された。



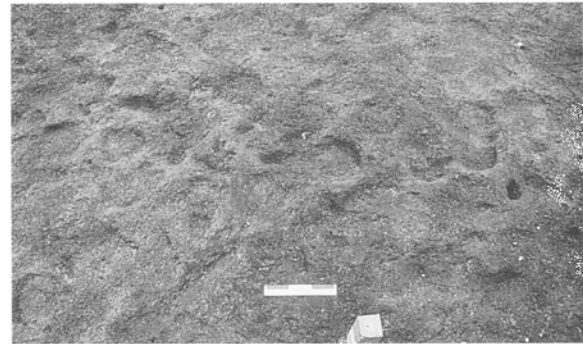
QB-83グリッド付近植物痕（西から）



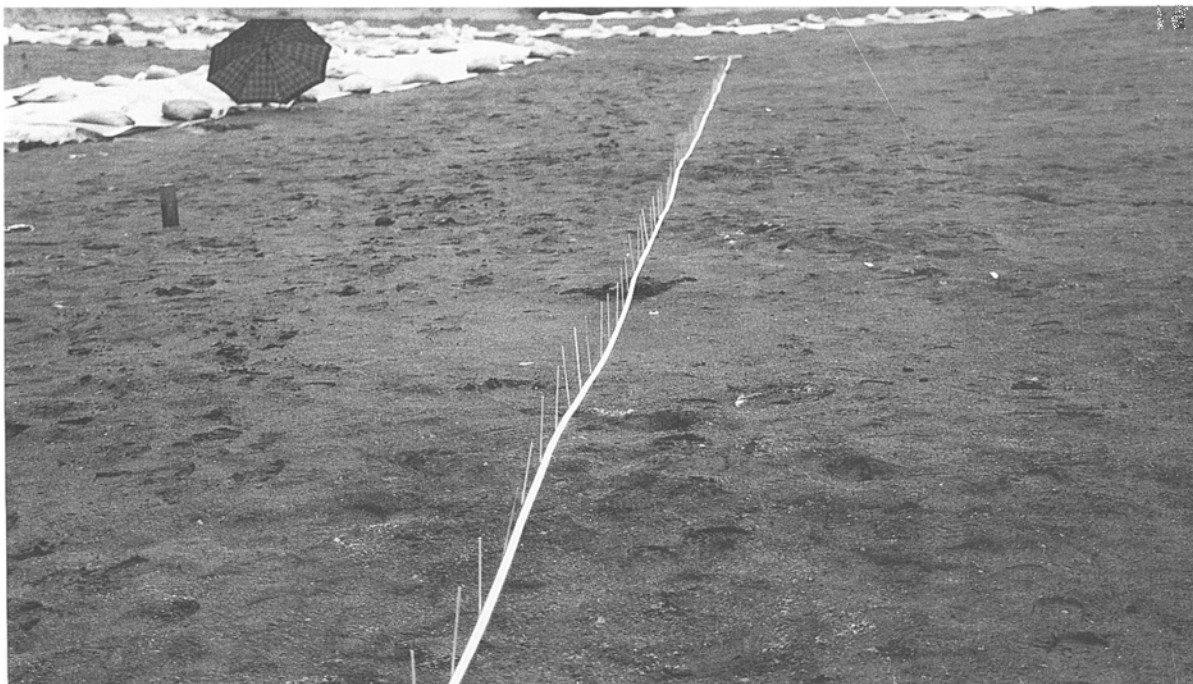
分析試料採取風景



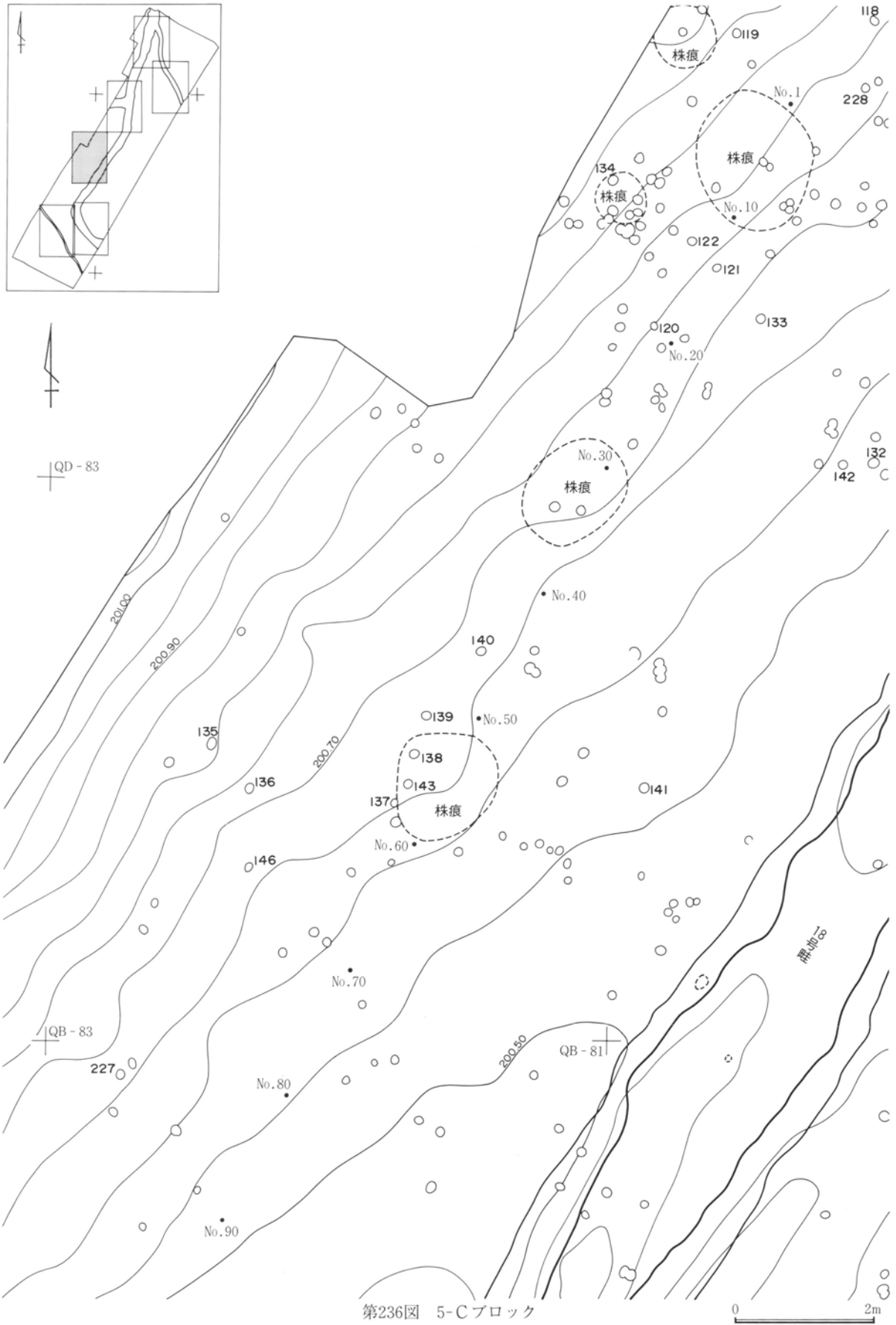
QE-81グリッド付近株痕（東から）



蹄跡集中部（北西から）

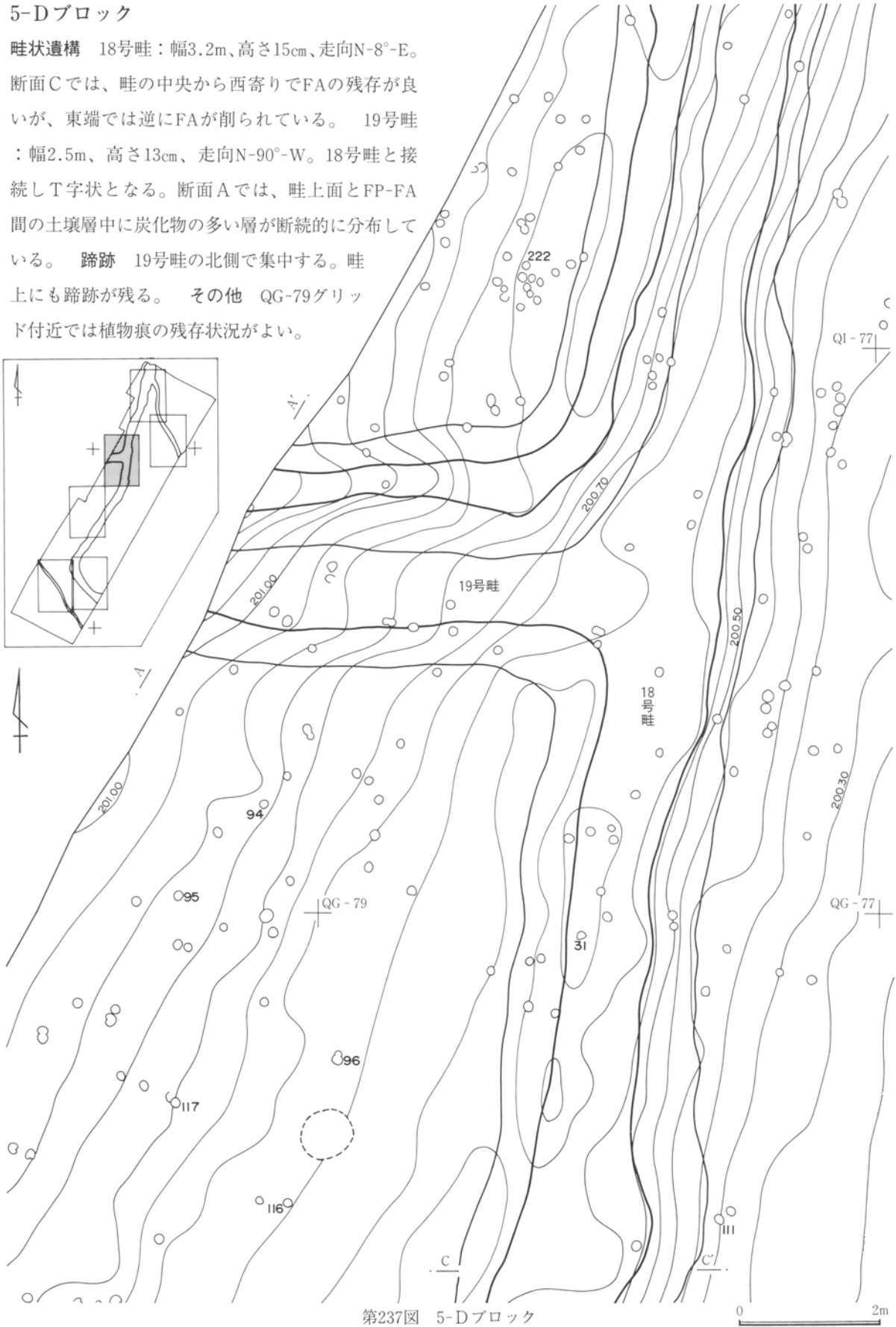


5-Cブロック全景（北東から）

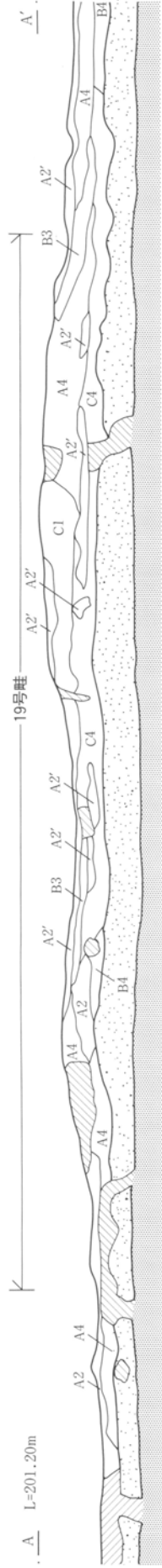
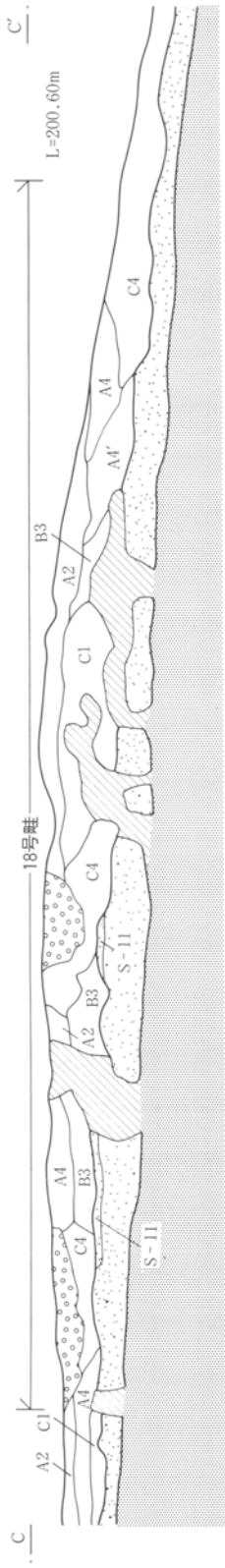


5-Dブロック

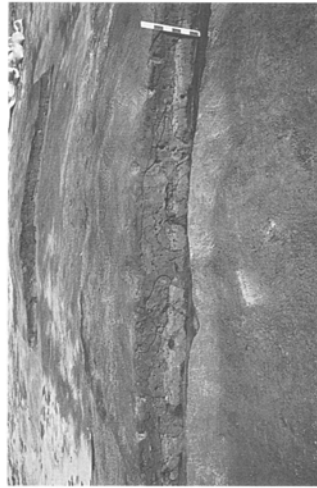
畦状遺構 18号畦：幅3.2m、高さ15cm、走向N-8°-E。断面Cでは、畦の中央から西寄りでFAの残存が良いが、東端では逆にFAが削られている。19号畦：幅2.5m、高さ13cm、走向N-90°-W。18号畦と接続しT字状となる。断面Aでは、畦上面とFP-FA間の土壌層中に炭化物の多い層が断続的に分布している。**跡跡** 19号畦の北側で集中する。畦上にも跡跡が残る。**その他** QG-79グリッド付近では植物痕の残存状況が良い。



第237図 5-Dブロック



第238図 18号・19号畦断面図



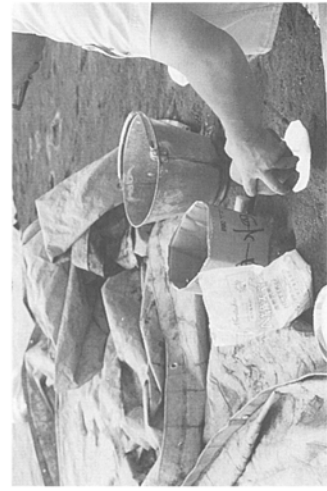
18号畦断面C (南から)



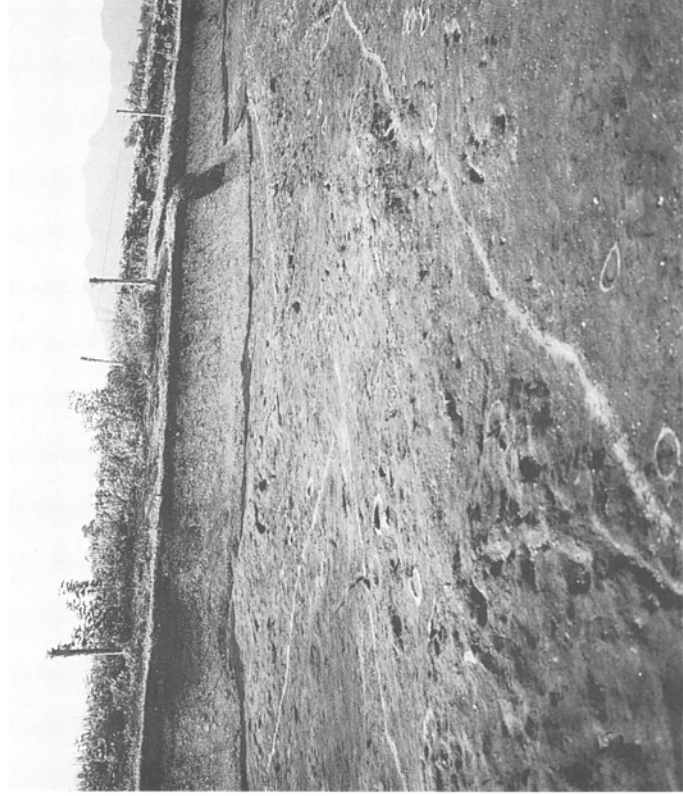
軽石除去前の跡跡 (北東から)



19号畦断面A (南から)



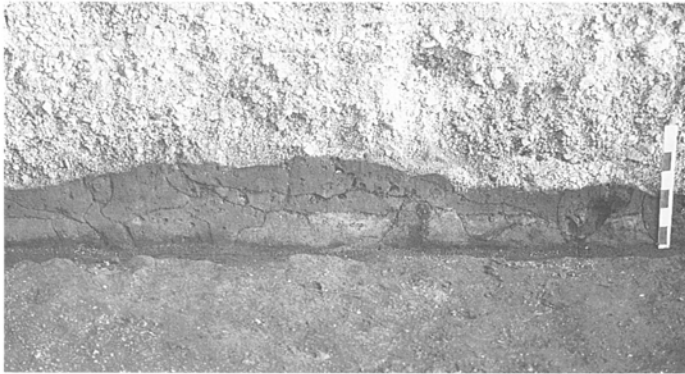
跡跡石膏入れ



5-Dブロック全景 (南から)

5-Eブロック

畦状遺構 20号畦：幅1.4m、高さ8cm、走向N-32°-W。
 18号畦・19号畦に比べ、幅が狭く高さも低い。表面は
 黒みを帯び、のっぺりとしている。断面Bでは、
 FP-FA間の土壌層中に炭化物の薄層を挟む。 蹄跡
 畦の両側とも多く、特にQK-74グリッドでは91個の蹄
 跡が確認された。20号畦上にも蹄跡がある。



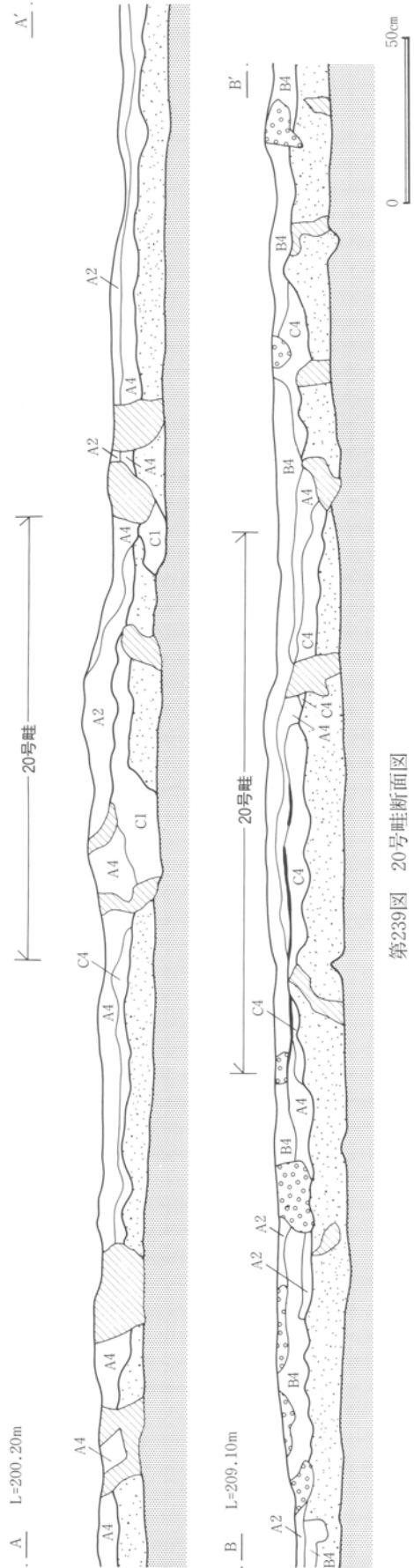
20号畦断面A（西から）

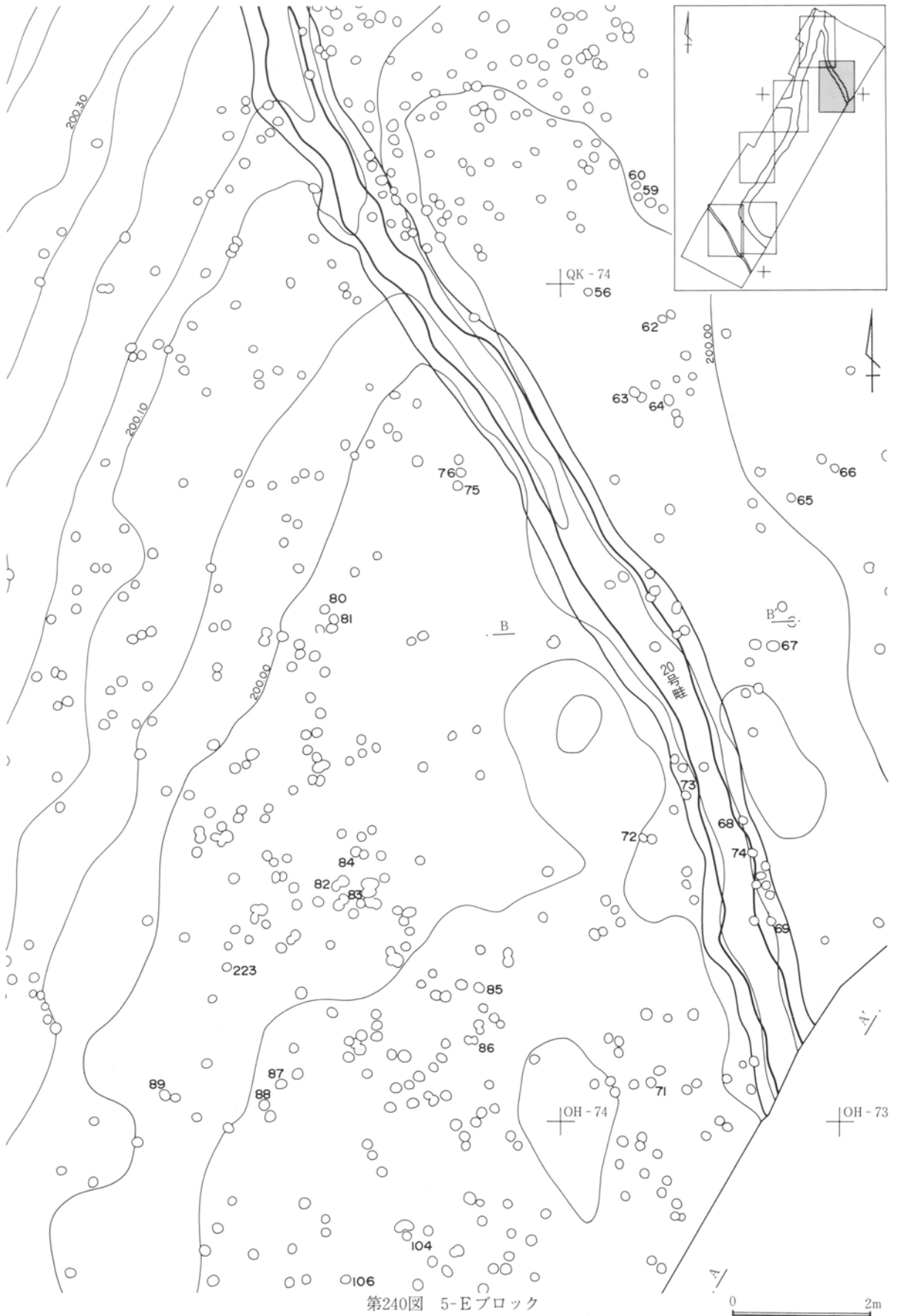


20号畦断面B（南から）



5-Eブロック全景（南東から）





第240図 5-Eブロック

5-Fブロック

畦状遺構 18号畦：幅3.2m、高さ13cm、走向N-17°-E。Dブロック以南では平坦面に伸びていた畦が、斜面部に伸びるようになる。表面は黒みを帯び、FP-FA間の土壤層中に炭化物の薄層を挟む。断面bでは、畦下部分にFAがS-11まで残っている。
 20号畦：幅0.8m、高さ5cm、走向N-5°-W。QN-75グリッドで18号畦と合流する。表面は黒みを帯びている。
蹄跡 18号畦と20号畦に挟まれた部分でやや多い所がある。畦上にも蹄跡が分布する。



5-Fブロック拡張部全景（北から）

北中道5区畦セクション

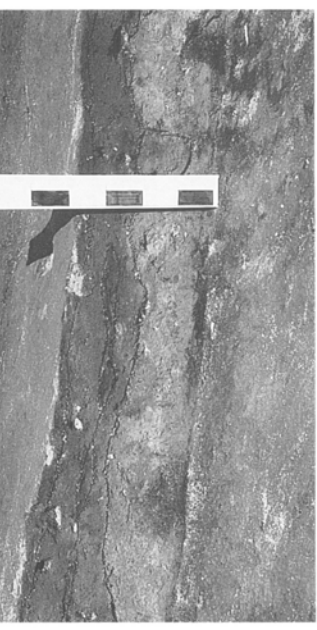
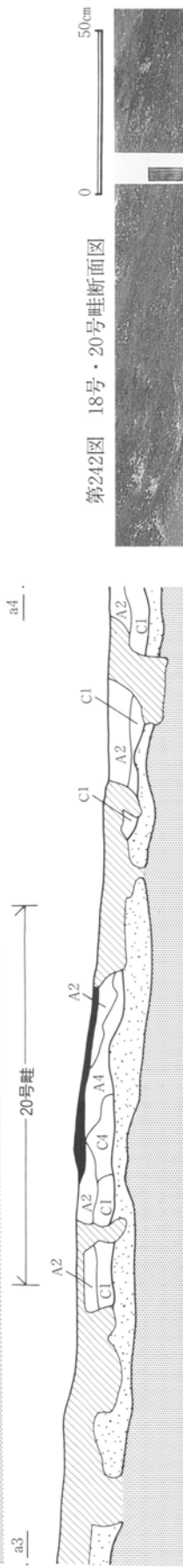
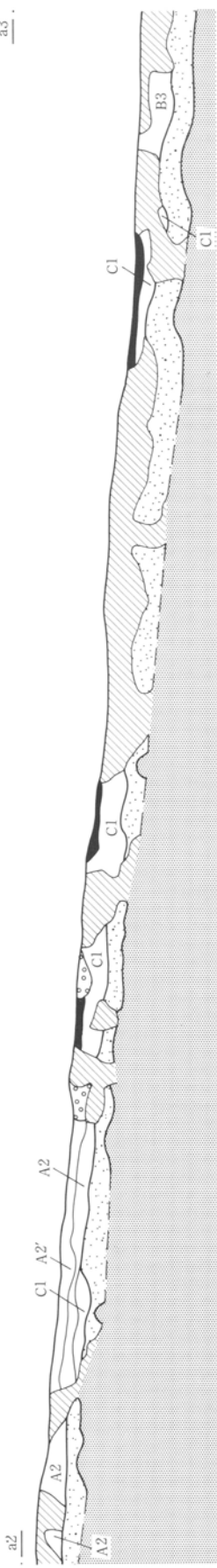
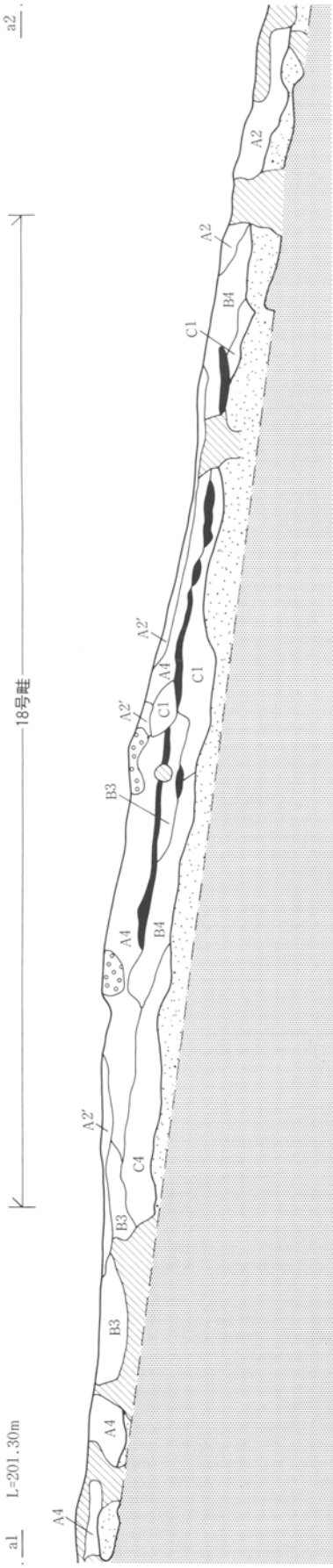
遺構番号	断面番号	幅m	高さcm	FP混じり土	炭化物	焼土	FAの残存	FA下面の凹凸	その他
18	A	3.6	11	—	△	—	—	僅かに凸	畦上に蹄跡あり。
18	B	2.5	14	—	△	—	—	—	中間に炭化物の多い層が断続的に見られる。
18	C	3.2	15	△	△	—	S-11○	僅か凹凸	東寄りでFAが削られている部分あり。
18	a	3.0	13	△	○	—	—	—	FA上面凹凸あり。
18	b	1.4	12	—	△	—	S-11○	—	畦上に蹄跡あり。
19	A	3.2	13	—	△	—	—	—	中間に炭化物の多い層が断続的に見られる。畦上に蹄跡あり。
20	A	1.0	8	—	△	—	—	—	FAの途切れる部分あり。
20	B	1.3	5	△	○	—	—	僅かに凹	畦上に蹄跡あり。
20	a	1.2	12	—	△	—	—	僅かに凸	畦上に蹄跡あり。
20	b	0.9	5	—	△	—	—	—	畦上に蹄跡あり。



5-Fブロック全景（北から）



第241図 5-Fブロック



18号畦断面a (拡大) (南から)



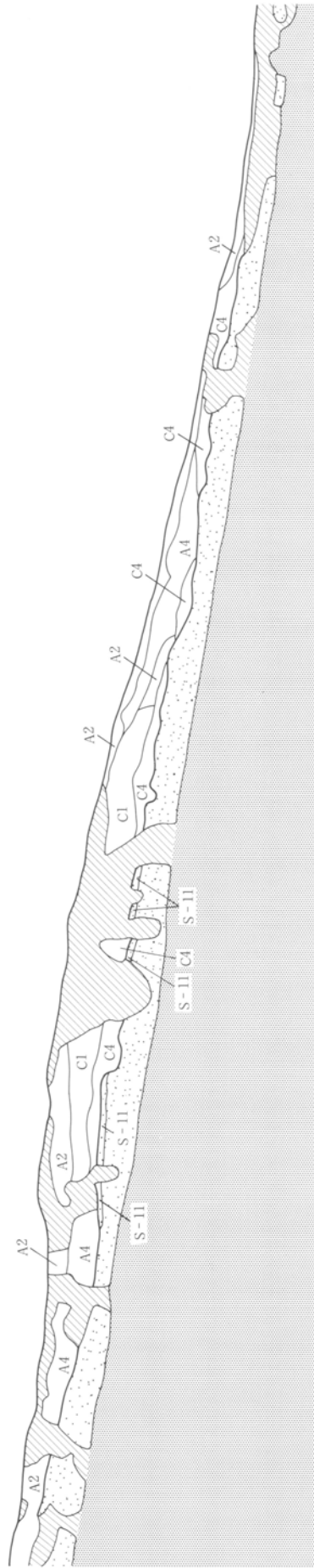
18号畦断面a (南から)

第242図 18号・20号畦断面図

b.1 L=201.40m

18号畦

b.2

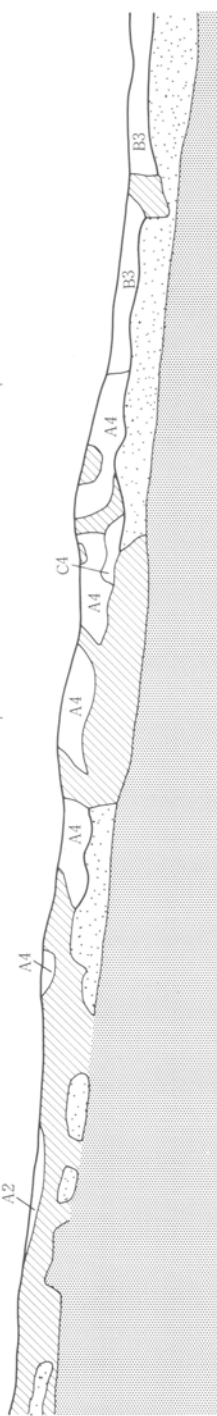


246

b.2

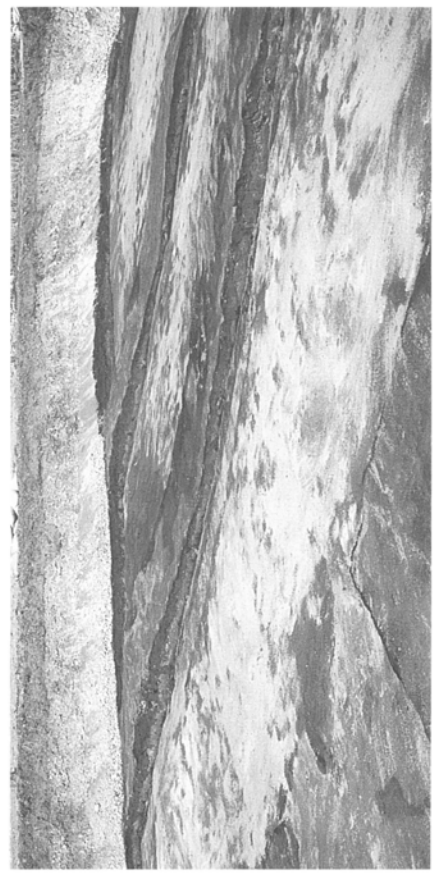
20号畦

b.3



0 50cm

第243図 18号・20号畦断面図



18号・20号畦断面b (南から)



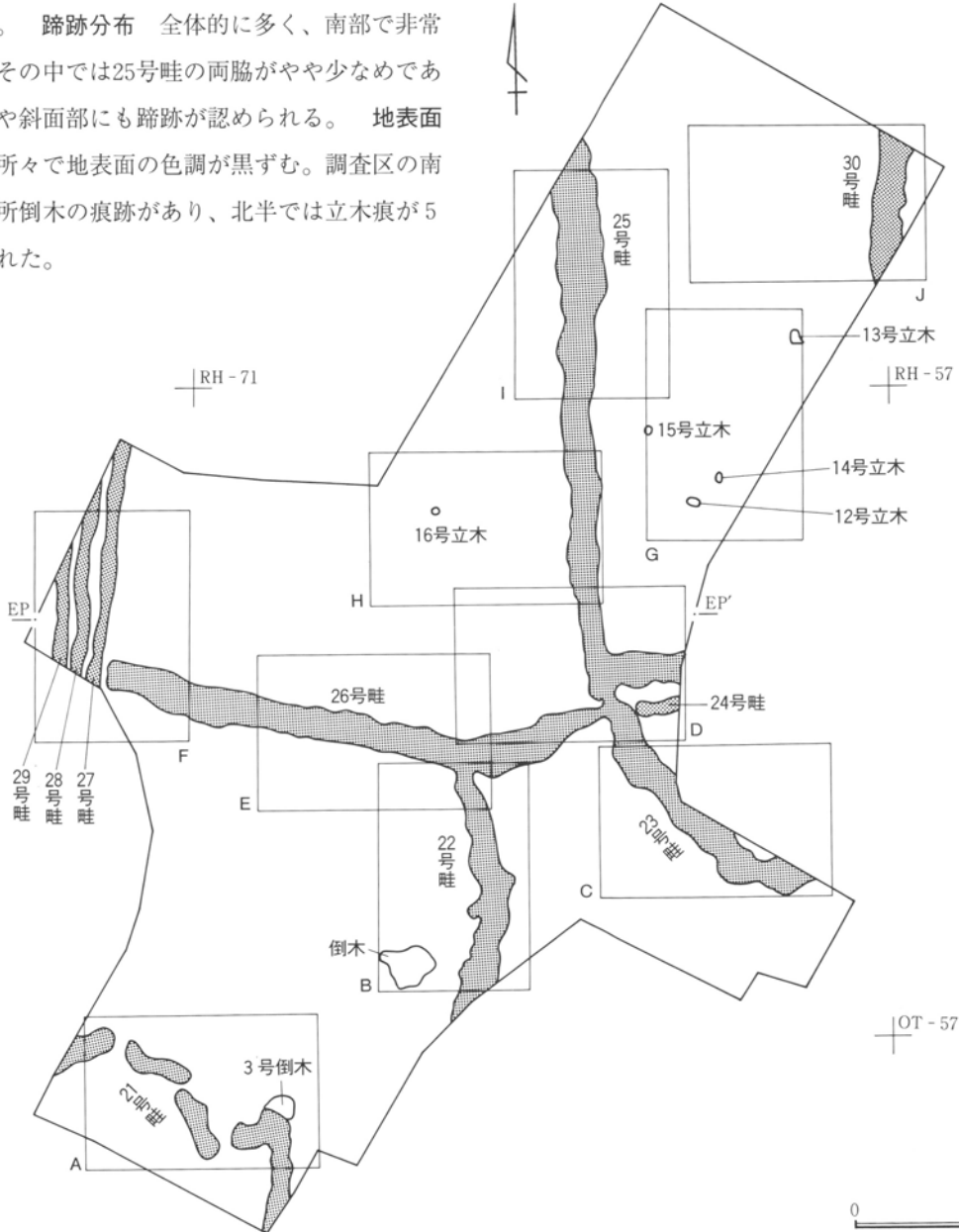
18号畦断面b (南から)

6区概要

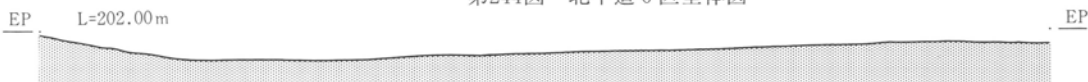
微地形 全体的にはほぼ平坦であるが、西寄りに浅い南北方向の谷があり、さらに西側は斜面となり比高差約3mの段丘となっている。**遺構** 畦状遺構は走向が、南北方向のものと東西方向のものが主体で、中央部を南北に伸びる25号畦上には、炭化材が認められる。西側の斜面部には3本の畦状遺構が並んでいる。調査区の南端にはとぎれとぎれに続く畦状遺構がある。**跡分布** 全体的に多く、南部で非常に多い。その中では25号畦の両脇がやや少なめである。畦上や斜面部にも跡が認められる。**地表面の様子** 所々で地表面の色調が黒ずむ。調査区の南半で2箇所倒木の痕跡があり、北半では立木痕が5本検出された。



北中道6区調査前の様子



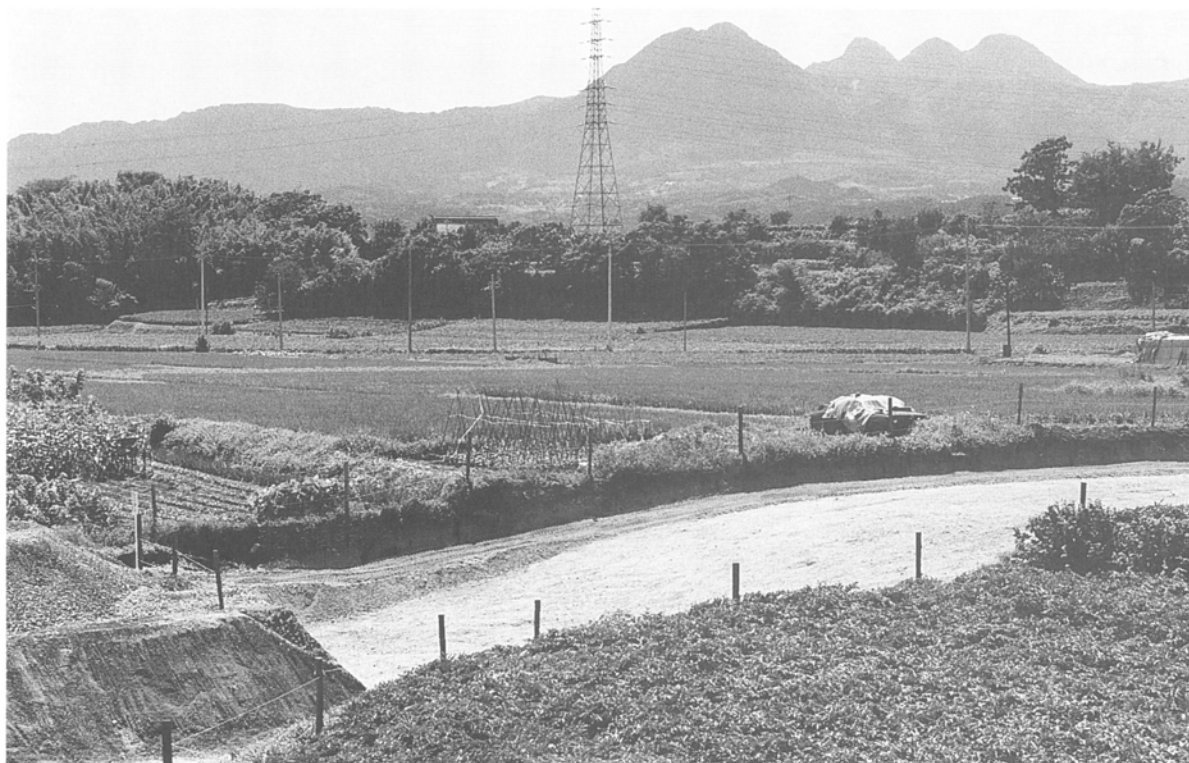
第244図 北中道6区全体図



第245図 6区断面図



第3章 FP層下面の調査



国道17号・国道353号バイパス接続部より榛名山を望む（北東から）



北中道6区全景（南西から）

6-Aブロック

畦状遺構 21号畦：幅2.0m、高さ8cm、带状の高まりがとぎれとぎれに続く。走向は全体的にはN-31°-Eだが、ジグザグ状に並び、個々ではばらばらの走向である。**蹄跡** 全体的に多く、西部で非常に多い。残存状況も良好で、畦上にも蹄跡が認められる。**倒木** 3号倒木(詳細はP357)：FA災害時の倒木であるが、FP下面で上幅約2.2m、深さ約17cmのすり鉢状の落ち込みとして確認された。これは根株のあった部分に相当する。**その他** 地表面が黒みを帯びている部分があり、そこでは蹄跡が少ない。



21号畦断面A (南東から)



第246図 21号畦断面図

0 50cm



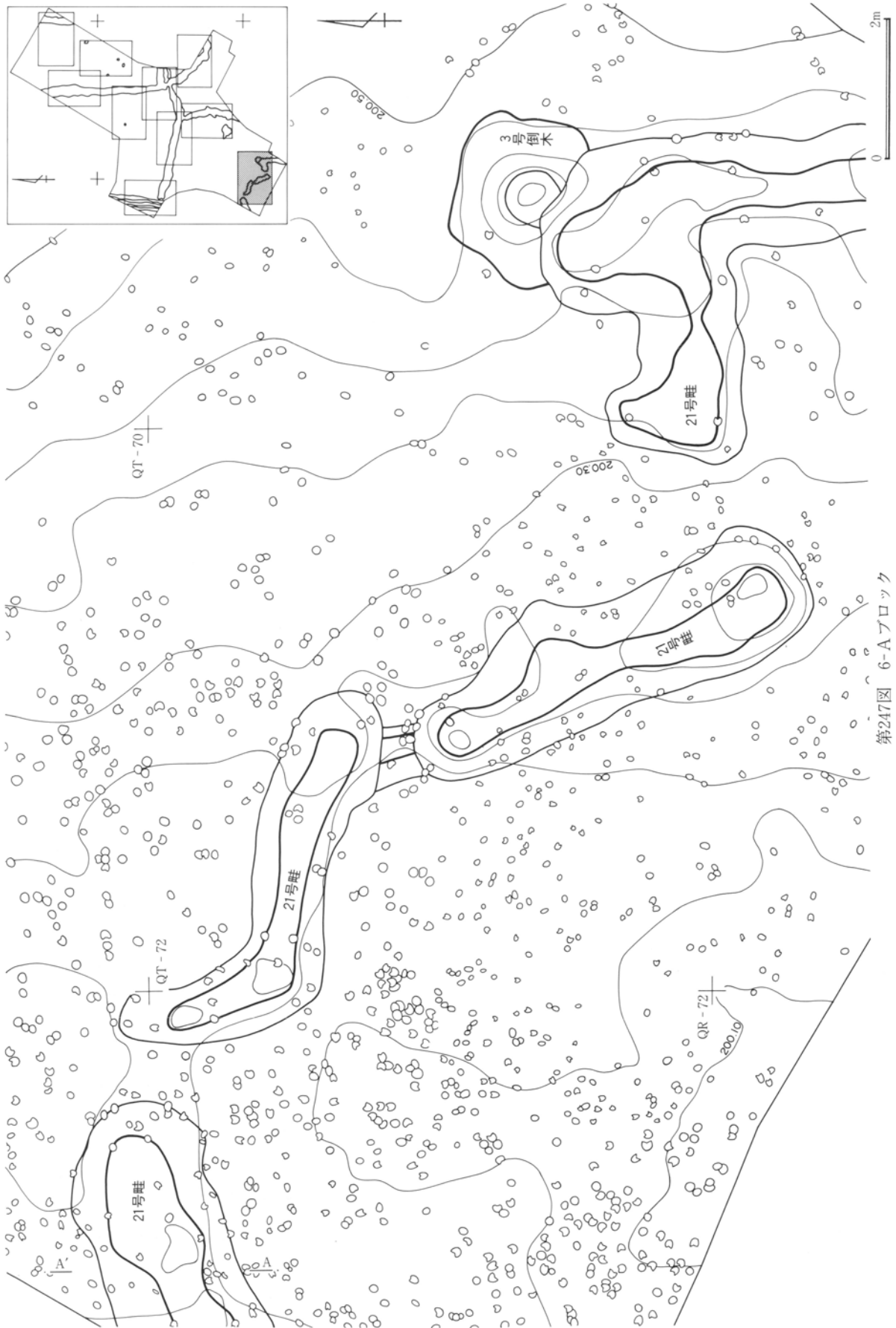
3号倒木 (西から)



QR-72グリッド付近蹄跡 (北西から)



6-Aブロック全景 (北西から)

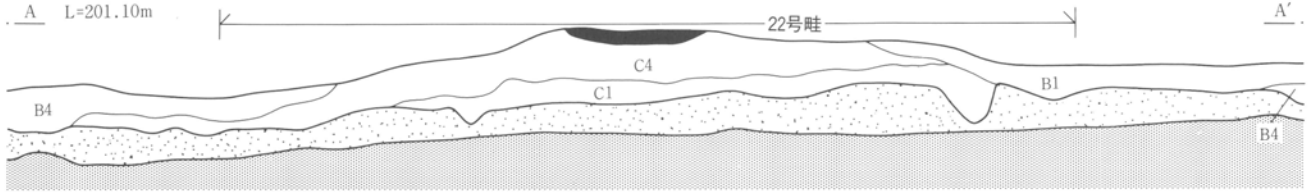


第247図 6-Aブロック

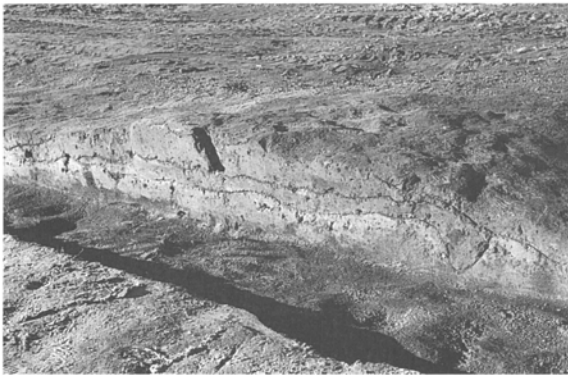
6-Bブロック

畦状遺構 22号畦：幅2.4m、高さ14cm、走向N-4°-W。断面図には表れていないが、地表面は薄い黒褐色土が広がる。26号畦との接続部分は、その手前まで高さが9cmであったものが、高さ4cmと低くなっ

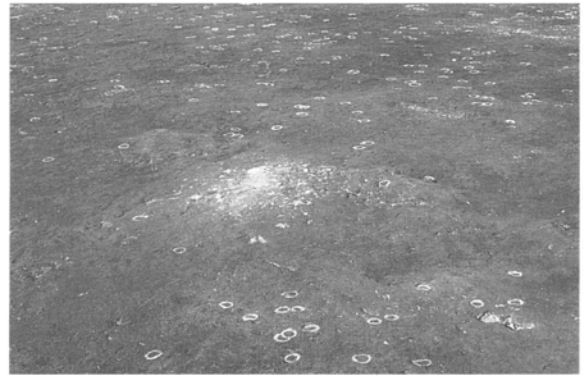
ている。 蹄跡 中程度の分布量であるが、6区の中ではやや少ない。畦上にも蹄跡が認められる。 倒木 QU-66グリッドに楕円形の高まりがあり、礫混じりのローム質の土壌が露出している。これはFA降下以前の倒木の痕跡である。



第248図 22号畦断面図



22号畦断面A (南から)

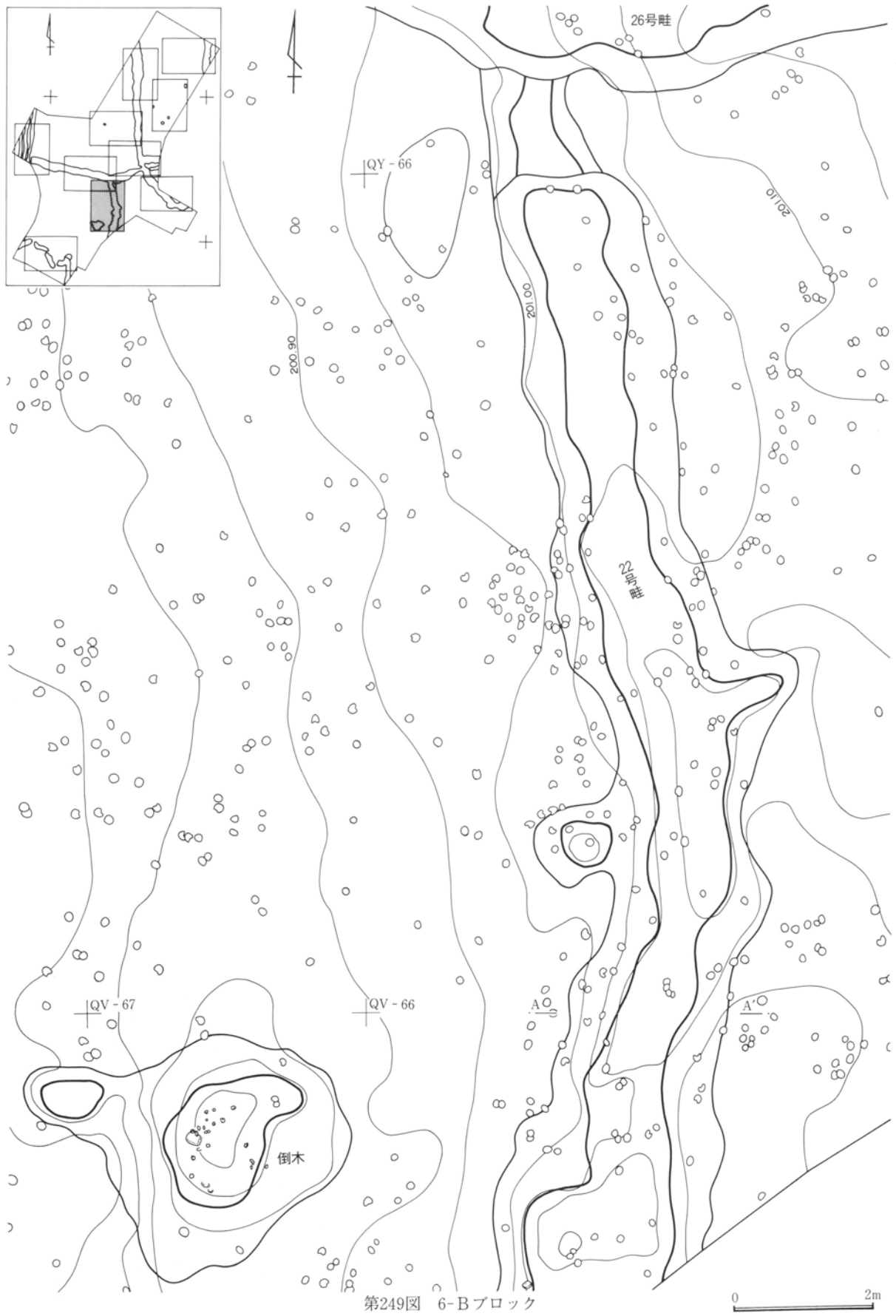


QU-66グリッド倒木 (南から)



6-Bブロック全景 (南から)

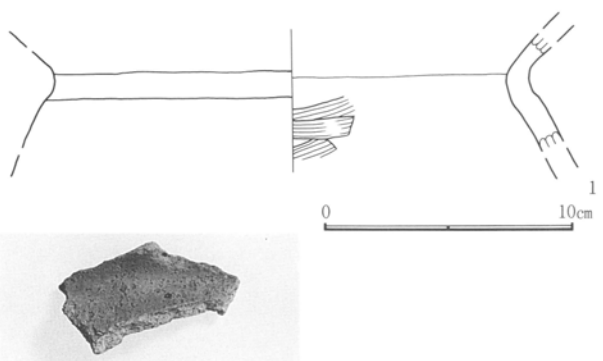
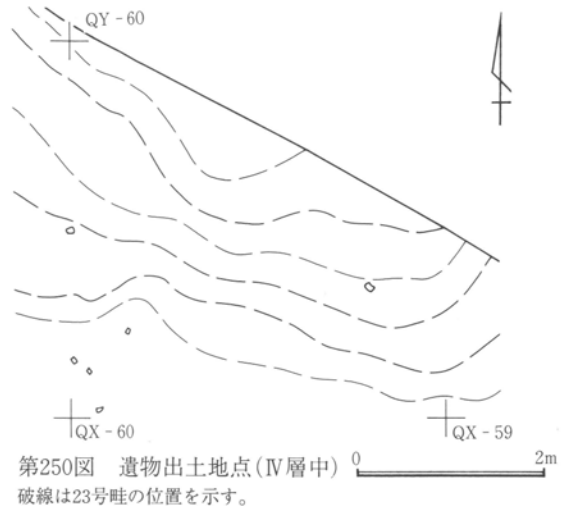
第3章 FP層下面の調査



第249図 6-Bブロック

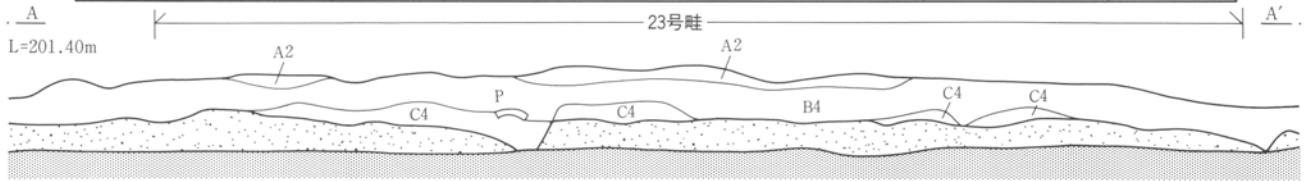
6-Cブロック

畦状遺構 23号畦：幅2.8m、高さ10cm、走向N-42°-W。緩やかな弧を描くように伸びる。南西側が高く、北東側にやや低い高まりがあり、それらが並ぶような形態をとる。**蹄跡** 分布量は中程度であり、畦上にも蹄跡が認められる。**遺物** QW-59グリッドで、同一個体と思われる土師器の甕の口縁部、頸部、胴部の破片が、FP-FA間の土壌層中より、6点出土した。これらは、23号畦とその脇にあたる部分の下位に位置し、No. 6はFP直下面より9cm下で検出された。その他 植物痕の残存状況が良い。



第251図 6-Cブロック出土遺物

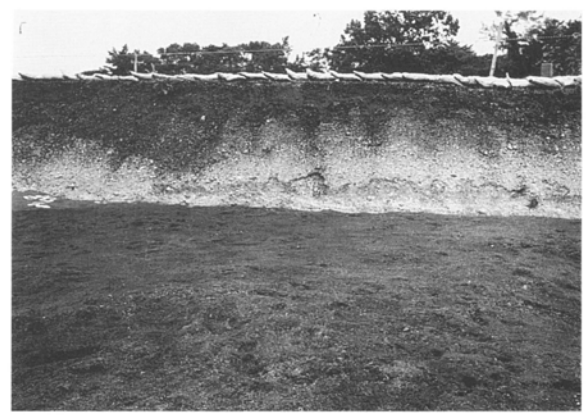
番号	種類 器種	出土 層位	法量 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1	土師器 甕	IV層	口— 底— 高—	外面 口縁部下位横撫で、胴部縦位宛撫で後撫で 内面 口縁部横撫で、胴部横位宛撫で	①粗粒砂 ②普通 ③にぶい橙色	破片



第252図 23号畦断面図



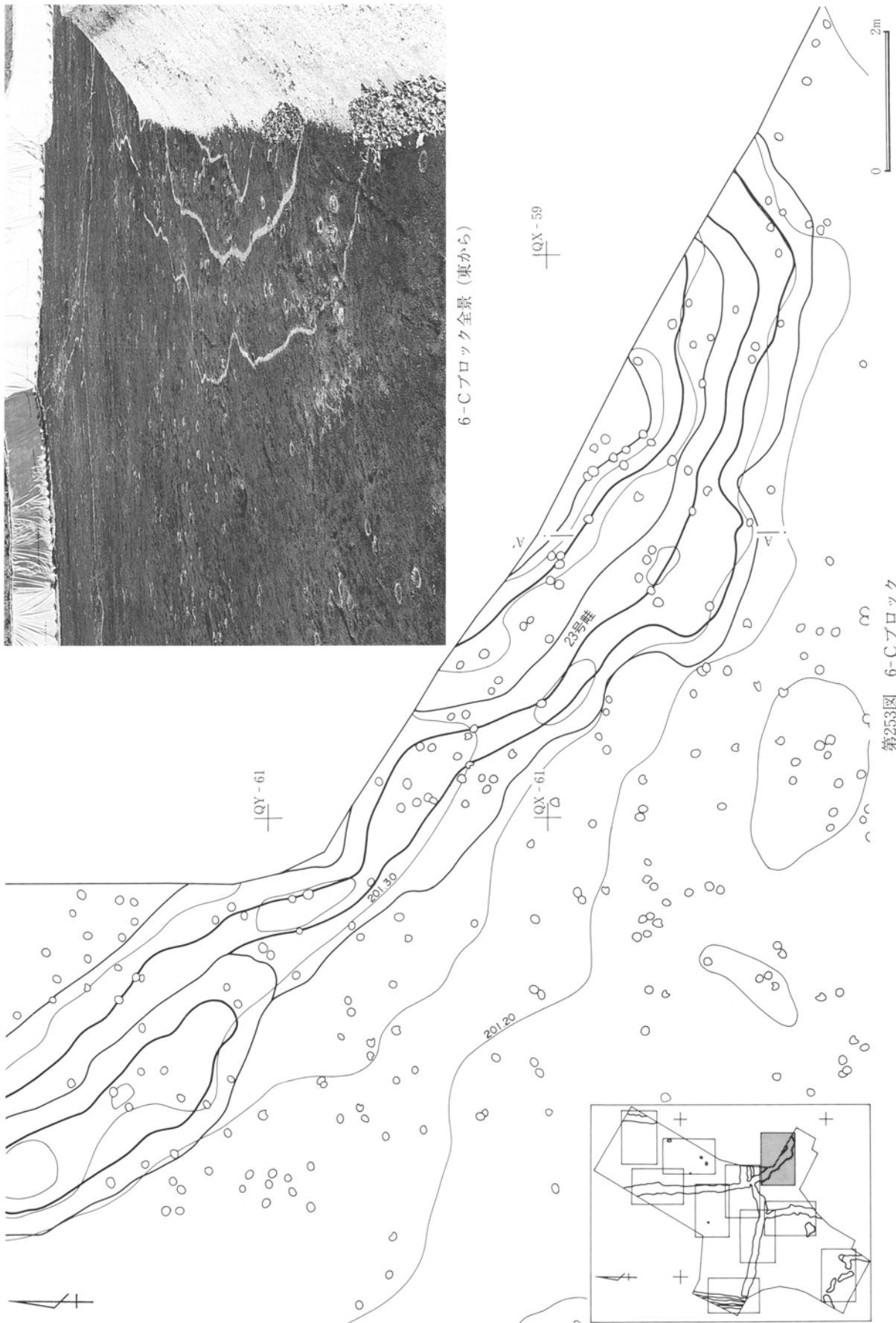
23号畦断面A (南東から)



QW-59グリッド付近蹄跡 (南から)



6-Cブロック全景 (東から)

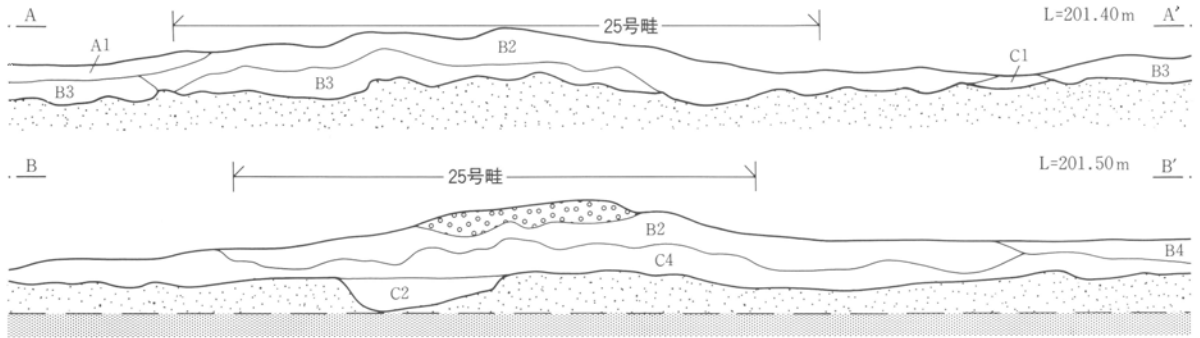


第253図 6-Cブロック

6-Dブロック

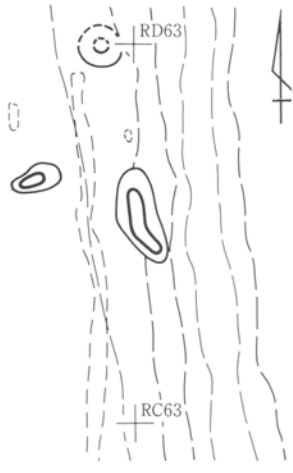
畦状遺構 25号畦：幅2.4m、高さ13cm、走向N-5°-W、N-87°-E。RB-62グリッドでほぼ直角に向きを変え、その変換点で23号畦と交わる。交点部分は高さが低い。畦上で数点炭化材が検出され、RC-63グリッドでは、畦に沿うように約4.7mにわたって炭化物の痕跡が認められた。畦の東側と北側は、畦に

沿って僅かに低い。26号畦：幅2.2m、高さ9cm、走向N-71°-E。23号畦との接続部分は、低くなっており、幅も狭い。24号畦：幅1.0m、走向N-84°-E。
蹄跡 25号畦西側から26号畦の北側にかけて、畦の脇では蹄跡が少ない。25号畦の東西方向に伸びる部分では、畦上に多くの蹄跡が残る。

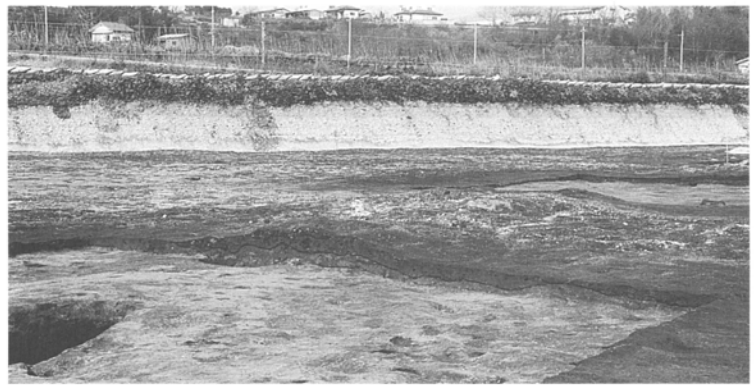


第254図 25号畦断面図

0 50cm



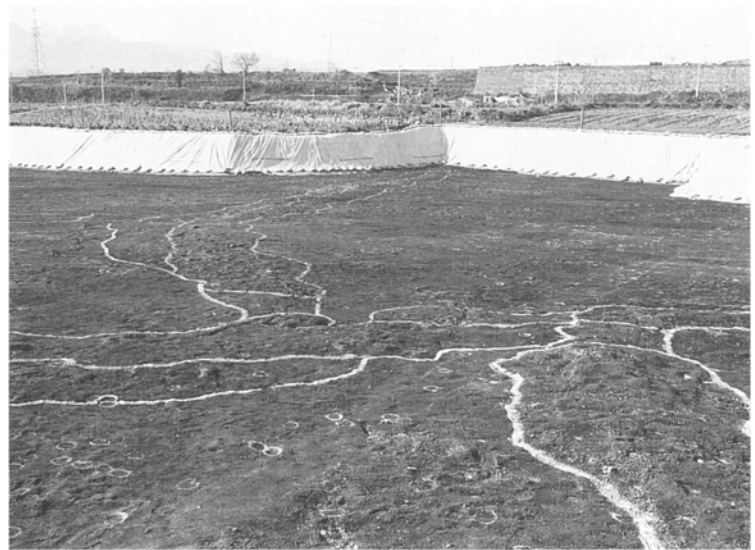
第255図 畦下のピット位置図
破線は畦と畦上の炭化材の位置を示す。



25号畦断面B（南東から）



炭化材出土状態（北から）

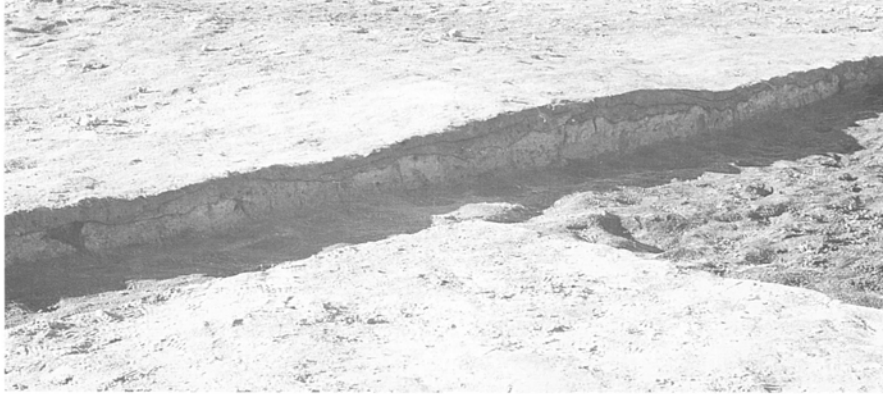


6-Dブロック全景（東から）

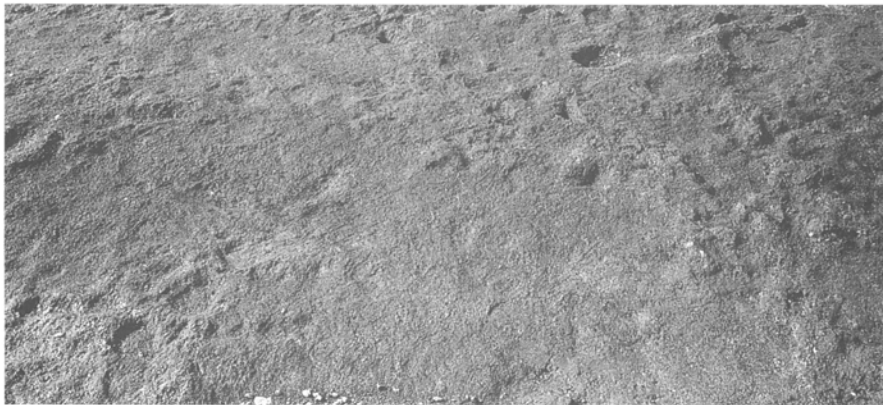
6-Eブロック

畦状遺構 26号畦：幅2.2m、高さ7cm、走向N-13°-W。北側に高い、南側にやや低い高まりがあり、それらが2列平行したり、1つにまとまったりしな

がら伸びる。 蹄跡 中程度の分布で、西へ行くほど多くなる。畦の上にも認められる。



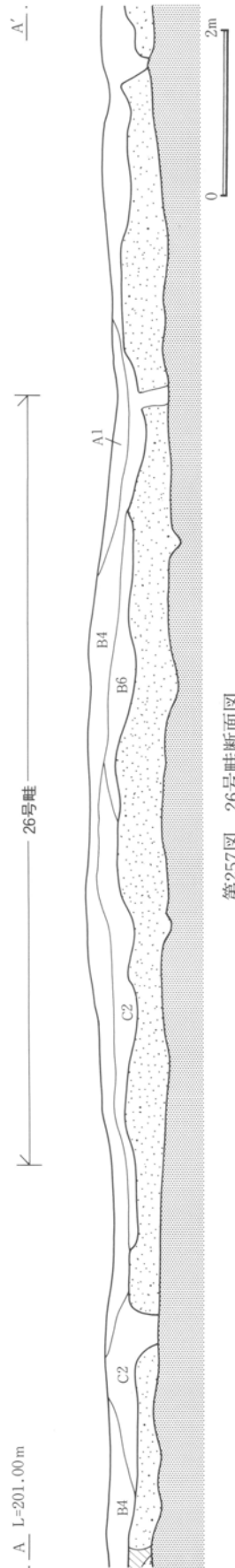
26号畦断面A (南東から)



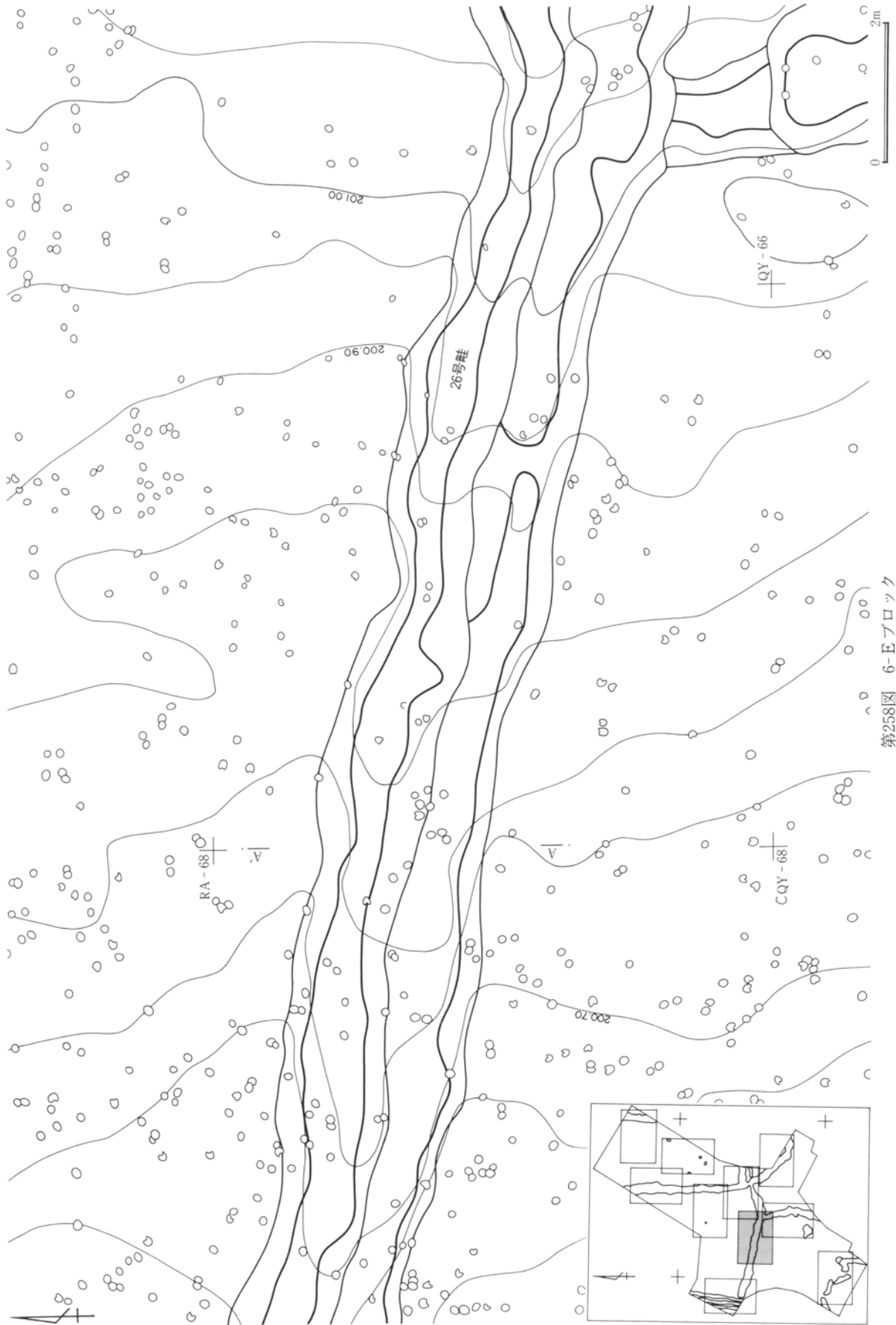
RB-66グリッド付近蹄跡 (東から)



6-Eブロック全景 (西から)



第257図 26号畦断面図



第258図 6-Eブロック

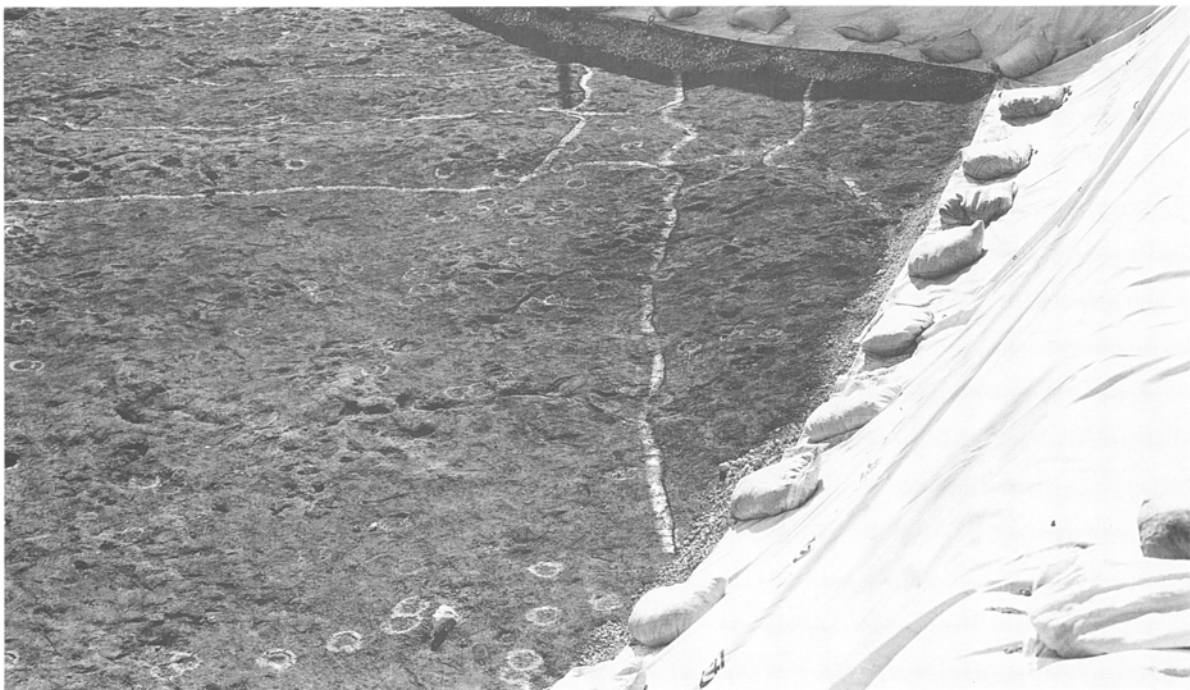
6-Fブロック

畦状遺構 26号畦：幅2.8m、高さ8cm、走向N-74°-W。27号畦の手前で収束し、27号畦との間に約60cmの間隔がある。27・28・29号畦：幅1.0m、1.0m、1.0m、高さ5cm、走向N-4°-W。西に向かって高くなる斜面の裾に近いところで、等高線にやや

斜行して、3本の畦が平行に伸びる。跡跡 中程度の分布で、畦上や斜面部にも確認できる。その他 このブロックは国道17号線と国道353号線の境界部分にあたる。27・28・29号畦については、既刊の『白井北中道Ⅱ遺跡』報告書に10・11・12号畦として掲載されているものを、再び掲載した。



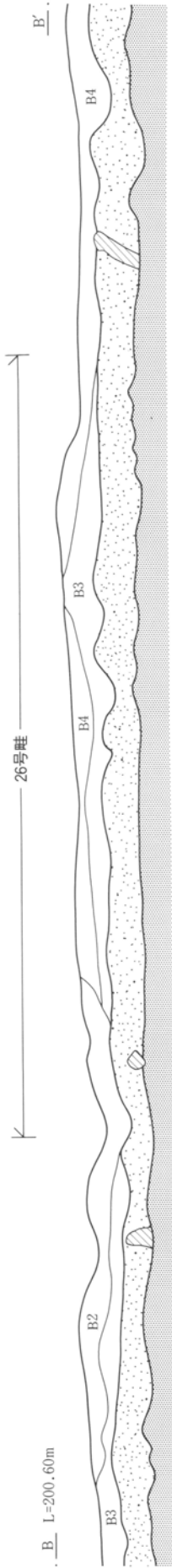
27号・28号・29号畦（奥は北中道Ⅱ遺跡の調査区）（東から）



26号・27号畦（北から）



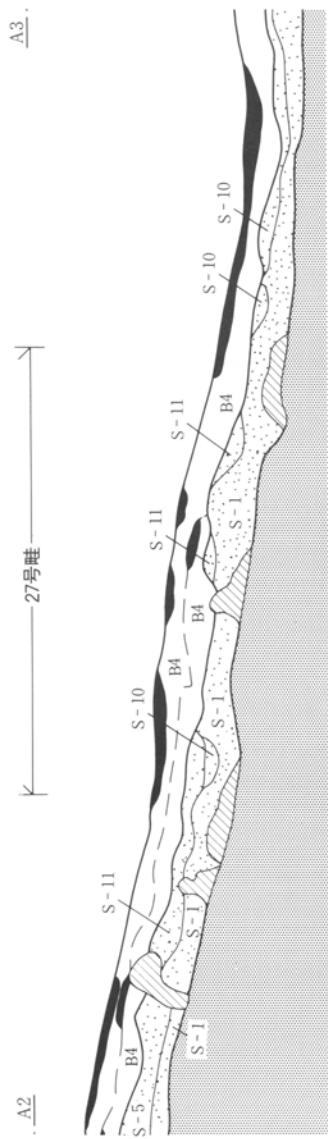
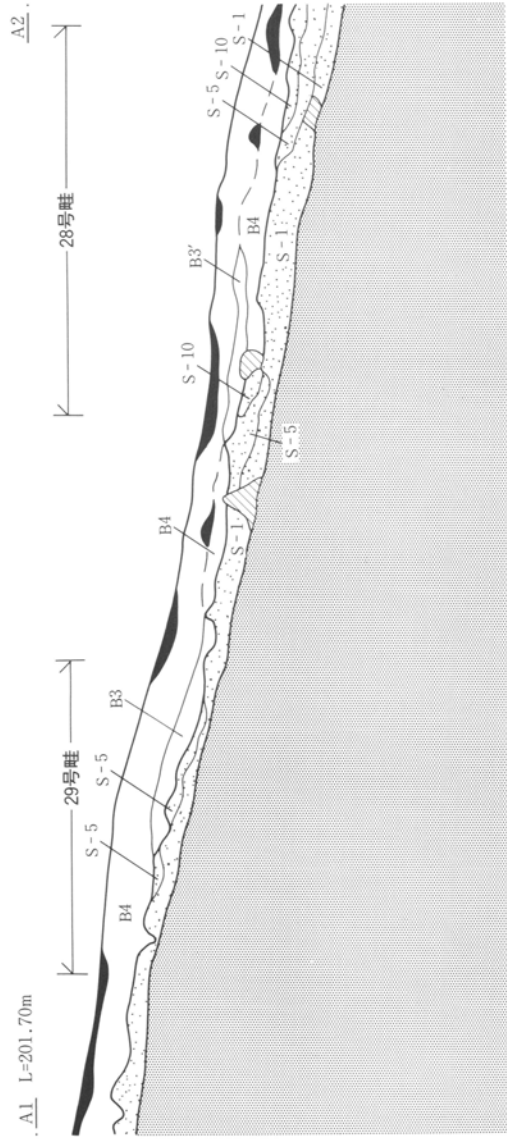
第259図 6-Fブロック



26号畦断面B (南東から)



RB-72グリッド跡



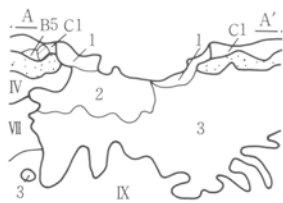
第260図 26号・27号・28号・29号畦断面図

第3章 FP層下面の調査

6-Gブロック

跡跡 やや多い。立木 12号立木：長径90cmの楕円形の落ち込みで、根跡部分の土層はFPを含む。13号立木：長径1.12mの不定形な落ち込みとして確認された。14号立木：長径60cmの楕円形の落ち込み。15号立木：長径45cmの楕円形の落ち込み。遺物 RF-61グリッドで、土師器甕の口縁部の破片が3点検出された。これはQW-59グリッド出土の破片と、同一個体と思われる。その他 RG-60グリッドで径約15cmの礫が2点検出され、僅かに地面

に埋まり込んでいる。これらは倒木によるものではない。また、RH-59グリッドには細かな炭化物片が散っている箇所がある。



- 1 灰褐色土。FP、炭化物を含む。縮まり弱い。
- 2 暗褐色土。FPを含む。縮まり弱い。
- 3 暗褐色土。FP、基本土層IX層を含む。縮まり弱い。

L=201.00m
0 1m

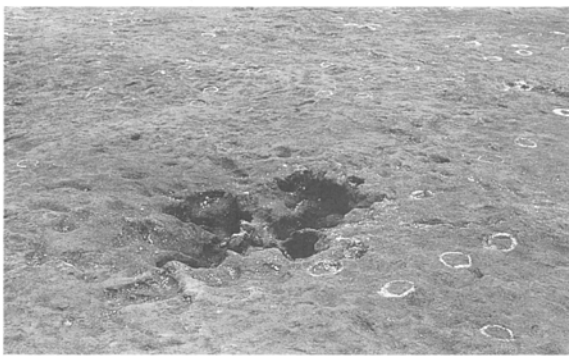
第261図 12号立木断面図



6-Gブロック出土遺物



12号立木断面 (南から)



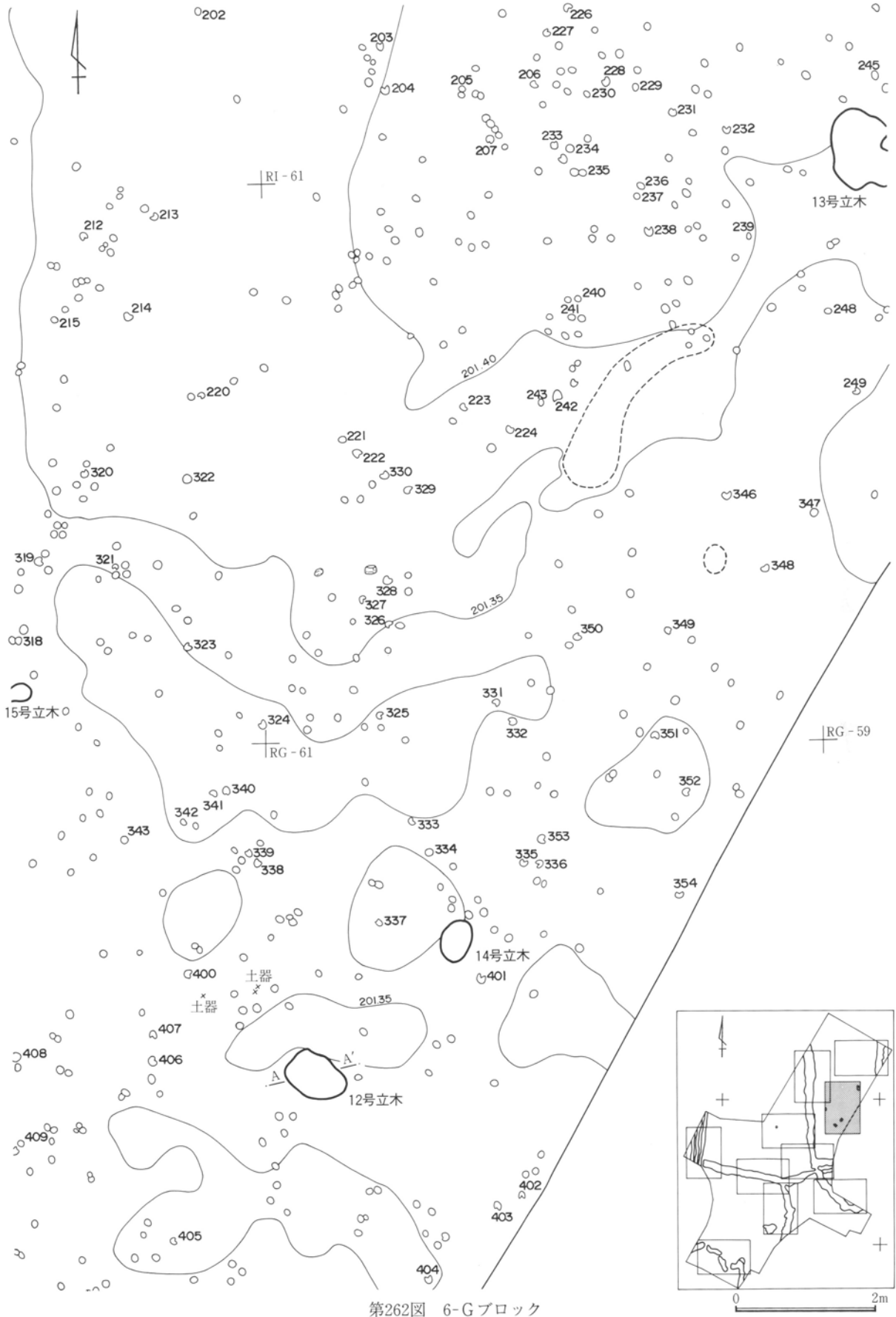
13号立木 (東から)



12号・14号立木(12号立木はFPを除去する前の状態) (南から)



6-Gブロック全景 (南から)

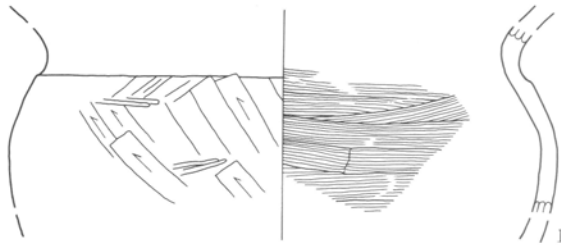


第262図 6-Gブロック

6-Hブロック

畦状遺構 25号畦：幅2.2m、高さ7cm、走向N-4°-W。直線的に伸び、畦の東側は、畦に沿って僅かに低い。畦上の所々に炭化材があり、木目が畦に沿っている。**蹄跡** 畦の脇で少ないが、その他ではやや多い。**立木** 16号立木：径35cmの円形の落ち込みとして確認された。**遺物** RE-62グリッドの25号畦脇で、土師器甕の頸部の破片が、FP-FA間の土壌層より、1点出土した。これは、QW-59グリッドで出土した破片と、同一個体と思われる。その他 RF-67グリッドで炭化材を検出した。炭化材

の破片の残存状況から、元は長さ140cmのもの90cmのもの2本であったと推定できる。

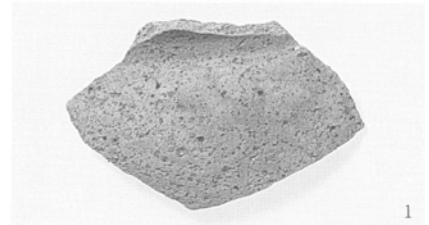


第264図 6-Hブロック出土遺物

0 10cm



第263図
遺物出土地点（IV層中）
破線は25号畦の位置を示す。



番号	種類 器種	出土 層位	法量 (cm)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1	土師器 甕	IV層	口— 底— 高—	外面 口縁部横撫で、胴部斜縦位篋撫で後撫で 内面 口縁部横撫で、胴部横位篋撫で	①粗粒砂 ②普通 ③にぶい橙色	破片



6-Hブロック全景（手前の窪みは16号立木）（西から）